

瀬戸市の教育

平成28年度



小中学生によるあいさつ運動

瀬戸市教育委員会

はじめに

平成28年度、「第2次瀬戸市教育アクションプラン」の策定によって、瀬戸市の教育は新たな一步を踏み出しました。

「自ら考え、学び、生き抜く力」を中核に据え、「自立」、「協働」、「創造」、「共生」、「挑戦」の5つの基本的な方向を目指します。

平成13年度に四半世紀を見通して策定された「瀬戸の教育を創造する市民会議」の答申に於いて示された、「瀬戸市の教育理念」

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」

瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育てて良かった」

瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

を礎に、平成37年度を持って完結する「第2次瀬戸市教育アクションプラン」が25年の時を刻んで行きます。

本年度は、瀬戸市の重要な教育課題であります小中学校の適正規模・適正配置、とりわけ、全庁を上げて取り組む「小中一貫校」の新設準備、本年度新たに導入した「教育サポートセンター」の開設、「日本語初期指導教室」の本格実施とともに、平成32年度の新学習指導要領の実施に向けた、新たな教育へ準備が始まっています。

そうした過渡期において、平成28年度の教育概要を取りまとめました。本市の教育行政をご理解頂くために役立てて頂くこと、そして、「子どもたちの幸せ」を願い、皆様と協働して教育をつくり上げていくことを切にお願い申し上げます。

平成28年12月

瀬戸市教育委員会
教育長 深見和博

目 次

I 教育行財政

- 1 瀬戸市の沿革 1
- 2 教育委員会組織機構図 2
- 3 教育委員会職員数 3
- 4 事務の補助執行 3
- 5 歴代教育委員 4
- 6 歴代教育長 5
- 7 教育財政 6
- 8 教育アクションプラン 8
- 9 教育アクションプラン推進会議 . . . 15
- 10 瀬戸市教育大綱 16
- 11 瀬戸市総合教育会議 17

II 学校教育

- 1 瀬戸の学校教育でめざすもの 18
- 2 具体的な取組 19
- 3 教職員の研修 34
- 4 学校の状況 39
- 5 学校施設一覧 43
- 6 瀬戸市立小学校の適正配置 45
- 7 隣接学校選択制 47
- 8 就学・私学助成制度 49

III 学校給食

- 1 学校給食の方針 51
- 2 学校給食の現況 51

IV 図書館

- 1 図書館活動 58

V 視聴覚ライブラリー

- 1 視聴覚ライブラリー活動 64

VI 社会教育

- 1 社会教育 66

VII 社会体育

- 1 社会体育 72
- 2 体育・スポーツ活動 73
- 3 スポーツ施設 76
- 4 定光寺野外活動センター 79

VIII 文化財保護

- 1 文化財保護活動 78

資料

- 1 沿革 82
- 2 教育関係施設一覧 106

I 教育行財政

1 瀬戸市の沿革

瀬戸市は、濃尾平野の東、尾張丘陵の一角にあって、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約 20km に位置し、周囲を標高 100m～300m の小高い山々に囲まれ気候も温暖で、丘陵地帯には、瀬戸層群と呼ばれる新第三紀鮮新世の地層があり、やきものの原料となる良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に有しています。また、北部や東部の山間地帯には、松などの樹林が広がり、かつては、こうした恵まれた自然が、瀬戸の窯業の発展に大きな支えとなってきました。このような自然や時代の移り変わりを背景に、窯業に携わってきた人々のたゆまぬ努力のおかげで、せとものはやきものの代名詞として日本のみならず、世界の人々に知られるようになりました。明治 11 年(1878)に郡区町村編成法、同 22 年(1889)に町村制が公布されると、近代的な自治体である瀬戸村となり、次いで明治 25 年(1892)には瀬戸町になりました。さらに大正 14 年(1925)には赤津村及び旭村の一部を合併し、4 年後の昭和 4 年には愛知県で 5 番目の市として「瀬戸市」が誕生しました。その後も昭和 26 年(1951)には水野村を合併、同 30 年(1955)には幡山村、同 34 年(1959)には品野町を合併し、市域は現在 111.40 km²、人口は 13 万人を超えるまでに発展しました。先人たちより引き継がれてきた「歴史」「伝統」「文化」、そして「自然」が、今もお瀬戸の暮らしに息づいています。

- | | |
|----------------------------|--|
| (1) 市制施行 | 昭和 4 年 10 月 1 日 |
| (2) 市役所所在地 | 瀬戸市追分町 64 番地の 1
東経 137 度 5 分 3 秒
北緯 35 度 13 分 24 秒 |
| (3) 面積 | 111.40 km ²
東西 12.8 km
南北 13.6 km |
| (4) 人口 (平成 28 年 4 月 1 日現在) | 男 64,299 人
女 66,377 人
計 130,676 人 |
| (5) 世帯数 | 54,388 世帯 |



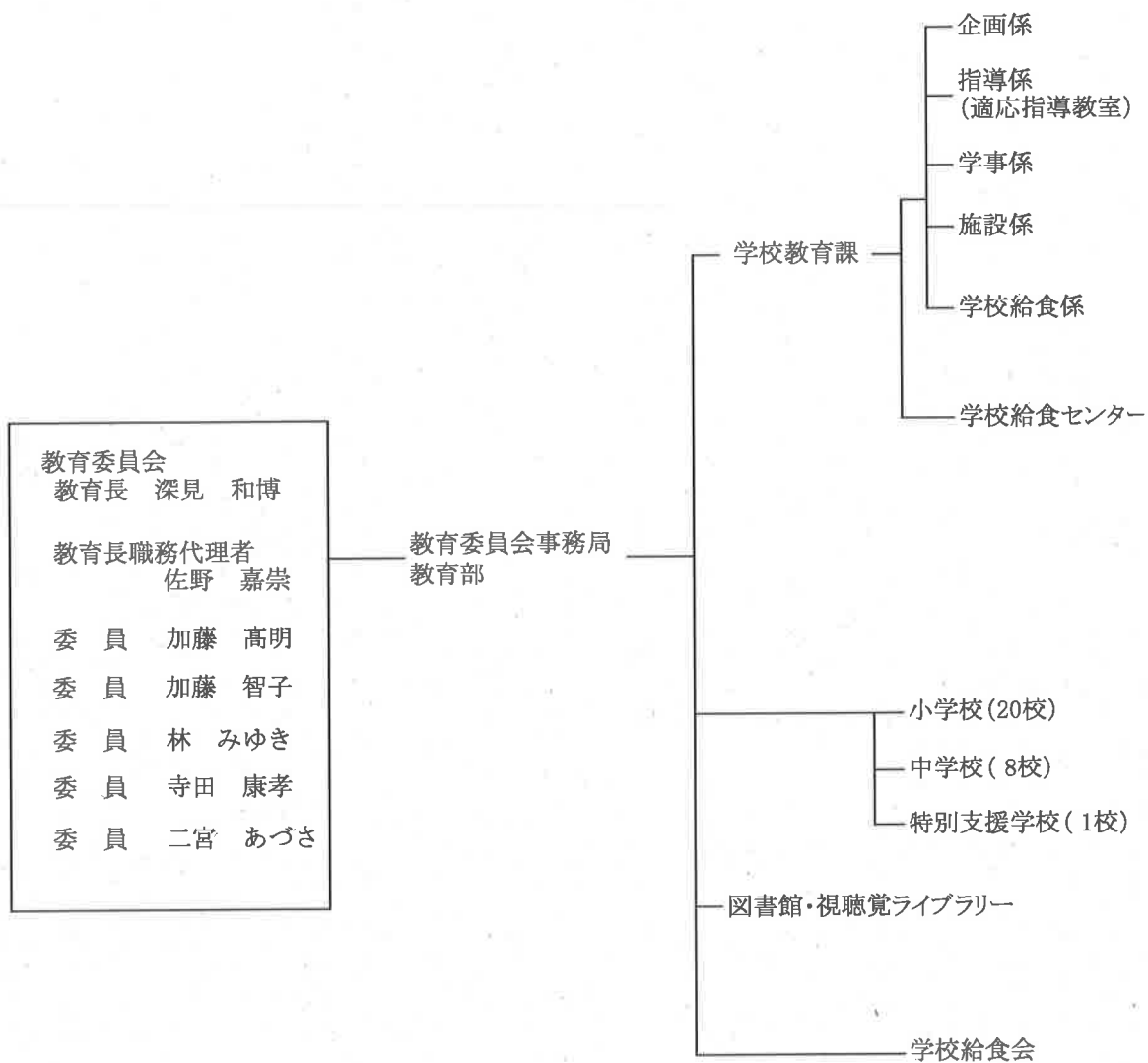
市の花 ツバキ



市の木 クロガネモチ

2 教育委員会組織機構図

平成28年10月1日現在



3 教育委員会職員数

平成28年4月1日現在

	教育部長	教育次長兼課長	課長・主任幹事	課長補佐・専門員	係長・主査	主事	技師	技師	用務員	調理員	配膳員	嘱託職員	計	備考
教育部長	1												1	
学校教育課			3	5	5(1)	3	(1)	1				4	20	()は課長補佐・専門員が兼務 ただし、技師欄()は係長職
小学校(20校)									8	13			21	
中学校(8校)									5				5	
特別支援学校(1校)					1					3			4	
図書館			1	2	0	1							4	
視聴覚ライブラリー			(1)	(1)	(1)	(1)							0	()は図書館の職員が兼務
計	1		4	7	6	4		1	13	16		4	56	
学校給食会												1	1	
計												1	1	

4 事務の補助執行

(1) 市長が教育委員会の職員に補助執行させる事務

- ① 私立学校（私立幼稚園を除く。）、私立の専門学校及び私立の各種学校に関する事。
- ② 教育委員会の所掌する事業に係る国庫支出金及び県支出金等の申請に関する事。
- ③ 瀬戸市予算及び決算規則（昭和40年瀬戸市規則第17号）、瀬戸市公有財産事務取扱規則（昭和42年瀬戸市規則第21号）、瀬戸市自動車等管理規程（昭和40年瀬戸市訓令第2号）に規定する各課等の長の処理すべき事務に関する事。
- ④ 瀬戸市会計規則（昭和29年瀬戸市規則第4号）に規定する各課等の長及び物品取扱主任等の処理すべき事務に関する事。
- ⑤ 瀬戸市契約規則（昭和40年瀬戸市規則第18号）に規定する契約担当者の処理すべき事務に関する事。

(2) 教育委員会が市長部局の交流活力部の職員に補助執行させる事務

- ① 青少年教育、成人教育、その他社会教育に関する事。
- ② スポーツに関する事。
- ③ 文化財の保護に関する事。
- ④ 公民館の事業に関する事。
- ⑤ 前各号に係る教育財産の管理に関する事。

(3) 教育委員会が市長部局の市民課及び支所に属する職員に補助執行させる事務

- ① 住民の異動に伴う就学通知書、入学通知書、学齢児童生徒市外転出通知書及び学齢児童生徒市内異動通知書の交付に関する事。（ただし、通学区域外入学に係るものを除く。）

5 歴代教育委員(教育長を除く)

平成28年10月1日現在

氏名	在職期間	在職年月数	氏名	在職期間	在職年月数
(公)松原明道	昭和27年11月～昭和31年9月	3年11月	加藤伸也	昭和58年10月～昭和62年9月	4年
(公)早川富次郎	昭和27年11月～昭和31年9月	3年11月	山内敏平	昭和59年10月～昭和63年9月	4年
(公)藤井吉久	昭和27年11月～昭和31年9月	3年11月	磯村範良	昭和60年10月～平成元年9月	4年
(公)稲垣信夫	昭和27年11月～昭和31年9月	3年11月	加藤悦郎	昭和61年10月～平成2年9月	4年
加藤三郎	昭和27年11月～昭和28年9月	11月	竹田竜弥	昭和62年10月～平成3年9月	4年
伊藤陶彦	昭和28年6月～昭和29年6月	1年	鈴木逸夫	昭和63年10月～平成4年9月	4年
加藤通之助	昭和29年6月～昭和30年6月	1年	林春治	平成元年10月～平成5年9月	4年
伊藤義雄	昭和30年2月～昭和31年9月	1年8月	山城浩平	平成2年10月～平成6年9月	4年
村上力男	昭和30年6月～昭和31年6月	1年	大竹保枝	平成3年10月～平成7年9月	4年
矢野千代太	昭和31年6月～昭和31年9月	4月	余語彦次	平成4年10月～平成8年9月	4年
松原恒	昭和31年10月～昭和33年9月	2年	松原肇	平成5年10月～平成9年9月	4年
加藤昇次	昭和31年10月～昭和34年9月	3年	小野義弘	平成6年10月～平成10年9月	4年
加藤秋子	昭和31年10月～昭和35年9月	4年	勝谷哲次	平成7年10月～平成11年9月	4年
加古徳次	昭和31年10月～昭和36年9月	5年	鈴木政成	平成8年10月～平成12年9月	4年
加藤元資	昭和33年10月～昭和37年9月	4年	加藤唐三郎	平成9年10月～平成13年9月	4年
小野廉二	昭和34年10月～昭和38年9月	4年	梅村和子	平成10年10月～平成14年9月	4年
篠瀬実	昭和35年10月～昭和39年9月	4年	野田正治	平成11年10月～平成15年9月*	4年
荒川安吉	昭和36年10月～昭和40年9月	4年	大竹良太	平成12年10月～平成16年9月	4年
柴田善右工門	昭和37年10月～昭和41年9月	4年	加藤定江	平成13年10月～平成17年9月	4年
加藤敏子	昭和38年10月～昭和42年9月	4年	加藤令吉	平成14年10月～平成18年9月	4年
加藤政良	昭和39年10月～昭和43年9月	4年	伊藤保徳	平成15年10月～平成19年9月	4年
加藤作助	昭和40年10月～昭和44年9月	4年	松本哲也	平成16年10月～平成20年9月	4年
大橋惣二	昭和41年10月～昭和45年9月	4年	松本高典	平成17年10月～平成21年9月	4年
後藤八郎	昭和42年10月～昭和46年9月	4年	加藤恵子	平成18年10月～平成22年9月	4年
水野正司	昭和43年10月～昭和47年9月	4年	加藤陽一	平成19年10月～平成23年9月	4年
加藤正夫	昭和44年10月～昭和45年4月	7月	(再)野田正治	平成20年10月～平成23年9月 *平成11年10月～平成15年9月	3年 *4年
水野悦郎	昭和45年5月～昭和48年9月	3年5月	中島道代	平成20年10月～平成24年9月	4年
江尻守鉦	昭和45年10月～昭和49年9月	4年	刑部祐介	平成20年10月～平成24年9月	4年
川本三明	昭和46年10月～昭和50年9月	4年	鈴木眞史	平成21年10月～平成25年9月	4年
加藤光哉	昭和47年10月～昭和51年9月	4年	上川和子	平成22年10月～平成26年9月	4年
加藤晃	昭和48年10月～昭和52年9月	4年	水野教雄	平成23年10月～平成27年9月	4年
加藤鈔	昭和49年10月～昭和53年9月	4年	加藤雅人	平成23年10月～平成27年9月	4年
加藤俊明	昭和50年10月～昭和54年9月	4年	梶田俊裕	平成24年10月～平成28年9月	4年
荒井洋	昭和51年10月～昭和55年9月	4年	松本恵美子	平成24年10月～平成28年9月	4年
加藤英彦	昭和52年10月～昭和56年9月	4年	加藤高明	平成25年10月～	3年
伊藤純一郎	昭和53年10月～昭和57年9月	4年	加藤智子	平成26年10月～	2年
塚田佳男	昭和54年10月～昭和58年9月	4年	佐野嘉崇	平成27年10月～	1年
加藤隆夫	昭和55年10月～昭和59年9月	4年	林みゆき	平成27年10月～	1年
増岡錦也	昭和56年10月～昭和60年9月	4年	寺田康孝	平成28年10月～	0月
後藤公彦	昭和57年10月～昭和61年9月	4年	二宮あづさ	平成28年10月～	0月

6 歴代教育長

平成28年10月1日現在

氏名	在職期間	在職年月数
山田 栄(代理)	昭和27年11月～昭和27年12月	2月
伊藤 一雄	昭和28年1月～昭和32年5月	4年5月
相原 邦雄	昭和32年6月～昭和43年9月	11年4月
松浦 正雄	昭和43年10月～昭和52年3月	8年6月
加藤 朋也	昭和52年4月～昭和55年3月	3年0月
加藤 春夫	昭和55年4月～平成2年3月	10年0月
加藤 浩松	平成2年4月～平成11年3月	9年0月
大澤 義洋	平成11年4月～平成24年3月	13年0月
深見 和博	平成24年4月～(平成28年10月～新教育長)	4年6月



<深見 和博 教育長>

7 教育財政

(1)平成28年度一般会計予算

(単位:千円)

歳 入			歳 出		
款	金額	割合	款	金額	割合
1 市税	17,917,020	52.9%	1 議会費	332,715	1.0%
2 地方譲与税	291,000	0.9%	2 総務費	4,426,144	13.1%
3 利子割交付金	16,000	0.0%	3 民生費	15,332,358	45.2%
4 配当割交付金	178,000	0.5%	4 衛生費	3,873,488	11.4%
5 株式等譲渡所得割交付金	46,000	0.1%	5 労働費	2,705	0.0%
6 地方消費税交付金	2,129,000	6.3%	6 農林水産業費	130,971	0.4%
7 ゴルフ場利用税交付金	41,000	0.1%	7 商工費	736,748	2.2%
8 自動車取得税交付金	107,000	0.3%	8 土木費	3,078,459	9.1%
9 地方特例交付金	95,000	0.3%	9 消防費	1,293,347	3.8%
10 地方交付税	2,625,000	7.7%	10 教育費	2,420,743	7.1%
11 交通安全対策特別交付金	20,000	0.1%	11 災害復旧費	8	0.0%
12 分担金及び負担金	252,449	0.7%	12 公債費	2,212,314	6.5%
13 使用料及び手数料	729,043	2.2%	13 予備費	50,000	0.1%
14 国庫支出金	4,731,322	14.0%			
15 県支出金	2,538,374	7.5%			
16 財産収入	632,632	1.9%			
17 寄附金	1	0.0%			
18 繰入金	20,438	0.1%			
19 繰越金	1	0.0%			
20 諸収入	633,520	1.9%			
21 市債	887,200	2.6%			
合 計	33,890,000	100.0%	合 計	33,890,000	100.0%

(2)一般会計と教育費の推移

(単位:百万円)

年 度	20	21	22	23	24	25	26	27	28
一般会計総額(A)	30,450	30,810	32,340	32,750	32,300	33,210	36,260	34,920	33,890
教育費(B)	3,008	3,374	2,859	2,813	2,467	2,678	2,286	2,526	2,421
(B)/(A)	9.9%	11.0%	8.8%	8.6%	7.6%	8.1%	6.3%	7.2%	7.1%

(3)教育予算(歳出)の内訳

(単位:千円)

項 目	28年度	27年度	比較増減	前年比
1 教育総務費	314,391	370,116	△ 55,725	84.9%
1 教育委員会費	2,887	2,897	△ 10	99.7%
2 事務局費	72,944	125,394	△ 52,450	58.2%
3 教育指導費	238,560	241,825	△ 3,265	98.6%
2 小学校費	692,064	555,948	136,116	124.5%
1 学校管理費	485,392	468,730	16,662	103.6%
2 教育振興費	45,547	45,059	488	101.1%
3 学校建設費	161,125	42,159	118,966	382.2%
3 中学校費	345,485	350,042	△ 4,557	98.7%
1 学校管理費	243,762	222,099	21,663	109.8%
2 教育振興費	46,506	43,383	3,123	107.2%
3 学校建設費	55,217	84,560	△ 29,343	65.3%
4 特別支援学校費	44,095	35,146	8,949	125.5%
1 特別支援学校費	44,095	35,146	8,949	125.5%
5 社会教育費	212,638	207,533	5,105	102.5%
1 社会教育総務費	955	1,132	△ 177	84.4%
2 地区公民館費	63,609	71,534	△ 7,925	88.9%
3 図書館費	146,978	133,771	13,207	109.9%
4 視聴覚費	1,096	1,096	0	100.0%
6 保健体育費	812,070	1,007,312	△ 195,242	80.6%
1 保健総務費	99,700	102,549	△ 2,849	97.2%
2 体育総務費	24,040	27,291	△ 3,251	88.1%
3 体育施設費	134,772	333,211	△ 198,439	40.4%
4 学校給食総務費	61,338	60,323	1,015	101.7%
5 学校給食センター	159,914	144,187	15,727	110.9%
6 学校給食単独校費	306,596	314,128	△ 7,532	97.6%
7 野外活動センター費	25,710	25,623	87	100.3%
合 計	2,420,743	2,526,097	△ 105,354	95.8%

8 瀬戸市教育アクションプラン

瀬戸市教育委員会では、平成 18 年度を初年度とする 10 年間を展望し、瀬戸市の教育が目指す姿を描いた「瀬戸市教育アクションプラン」を策定しました。このアクションプランは瀬戸市の教育の四半世紀先の未来を見通し、行政や市民、また互いに協力して取り組むべきことを示したものです。当初計画期間を終えた平成 27 年度末には、平成 37 年度を目標年度とする「第 2 次瀬戸市教育アクションプラン」を策定し、具体的な施策の展開として、7 つの基本目標と 22 の基本施策、78 の主な事業に反映させました。

(1) 基本理念

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
 瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
 瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

この基本理念は、平成 17 年 3 月に策定した「瀬戸市教育アクションプラン」の基本理念として掲げたものです。社会情勢や教育環境が大きく移り変わる中、この基本理念の重要性と意味合いが一層増しており、今後も継承することにより、未来を見通した様々な教育施策を推進し、本市の教育を充実させていきます。

(2) アクションプランの位置付け

教育基本法第 17 条第 2 項「地方公共団体は、国の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない」との規定に基づくアクションプラン（行動計画）となります。

「瀬戸市総合計画」をはじめ、市長と教育委員が協議する「瀬戸市総合教育会議」において定めた「教育に関する大綱」のもと、教育分野の個別計画として位置づけ、教育に関連する他の計画との整合性を図るとともに、関連する部門と連携・協働しながら、本市の教育行政が目指すべき姿を明らかにして、計画を推進していきます。

(3) 計画の期間

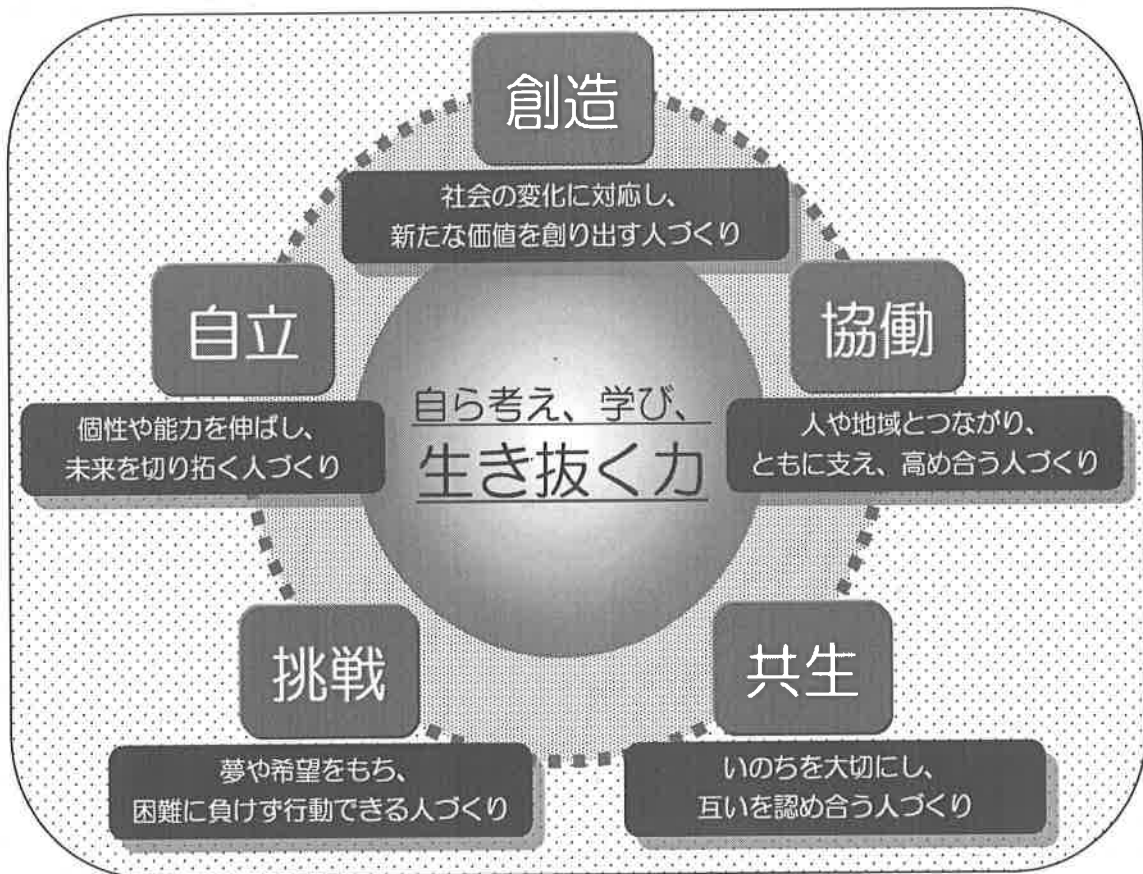
この計画は、平成 28 年度から 10 年間を計画期間としています。なお、「第 6 次瀬戸市総合計画」策定時及び計画が 5 年を経過した時点を目途に見直しを行い、必要に応じて、計画の内容を変更することとします。

■ 計画の期間

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	~H37
瀬戸市教育アクションプラン				(前計画期間) 第2次					
瀬戸市教育大綱				瀬戸市教育大綱					
瀬戸市総合計画	第5次					第6次			
教育振興基本計画(国)	第2期								

(4) 基本的方向性（目指す人間像）

基本理念を実現し、「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成するため、5つの基本的な方向性を目指します。



国の「第2期教育振興基本計画」では、生涯にわたって自己の能力と可能性を高め、様々な人々と協調・協働しつつ、自己実現と社会貢献を図るため、「自立」、「協働」、「創造」の3つの方向性を示しています。

本市では、これらに加え、瀬戸らしさとして「地域とともにある学校づくり」や特別支援教育など、いのちを大切に、互いを認め合う「共生」と、「まるっとせとっ子フェスタ」など、夢や希望をもち、困難に負けず行動する「挑戦」を含んだ5つの基本的方向性を目指すことにより、「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成していきます。

これら5つの基本的方向性は、それぞれが独立して存在するものではなく、基本施策ごとに相互にバランス良く関わり合うことにより、施策における基本目標を着実に達成していきます。

(5) 施策の展開

基本目標1 確かな学力の定着と向上

児童生徒が、基礎的、基本的な知識や技能を確実に習得するため、学習意欲の向上を図るとともに、授業内容や指導方法を工夫していきます。

また、子どもたちが自ら学び、考え、主体的に判断するため、学び合いの授業を取り入れるなど、言語活動を充実します。

さらに、今後は、知識や技能を活用して、一人ひとりが自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的・協働的に探究し、思考を活発にするため、アクティブ・ラーニングを充実し、必要とされる資質・能力である思考力・基礎力・実践力を高め、生き抜く力を育みます。

基本施策		主な事業	
1	基礎的、基本的学力の習得	1	基礎的、基本的学力の習得と学習習慣の定着
		2	学習意欲の向上
		3	読書活動の推進
2	学んだことを生かす教育活動の推進	4	探究的な学習と体験活動の推進
		5	学力向上のための現状分析や今後の方策の検討
		6	「少人数指導授業」や「ティーム・ティーチング」の充実
		7	ICTを活用した授業の推進
3	教職員の教育力の向上	8	研修による教職員の資質の向上
		9	分かりやすい授業づくりの推進
		10	教員が子どもと向き合う時間の確保

基本目標2 豊かな心の育成

道徳教育や人権教育などを通して、子どもたち一人ひとりが互いを尊重し、思いやりをもち、規範意識や社会のルールを身につけるなど豊かな心を育みます。いじめ・不登校の防止にあたっては、学校・家庭・地域が手を携え、子どもにいのちの大切さを伝えるとともに、社会全体で子どもを見守るなどの意識をより高めていきます。

また、豊かな感性や情操を養うため、文化芸術活動を支える事業を展開するとともに、文化財の調査研究を行い、市民が優れた文化芸術に親しみをもち、体験できる機会を充実していきます。

図書館においては、地域図書館を拡充し、市民がいつでもどこでも図書と親しむことができるなど、利便性を高める取り組みを行っていきます。

基本施策		主な事業	
1	いのちを大切にす教育の推進	11	道徳教育の推進
		12	人権教育の推進

5	いじめや問題行動への対応の充実	13	いじめ防止基本方針による取り組みの推進
		14	あたたかい学級づくりの推進やQ-Uの有効活用
		15	規範意識の定着など生徒指導の推進
		16	情報モラル教育の推進
6	不登校児童生徒への対応の充実	17	不登校や引きこもり児童生徒に対する対応の充実
		18	不登校予防のための教育相談体制の充実
7	文化芸術活動の支援や文化財の保存・活用	19	市民による文化芸術活動の支援や奨励
		20	文化芸術に触れ親しむ機会の確保
		21	伝統文化を尊重する心の育成
		22	文化財の保存・活用
		23	文化財に関する学習の機会提供
8	図書館サービスの充実	24	図書館施設の整備や充実
		25	図書館ネットワークの整備

基本目標3 健やかな体の育成

発達段階に応じて、健康づくりを実践し、生涯を通して健康で充実した生活を送るために基礎となる健やかな体を育みます。そのために、学校・家庭・地域が連携して、「早寝、早起き、朝ごはん」などの望ましい生活習慣を身につけるよう取り組んでいきます。

また、運動習慣を身につけるとともに、楽しみながら計画的かつ継続的に運動に取り組む機会を充実します。そのことが、将来にわたり、スポーツに親しむ機会の増加につながり、結果として、健康長寿社会の実現に重要な役割を果たすことになるものと考えます。

基本施策		主な事業	
9	規則正しい生活習慣の定着と健康の増進	26	衣食住の望ましい生活習慣の定着
		27	生活習慣病予防対策の実施
		28	学校保健をはじめ、健康教育や性教育などの充実
		29	食育の推進
		30	安心・安全な学校給食の提供と地産地消の推進
10	体力の向上とスポーツの振興	31	運動習慣の確立や体力向上への取り組みの推進
		32	生涯を通じ、誰もが気軽にスポーツを楽しむ機会の確保
		33	指導者の育成と指導力の向上
		34	競技者の育成支援
		35	若年層に対するスポーツ活動の支援
		36	スポーツ施設の整備

基本目標 4 多様な個性やニーズに応じた教育の推進

支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加できるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行います。そして、特別に支援が必要な子どもたちの多様なニーズに即して、きめ細かい対応をしていきます。

また、本市の小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒に対して、指導を充実していきます。さらに、市民一人ひとりが言語や文化、価値観など様々な違いや特性を認め合い、国籍を問わず誰もが暮らしやすいと感じる多文化共生*社会の実現に向けた教育を推進するとともに、ダイバーシティ（多様な人材の積極的な活用）*を推進していきます。

基本施策

主な事業

11 支援が必要な子どもへの対応の充実

- 37 特別支援教育の充実
- 38 経済的な支援や子どもの貧困対策の充実
- 39 心のケアの充実など「チーム学校」の推進
- 40 福祉実践教育の充実

12 多文化共生社会に向けた教育の推進

- 41 外国人児童生徒に対する日本語教育の充実
- 42 外国人住民に対する日本語教育の充実
- 43 多様な文化や価値観を尊重する教育の推進

基本目標 5 地域や社会とつながる教育の推進

すべての市民が教育の担い手となり支え合うために、これまで以上に保護者や地域の方々が学校運営に参画できる機会を増やし、学校が地域や企業、大学などと連携・協働することで、地域とともにある学校づくりを推進します。

また、本市は、長い間培われてきた歴史や伝統文化などに携わる方々などの人的資源や、豊かな自然に恵まれた教育環境を有しています。これらの地域資源を有効に活用した学びの機会を創出し、「ものづくりのまち瀬戸」への郷土愛を育んでいきます。

さらに、グローバル化が進み、社会の仕組みが複雑化する中で、子どもが将来の夢や目標を掲げ、社会と関わりをもちながら、これからの社会を生き抜くための学習を推進し、男女ともに生涯を通して社会で活躍できる人材を育成していきます。

基本施策

主な事業

13 瀬戸らしさを生かした特色ある教育の推進

- 44 キャリア教育や職業体験の推進
- 45 せともの文化や伝統を継承していく郷土学習の推進
- 46 環境教育の推進
- 47 「まるっとせとつ子フェスタ」の充実
- 48 未来創造事業の推進

14	地域とともにある学校づくりの推進	49	保護者や地域などの地域力による連携強化
		50	放課後の子どもの居場所づくり「せとっ子モアスクール」の拡充
		51	市民活動との連携強化
		52	地域ぐるみの青少年健全育成の推進
		53	地域企業との連携の推進
		54	大学(大学コンソーシアムせと)などとの連携強化
15	未来を生き抜く子どもの育成	55	グローバル社会に対応した人材の育成
		56	情報リテラシー(情報活用能力)の育成
		57	性差なく活躍できる人材の育成
16	男女共同参画社会の推進	58	安定した家庭生活のためのワーク・ライフ・バランスの実現
		59	学校現場における女性の登用

基本目標6 ライフステージに応じた切れ目のない教育の推進

家庭教育における教育力の向上を図るとともに、保育園や幼稚園などと小中学校・特別支援学校が連携しながら、継続性と連続性のある教育活動を通して、子どもたちが将来を見通し、自立して生きるための基盤となる能力を育みます。また、教育全体として、どのような人材を育成するのか、といった理念を明確にして、教育の担い手である市民全員が責任と役割分担を互いに認識しながら、教育を推進します。

さらに、子どもから高齢者まで、市民の様々なライフステージに応じた多様な学習機会を提供するとともに、市民一人ひとりが互いに学び合い、交流することで、生涯にわたって学び続けるよう、途切れることのない連続性のある教育を推進していきます。

基本施策

主な事業

17	子育て支援と家庭教育の充実	60	幼児教育の充実、地域や社会全体での子育ての実施
		61	家庭教育力の向上支援
		62	児童虐待の防止
18	関係機関の連携による教育の推進	63	保育園・幼稚園・小学校の連携強化
		64	小中一貫教育の推進や小中一貫校の導入
		65	教育と福祉の連携による切れ目のない支援
19	生涯にわたり、相互に学び合う教育の推進	66	「学びキャンパスせと」の充実
		67	公民館・地域交流センター活動の充実
		68	生涯学習社会を担う指導者やボランティアの育成

基本目標 7 適正で魅力ある教育環境の充実

学校施設は老朽化が進んでおり、計画的な保全に取り組むとともに、財政負担の平準化なども踏まえた学校施設の長寿命化や建て替えを検討します。

また、子どもたちが集団の中で豊かな人間関係を築くとともに、自主性、自立性、社会性を養い、これからの社会を生き抜くことができるたくましい子どもを育てるため、地域の実情やまちづくりの視点を考慮しながら、学校の新設、統合や通学区域の見直しなどにより、学校の適正規模・適正配置を進めます。

さらに、学校と家庭や地域が、子どもを育てる当事者として、目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することで、保護者や地域から信頼される学校づくりに努めます。

基本施策	主な事業
20 魅力ある学校づくりと適正規模・適正配置の推進	69 適正規模・適正配置の推進
	70 児童生徒が楽しいと感じる魅力ある学校づくり
21 安心で安全な学校づくりの充実	71 学校施設の安心・安全対策や長寿命化対策の実施
	72 通学路を含む交通安全対策やスクールガードの充実
	73 防災教育の充実
	74 防犯など安全教育の充実
22 信頼される学校づくりの推進	75 学校運営に係る積極的な情報発信
	76 学校評議員や学校評価制度の活用
	77 学校マネジメント力の向上
	78 PTAや教育アクションプラン推進会議などによる市民意向の反映

9 瀬戸市教育アクションプラン推進会議

平成18年6月に「瀬戸市教育アクションプラン推進会議（以下、「推進会議」）」を発足し、プランの策定及び進捗状況の把握と各施策の進行管理を行っています。

また、本年3月の「第2次瀬戸市教育アクションプラン」の策定に伴い、委員各々が、それぞれの職や役割などにおいて、プランの基本理念や方向性などを周知していくことも、推進会議の目的として位置付けました。

学校・家庭・地域が行政組織とも連携し、子どもたちの“生き抜く力”を育む体制を強化するため、それぞれの立場で専門的な知見を発揮し、市民との対話が一層促進されるよう、次の方々に委員を委嘱しています。

【*名簿については平成28年7月1日現在を掲載しております。】

委嘱委員	氏 名	職 名
会 長	上川 和子	元教育委員長
副会長	吉田 淳	名古屋学院大学 スポーツ健康学部 教授
委 員	福岡 明	元校長会会長、元愛知県尾張教育事務所特別支援教育指導員
〃	和佐田 強	学校法人光和学園瀬戸幼稚園 園長
〃	田中 直美	瀬戸市小中学校 PTA 連絡協議会 母親代表 副部長
〃	水谷 友里	瀬戸市小中学校 PTA 連絡協議会 経験者
〃	一尾 茂正	教育関係者
〃	牛田 和彦	教育サポートセンター長
〃	船坂 礼子	学校地域コーディネーター
〃	片田 晃司	下品野小学校 校長
〃	福留 正康	原山小学校 教頭
〃	服部 智志	南山中学校 教務主任

オブザーバー	氏 名	職 名
行 政	田口 浩一	交流学び課長
〃	服部 文孝	文化課長
〃	井村 厚仁	地域活動支援室長
〃	山崎 康永	健康福祉部次長兼こども家庭課長
〃	水野 典雄	社会福祉課長
〃	山下 峰司	健康課長

平成27年度は推進会議を5回開催しました。

- (1) 第29回(5月18日開催)の主な議題
 - ・アンケート調査結果及び教育アクションプランの総括について
- (2) 第30回(7月13日開催)の主な議題
 - ・瀬戸市教育委員会の自己点検・評価報告書案について
- (3) 第31回(9月24日開催)の主な議題
 - ・第2次瀬戸市教育アクションプランフレームワーク(案)について
- (4) 第32回(11月20日開催)の主な議題
 - ・第2次瀬戸市教育アクションプランフレームワーク及び施策体系図(案)について
- (5) 第33回(3月18日開催)の主な議題
 - ・第2次瀬戸市教育アクション(案)について

10 瀬戸市教育大綱

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が一部改正され、平成27年4月から施行されました。本市においても、教育大綱の策定に関する協議等のため、瀬戸市総合教育会議が設置され、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に規定する大綱として、平成28年から31年度を計画期間とし、次のとおり定めました。

ふるさとに誇りと愛着をもち まちと未来を拓く人づくり

「まちづくりは人づくり」という言葉のとおり、市政において、事業と人材育成は表裏一体のものです。また、教育は、「人を育て、まちを育てる」ものであり、新たな時代や社会、そして、本市が目指す“住みたいまち 新しいせとづくり”の重要な礎となります。

本市には、長い間培われてきた、ものづくりの文化や歴史などの地域資源があり、大都市近郊でありながら、豊かな自然に囲まれた教育環境が整っています。今後は、さらに、市民一人ひとりが主体性を持ち、自立しながら教育に向き合うとともに、これらの地域資源を活用した学びの機会を創出し、“ものづくりのまち瀬戸”への郷土愛を育んでいくことが大切だと考えています。

一方、生涯学習社会においては、性別や年齢などを問わず、誰もが参加することができる交流や体験の機会を創出していきたいと考えています。その際、現在の社会や人々の暮らしが、どのような歴史や価値観の上に成り立っているのか、私たち自身が今一度、見つめ直し、未来を拓く子どもたちに“生き抜く力”を受け継いでいくことが必要となります。

これまで掲げてきた“教育の基本理念”は、むしろ今の時代、めまぐるしく移り変わる教育環境においてこそ輝きを増し、なお一層、瀬戸市の教育の拠りどころになるものであり、次世代を担う子どもたちのたくましくも健やかな成長をすべての市民のみなさんとともに支えて参ります。

平成28年3月
瀬戸市長 伊藤保徳

(1) 基本理念

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

(2) 基本的方向性

「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成するために、5つの基本的な方向を目指します。

- 創造：社会の変化に対応し、新たな価値を創り出す人づくり
- 自立：個性や能力を伸ばし、未来を切り拓く人づくり
- 協働：人や地域とつながり、ともに支え、高め合う人づくり
- 共生：いのちを大切にし、互いを認め合う人づくり
- 挑戦：夢や希望をもち、困難に負けず行動できる人づくり

(3) 視点

- 一人ひとりの異なる価値観などの個性を認め合う“多様性”の尊重
- 家庭・学校・地域とともに、社会全体で子どもを育む“横”の連携
- 生涯学習社会*に向けて、年齢や成長に応じた切れ目のない“縦”の接続
- 適正な学習環境と魅力ある学校づくりによる“信頼”の構築

*生涯学習社会：生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会のこと。

11 瀬戸市総合教育会議

平成27年9月に「瀬戸市総合教育会議（以下、「教育会議」）」を発足しました。教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長と教育委員会との連携強化を図ることを目的としており、教育会議の構成員は市長と教育委員会であり、市長が招集し、原則公開の会議となります。なお、協議内容及び調整事項は、次のとおりとなります。

- ①教育行政の大綱の策定
- ②教育の条件整備など重点的に講ずべき施策
- ③児童生徒等の生命・身体のプロテクト等緊急の場合に講ずべき措置

平成27年度は同教育会議を2回開催し、瀬戸市教育大綱の策定に向けての協議を行うとともに、小中学校適正規模適正配置をはじめとした教育環境の充実、生涯学習分野・スポーツの推進などについて意見交換がなされました。

- (1) 第1回(9月28日開催)の主な議題
 - ・瀬戸市総合教育会議の運営に関する要領(案)について
 - ・瀬戸市教育大綱(案)について
- (2) 第2回(平成28年3月25日開催)の主な議題
 - ・瀬戸市教育大綱(案)について
 - ・平成28年度教育行政における取り組みなどについて

II 学 校 教 育

1 瀬戸の学校教育でめざすもの

(1) 基本方針

「第2次瀬戸市教育アクションプラン」の具現化に向けて、学校が地域と連携しながら主体的・創造的に特色を生かした教育を進めることで、児童生徒が生涯にわたり、人間としての成長と発達を続けていく基盤となる力を養うとともに、自分の住む町や社会の活性化と発展をめざす人づくりを目標とする。

学校教育関係では、すべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」、すべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」と実感できる教育の実現を基本理念とする。各学校が目標実現のために、児童生徒の個性を尊重し、地域に根ざした特色ある学校づくりを進める中で、新たな瀬戸の教育の創造と展開を図る。

(2) めざす将来の人間像<成長した大人の姿>を踏まえた「めざす児童生徒像・教職員像」

① めざす児童生徒像 (_____ は「めざす将来の人間像」との関連を示す)

◇豊かな人間性と自ら学ぶ力のある子◇

- いのちを尊び、心や体を鍛え、たくましく生きる力を養う。
共生 自立
- 自ら学び、深く考え、主体的に行動する力を養う。
創造、自立、挑戦
- 礼節を重んじ、自らを律し、他とともに心豊かな生活を築く態度を養う。
自立 協働、共生

② めざす教師像

- 教育愛と情熱をもって、使命を全うする教師
- 常に研修に努め、教育への見識を高め、社会的視野を広げるなど研鑽に努める教師
- 一人一人の個性を生かし、思いやりの心をもった教師
- さまざまな方面との連携を進んで図り、各々の立場や責任を理解し合い、協調し合う教師
- 社会の変化に積極的に対応する教師
- 専門性を発揮する教師

(3) めざす将来の人間が備えるべき力「自ら考え、学び、生き抜く力」

「自ら考え、学び、生き抜く力」は、「生きる力」と「生き抜く力」からなり、「自立」「創造」「協働」「共生」「挑戦」の5つの方向性を目指す。

○ 「自ら考え、学び、生き抜く力」

「生き抜く力」の内容

- 夢や希望をもち、その実現に向けて限りない努力をすること
- 失敗や挫折があっても簡単にくじけたり逃げたりしない心の強さをもつこと
- まわりの人への思いやりをもち、互いに支え合うことができること

学習指導要領に示された「生きる力」の内容

- 知識や技能に加え、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

2 具体的な取組

(1) 方針

児童生徒の「自ら考え、学び、生き抜く力」を育むことを目指し、地域とともにある学校づくりを推進していくために、学習指導要領、地域・学校の実態、児童生徒の心身の発達段階と特性、そして、今日的な教育課題等を考慮しながら、地域・学校の特色や教師の創意工夫を生かした教育課程を編成する。 ※平成28年度より新たに教育サポートセンターを設置し、横の連携を強化する。

(2) 確かな学力の定着と向上

① 「確かな学力」の内容

- 【学ぼうとする力】…関心・意欲・態度
- 【学ぶための力】…基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 【学 ぶ 力】…課題発見・解決能力、思考力・判断力・表現力等

② 充実した授業づくり

- 充実した言語活動が行われる授業
- 体験的な学習や課題解決学習等、自主的・自発的な学習が展開される授業（アクティブ・ラーニング）
- 学ぶことの楽しさや達成することの喜びを味わわせ、互いに学び合い学習意欲の向上を促す授業
- 学習内容を確実に身につけさせる授業
- 指導過程や成果についての評価、及び指導の改善が継続的に行われる授業
- 見通しを立てたり振り返ったりする学習活動を重視した授業
- 個に応じた指導の充実した授業（少人数指導授業、チーム・ティーチング）
- 効果的にICT機器を活用した授業
- 読書活動の推進

③ 学力向上のための現状分析・今後の方策の検討

- 「瀬戸の学び創造委員会」による分析、提言
- 各学校における分析や今後の方向性の検討
- 各中学校区における分析結果や今後の取組内容の共有化

④ 学習指導と評価の工夫・改善

- 児童生徒のよさや変容を積極的にとらえ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばそうとする評価観をもって学習指導にのぞむ。
- 指導の過程や成果を評価し、評価したことを指導の改善に生かす。
- 評価方法を工夫・改善する。
 - ・目標に準拠した評価規準を設定し、事前に指導の手だてを構想しておく。
 - ・客観的な評価のために、チェックリスト・行動観察記録・写真等、様々な資料を活用する。
 - ・児童生徒の相互評価・自己評価の場面・方法を工夫するとともに、自己評価能力を高める。

(3) いのちを大切にす教育の推進

- 道徳教育を中心に、あらゆる教育活動を通して
 - 自他のいのちの大切さを考える機会の設定
 - 自己肯定感・自己有用感の育成
- 人権教育を通して
 - 差別・偏見なく、互いの違いを認め合う態度や思いやる心の育成

(4) いじめ・不登校の克服

いじめ・不登校の未然防止に努め、児童生徒が元気で明るく学び、「たくましく生きぬく力」を育むことができるよう、強い決意で取り組む。すべての児童生徒が「自分はかけがえのない存在」と実感できる学校・学級づくりを実践する。また、「いじめ・不登校の早期発見・早期対応、ネットワークづくり」の姿勢の下、「地域とともにある学校づくり」を進めながら、市・学校・家庭や地域・関係機関などとの連携に取り組む。

平成28年度より新たに、3名のSSWR（スクールソーシャルワーカー）を配置し、チームとして課題に対応している。

① いじめ・不登校の対応

- 早期発見と早期対応
児童生徒の発する小さなサインを見逃さないこと、児童生徒理解及び児童生徒・保護者との信頼関係構築、関係機関との連携・相互協力及び補完
- いじめ・不登校対策委員会を中心とした組織的な指導體制の構築
指導方針の共通理解と役割分担による迅速な対応
中学校ブロック別懇談会におけるブロック内の組織強化や小中・小小連携の構築
学校種を越えた連携と情報の共有、小中の学校間移行・学年移行の円滑化
- 開発的・予防的指導の充実
いじめを絶対に許さないという教職員の意識と学校・学級づくり
学級集団アセスメント(Q-U)を活用した、温かい人間関係づくりや望ましい学級づくり
児童生徒同士の心の結びつきを深める教育活動の推進
社会的自立に向け児童生徒が自らの進路を主体的に形成していくための支援
- スクールソーシャルワーク（SSW）の充実
児童生徒にかかわるさまざまな問題の背景や原因を見極め、家庭のみならず関係機関と連携して問題の解決を図る

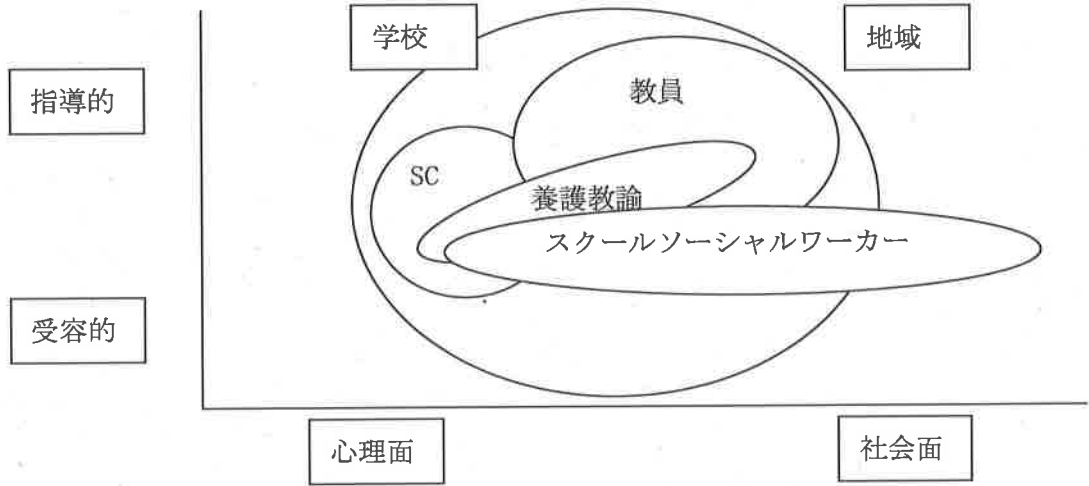
* スクールソーシャルワーカー（SSWR）活用事業

- スクールソーシャルワーカー（SSWR）
福祉的な視点から問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭・学校・地域の関係機関につなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家。
- スクールソーシャルワーカーの職務内容
 - ア 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
(いじめ、不登校、暴力行為、友人関係、家族関係、虐待、貧困等、学校だけでは解決困難な複合的課題を抱えた多重困難事例)
 - イ 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
(関係機関…児童相談所、家庭児童相談室、適応指導教室、発達支援室、医療機関、保健機関、警察、弁護士、家庭裁判所等)
 - ウ 学校内におけるチーム体制の構築、支援
 - エ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
 - オ 教職員等のサポート、研修活動
- スクールソーシャルワーカー（SSWR）とスクールカウンセラー（SC）

<p><SSWR></p> <ul style="list-style-type: none">○ つなぐソーシャルワーク○ 出かける姿勢○ 取り巻く環境に働きかける (個人と環境の不適合)	<p><SC></p> <ul style="list-style-type: none">○ 聴くカウンセリング○ じっくり待つ姿勢○ 心の内面に働きかける (個人の内面の心的葛藤)
---	--

- 地域環境、経済環境
- 社会福祉士的視点
(生活の質の向上)
- 親子関係、人間関係
- 臨床心理的視点
(個人の心の変容)

○ スクールソーシャルワーカーの位置づけ

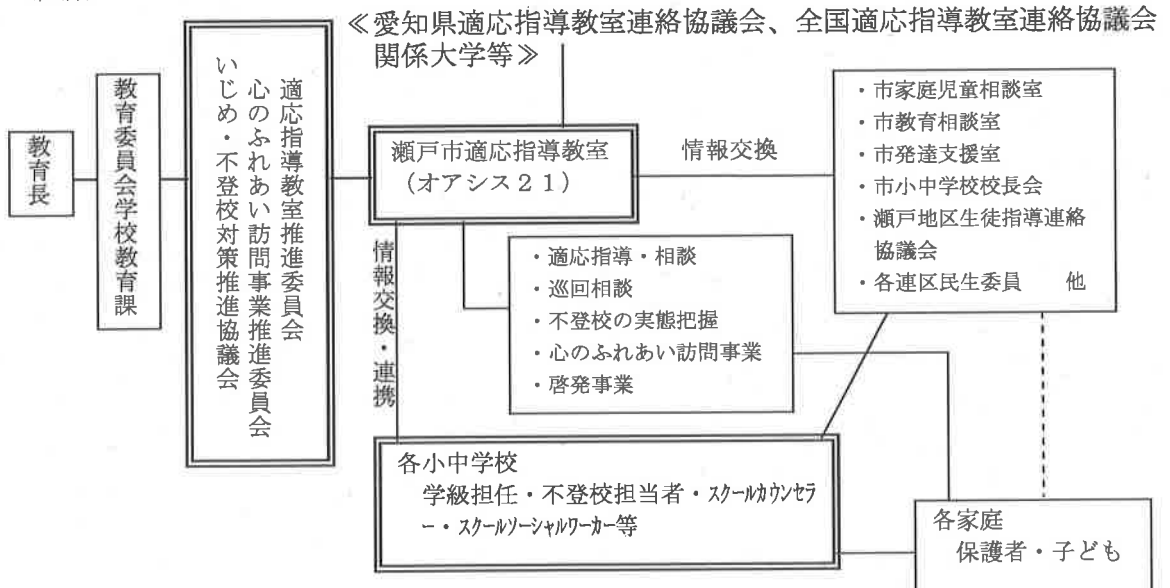


② 適応指導教室（通称「オアシス21」）

ア 適応指導教室事業方針

- ・ 「不登校」児童生徒への対応は、教育問題としてだけでなく、人生の方向性を見出させるうえでも依然大きな社会問題である。集団生活になじめない、心病んでいる不登校の児童生徒を対象に、特別に配慮した指導を行うことによって、当該児童生徒の自立を促し、学校生活及び社会生活への復帰を支援する。
- ・ 適応指導教室運営を中心にしつつ、不登校に関する諸活動を展開することによって、不登校に関する支援センターとしての機能を充実させる。

イ 組織



ウ 適応指導教室の事業内容

- 通級適応指導・相談
 - ・ 通級適応指導 … 適応指導教室での通級適応指導
オアシスメイトによる不登校児童生徒とのふれあい活動
 - ・ 適応相談 … 不登校に関する常時相談（所長対応：電話相談・来所相談）
- 相談事業
 - ・ オアシス相談 … オアシス21での面接相談 年45日
 - ・ 学校巡回相談 … 15小学校へ出向いての面接相談 年15日
 - ・ 保護者懇談会 … 不登校児童生徒の保護者懇談会としての相談会 年3回
 - ・ 適応相談 … 不登校に関する常時相談（電話相談・来所相談）
- 調査・研究
 - ・ 市教育委員会へ報告された長欠児童生徒の資料整理、巡回による実態調査
- 啓発事業
 - ・ 教職員啓発 … 適応指導教室の参観・不登校担当者会等による啓発
 - ・ 保護者啓発 … 通信「オアシス21」の発行、懇談会による啓発等

エ 通級適応指導教室の具体的運営

- 目的
不登校の児童生徒を対象にして、相談・指導を行うことにより、学校生活および社会生活への復帰を支援する。

運営方針	・「学校復帰」を第1目標として支援する ・「毎日」「定時」を目標とさせ、通所時刻は、本人と話し合って決める ・単に学校復帰でなく、今後の生き方・考え方の「自立支援」をする ・フリースクールではない
------	---

指導方針	・自ら行動を起こさせる働きかけを大切にする ・支持を避け、質問を待つ ・焦らず、意思決定を待つ
------	---

- 設置場所
平成7年10月、瀬戸市体育館2階に仮施設として開設した。平成8年度末移転を完了し、平成9年4月より瀬戸市福祉健康センター（やすらぎ会館）2階に設置。
- 通級対象者
様々な理由により、「学校に行けない」「行けていない」状態にある市内小中学校の児童生徒で、本人・保護者が通級を希望し、学校から申請のあった者。
- 通級指導担当者
瀬戸市適応指導教室指導員、ボランティア活動のオアシスメイト
- 開設日時
毎日。月曜日から金曜日まで。瀬戸市内小中学校の学期・登校日に準じる。
 - ・ 通級適応指導 … 午前9時00分 ～ 午後3時00分
 - ・ 不登校相談 … 午前9時00分 ～ 午後5時00分
- 適応指導教室への通級・入級について
 - ・ 通級・入級についての主体的な指導は、学校・担任で行う。

- ・ 保護者・本人での見学・体験通級を経て、仮入級・正式入級とする。
- ・ 通級時間・通級日等については、本人の意思を確認しながら決定していく。
- ・ 正式入級にあたっては、保護者が学校と十分話し合い、学校長から所定の申請書を提出する。

○ その他

- ・ 適応指導教室での指導中、あるいは通級途上の事故については、独立法人日本スポーツ振興センターを適用する。
- ・ 通級した日は、学校長の判断で、学校での出席扱いとする。

オ 平成27年度活動報告

○ 適応指導教室の日課

- ・ 通年の基本日課（夏休み中と3月末は別日課）

午前中は「個別学習」、午後は「体験活動」を通年の基本形としている。

午前中は個別学習の時間《チャレンジタイム》として、通級生個々の能力・学力に応じた学習活動を支援している。午後の体験活動は《オアシスタイム》と呼んで、仲間と一緒に活動することを通して、分担・協力を学ばせる場としている。

「学校登校」「学校復帰」に向けて、体験活動の重視は極めて有効であった。

	9:00	12:00	13:00	15:00
月曜 ～ 金曜	《チャレンジタイム》 個別活動（教科の学習活動） ・小学生＝国語・算数 ・中学生＝国語・数学・英語 （その他の教科の選択可能）	昼食 （弁当） 自由時間	《オアシスタイム》 集団活動（ふれあい活動） ・テニス ・バドミントン ・読書 ・室内ゲーム ・手芸 ・お菓子づくり ・畑作業 ・栽培活動 など	

- ・ 8月の日課

	9:00	12:00
月曜 ～ 金曜	《オアシスサマー21》 個別活動（個人進度による） ・小学生＝国語・算数 ・中学生＝国語・数学・英語	

※ 夏休み中は、《オアシスサマー21》として、学力補充を目的に、午前中を中心に23日間実施した。

※ 参加は個人の自由意思とした。

※ 基本的には、現在の通級生を対象とするが、希望があればこの期間のみの通級生も受け付けている。

※ 夏季休業中にオアシスキャンプを実施することもある。

- ・ 3月の日課

	9:00	12:00	13:00	15:00
月曜 ～ 金曜	《チャレンジタイム》 個別活動（教科の学習活動） ・小学生＝国語・算数 ・中学生＝国語・数学・英語 （個人的には社会・理科も可）	昼食 （弁当） 自由時間	《チャレンジタイム》 午前中の個別学習の延長 * 4月からの学校復帰をめざす通級生の学習と生活リズムを支援する活動。	

○ 適応指導教室の活動内容

【通級・在籍の状況】

27年度のおアシス登録・通級者は34名で、内訳は右表のようである。おアシスでの登録・通級人数は4月から1日でも通級実績のある児童生徒をカウントしている。したがってこの人数の中には、4月に新しい学級に溶け込めて登校できた子、修学旅行をきっかけに登校をめざした子、約束の通級期間が終わって学校に戻っていった小学生なども含まれている。

27年度の通級生の傾向を見てみると、①中学3年生が多い。②中学生が圧倒的に多い。③女子が多い。の3点が挙げられる。

〔27年度登録・通級人数〕

学年	男子	女子	計
中3	2	13	15
中2	4	8	12
中1	3	1	4
小6	0	1	1
小5	1	0	1
小4	0	0	0
小3	0	1	1
小2	0	0	0
小1	0	0	0
計	10	24	34

【入級の実態と入級指導】

おアシス入級について「学校に行けていない理由は問わない」。「このままではいけない」そう思っておアシス見学にやってくる気持ちを大切にし、励ましたいと考えている。

おアシスに見学に行った、通級するからと言って長く休んでいた児童生徒が次の日から「毎日」通ってこれることができることには無理がある。それぞれの児童生徒に応じて「10時に来れるようにしよう」「しばらくは午前中だけ」と本人の意思を尊重した通い方を決めて対応している。

〔27年度おアシス見学者〕

学年	男子	女子	うち通級者
中3	2	8	8
中2	3	7	8
中1	3	2	4
小6	1	1	0
小5	1		1
小4			
小3	1	1	1
小2			
小1			

【適応指導の状況】

「学校登校」「学校復帰」を適応指導の目標としているが、この数年は学校復帰というより「社会参加」の意識で見えていかないといけない子どもが増えている。

学校に行けなくなった。いなくなった当初の原因はともかく、長く休んでいることで習慣としての生活リズムが確立されていなかったり、「行くもの」という意識が育っていなかったり、「自立意識が低い」ことによる不登校状態、ひきこもり状態になっている子どもが多い。「毎日」「定時に」の習慣・意識の定着が必要である。また「自分の足で」行動しようとする自立意識も活動を通して育てていく必要がある。

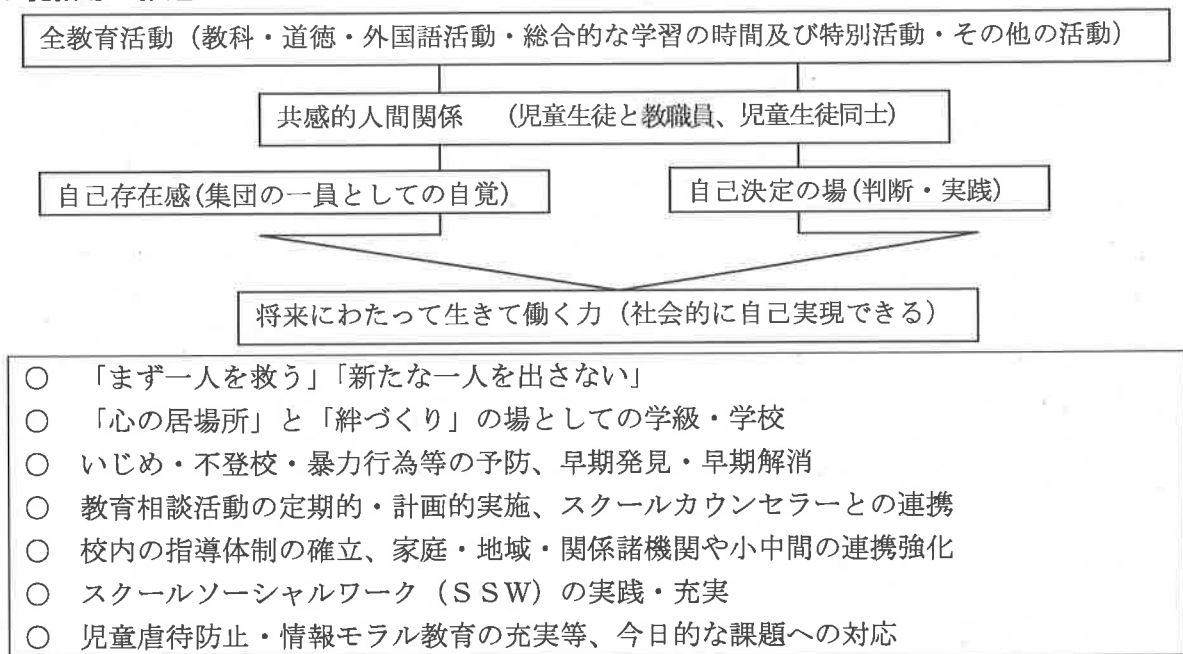
【適応指導教室の成果】

当初は無表情であまり活力を感じさせない子が活動を通して自信をつけ始めると動きが積極的になっていく。何よりも笑顔が見え表情がよくなる。

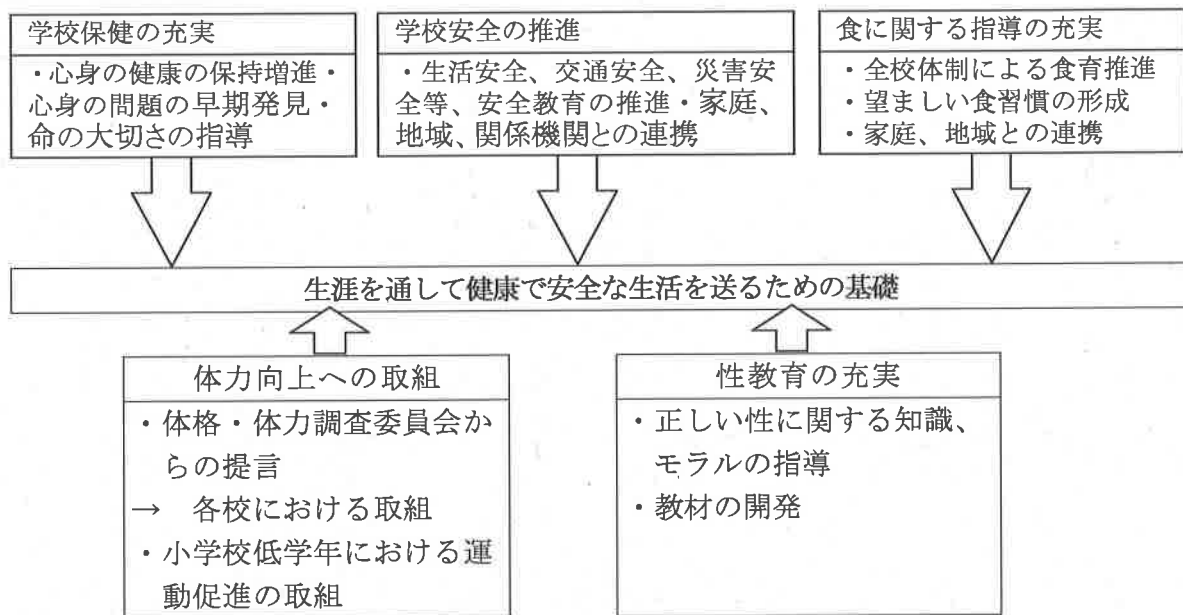
こうした変容していく姿から教えられるものがある。一つは「集団生活の中で学ぶことの大切さ」と「一緒に体験することの必要性」である。自信を失いかけた子どもたちが、次に一歩を踏み出そうとするときは体験活動の方が意欲を持って取り組みやすいようである。子どもたちの興味・意欲を引くには体験活動は有効であった。

二つ目は「毎日通っている」ことが自信になるということである。「毎日」「定時に」通えることが他からの信頼となり、自信にもなる。また、毎日通っているということは「嫌なこと」からも逃げずに「行くもの」という意識を定着させることにもなった。

(5) 生徒指導の推進



(6) 健やかな体の育成



【運動促進】

平成25・26年度に、市内5つの保育園で取り組んできた体力向上のための活動を、平成27年度からは、小学校低学年に広げていくこととした。名古屋学院大学キャンパスにおいて、全小学校から参加児童を募り、3日間にわたり取組を実施した。

今年度はそれに加え、下品野小学校における体育の授業での取組を進める。ここでの取組をモデルとして、今後は、市内のすべての小学校においても、この取組を実施できるようにしていく。



さらには、「瀬戸の運動促進連携会議」を立ち上げ、保育園と小学校で切れ目のない

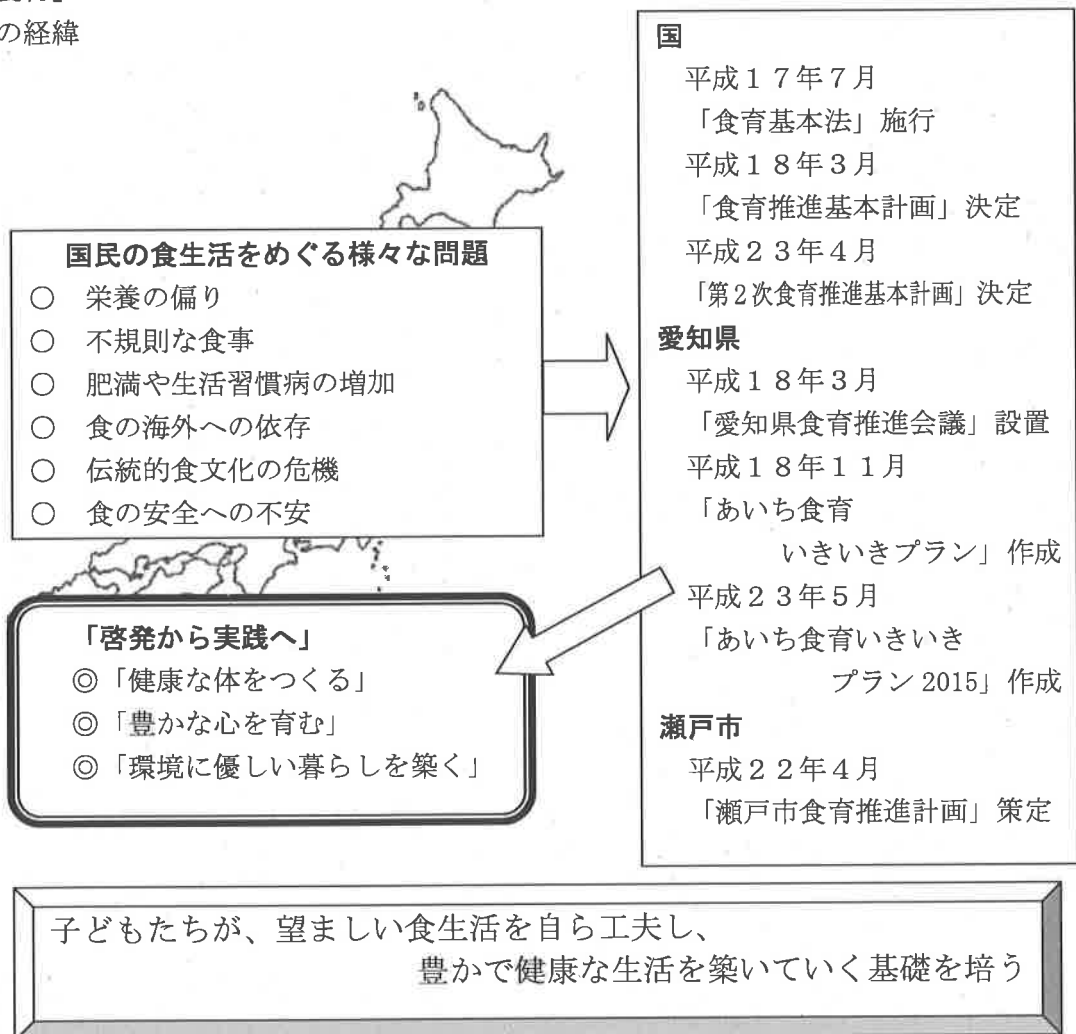
貫した指導をすることができるよう、その方針等を検討することとした。

この取組により、体力向上を図るという直接的なねらいのみならず、子どもたちの生活習慣を改善する、子どもたちの何事にも前向きに取り組もうとする姿勢や意欲、挑戦する心、自信を高める、そして仲間と協力する姿勢を育むといったことにも効果を期待することができる。このことは、これまでの保育園での取組で確認できている。今後、こうしたさまざまな面における保育園と小学校との連携を考えていく。この会議は、その核として位置づける。



【瀬戸の食育】

食育の経緯



★ 瀬戸市の食育は全国でも注目 ★

西陵小学校は、平成24年11月15日に大分県大分市で開催された、第63回全国学校給食研究協議大会において、「平成24年度学校給食文部科学大臣表彰」を受けました。牧場での搾乳体験や漁港での干物作り、また保護者とともに「西陵カフェ」を開催するなど、ユニークな実践が脚光を浴びました。

平成28年度の主な取り組み

取り組みの重点

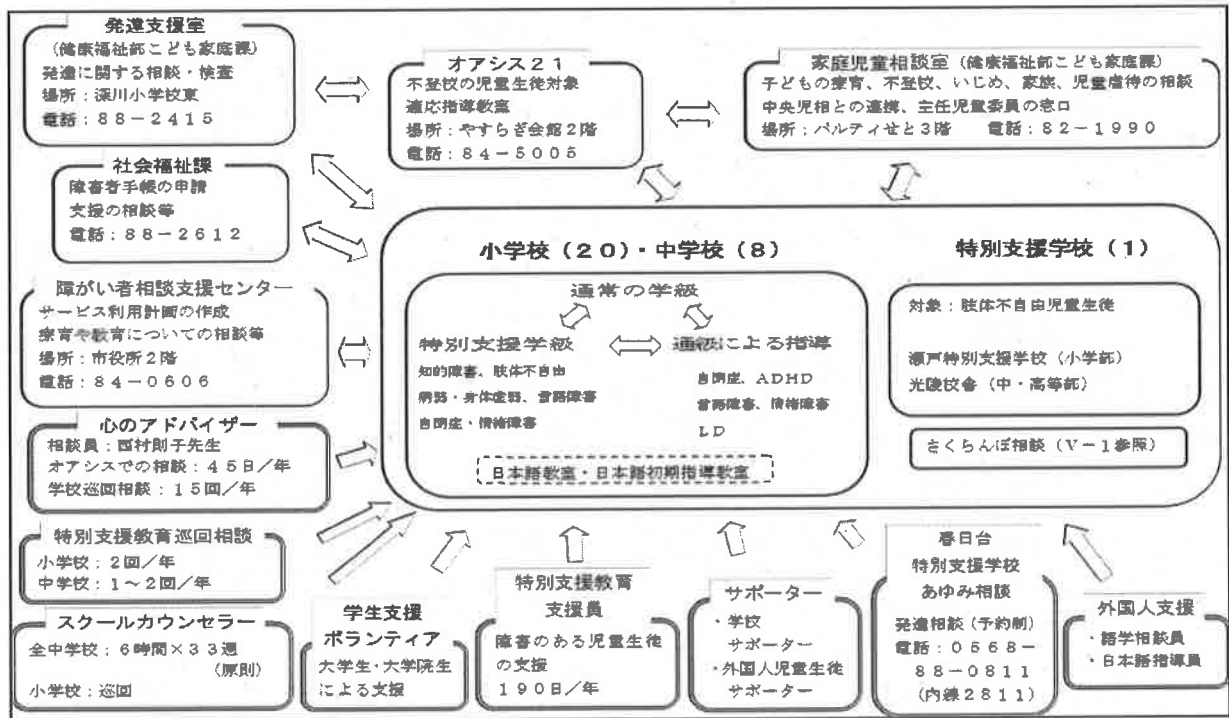
- (1) 中学校での食育指導案、指導資料の作成
小学校の食育への取組や指導案の活用状況を元に、中学校でも指導案や指導資料を作成し食育を切れ間無く継続させる。
- (2) 中学校での栄養教諭・学校栄養職員との連携検討
小学校だけではなく、中学校でも栄養教諭・学校栄養職員とのさらなる連携をすすめるための方策を検討する。
- (3) 食物アレルギーについての対応や予防策について検討
食物アレルギーの対応や対策について研修の場や検討する場を設け、瀬戸市での対応のあり方について検討を行う。

(7) 外国人児童生徒に対する日本語教育の充実

- 日本語初期指導教室における日本語指導・適応指導
- 外国人児童生徒サポーターによる学校生活の支援
- 悩みを抱える外国人児童生徒に対する心のケア

(8) 特別支援教育の充実

① 瀬戸市の特別支援教育体制図（平成28年度）



② 瀬戸特別支援学校（愛称：さくらんぼ学園）

ア 平成27年度までの状況

平成22年4月に瀬戸養護学校（愛称「さくらんぼ学園」）が設立されて以来、校訓の「支え合い、活動的に、今を生きる」のもと、保護者・地域・職員が一丸となって、児童生徒の障害の状態に応じた教育を進めている。平成26年度より、瀬戸特別支援学校と名称を変更し、ますます地域に根ざした特別支援学校としての認知も広まってきている。

瀬戸特別支援学校の特色である萩山小学校との併設という利点を生かし、開校当初より萩山小

学校との交流活動を盛んに行ってきた。各学年交流や児童会交流、学校行事としての「まるっとせとっ子フェスタせとっ子音楽会」における合同発表などは、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会を築くというノーマライゼーションの理念の実現に向けた取組であるといえる。

このような活動を通して、保護者・地域の認知・評価が高まり、入学者数が増加してきた。開校当初27名だった在籍数が、平成25年度には54名になり、萩山小に併設された校舎だけでは教室の確保が困難になってきた。そこで、光陵中学校の大規模改修を行い、光陵中に併設する形で平成26年4月瀬戸特別支援学光陵校舎を開校し、中・高等部の移転を行った。これにより、年齢が近い中学生との交流ができる状況となり、活動の幅を広げることにつながった。平成27年度は、以下のような交流および共同学習が行われた。



◎ 萩山小との交流

	1 学期	2 学期	3 学期
1 年生	自己紹介とさくらんぼ学園の体験 うたとふれあい遊び	魚釣り 生活科の共同学習	楽器の演奏・うた 国語・算数の共同学習
2 年生	自己紹介・歌遊び	風船であそぼう 運動会のダンス披露	お楽しみ会 リズム演奏・サイコロゲーム
3 年生	ひまわり・ピーマンの種まき・水やり	種で貼り絵を作ろう	豆まき 音楽発表
4 年生	自己紹介 うたとふれあい遊び	ポッチャ大会	音楽発表（中止）
5 年生	自己紹介 ポッチャ 外国語・家庭課の共同学習	家庭科・社会科・総合的な学習の共同学習 ポッチャ大会 給食交流	お手紙交流
6 年生	歌や楽器の演奏	修学旅行報告会	ポッチャ大会
児童会	交流用名札作り エコキャップ回収		モザイク画の作成

◎ 光陵中との交流

全校行事	体育祭の見学 合同避難訓練
生徒会活動	新入生を迎える会への参加
その他の活動	清掃活動、餅つき大会、音楽や給食・スポーツでの交流活動、ポッチャ大会へ光陵中学生徒が参加

イ 今後の課題

瀬戸特別支援学校が地域の特別支援教育のセンター的な機能を果たすため、教育支援部による小中学校への巡回相談活動等を行っている。平成28年度に小中学校に肢体不自由特別支援学級が新設されたことを受け、各学校との連携が強化されつつある。今後も、一層活動を充実させる必要がある。

③ 特別支援学級

ア 現状

平成19年4月から「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、発達障害に対する人々の理解が進むにつれて、特別支援教育に対する社会的なニーズが高まってきた。瀬戸市においても、保護者の期待に応える形で特別支援学級が次々と開設され、平成28年度には、市内28小中学校中、特別支援学級が開設されていない学校は2校のみとなった。4月1日現在、知的障害学級25学級、自閉症・情緒障害学級24学級、病弱・身体虚弱学級2学級、肢体不自由学級4学級が開設されており、合計142名の児童生徒が在籍している。各学級独自に、一人一人の障害の状況・発達の状態に合わせた教育課程が編成され、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援・指導が行われている。

特別支援学級に在籍する児童生徒は、校内での交流学习だけでなく、他校特別支援学級との交流活動も積極的に行っている。



毎年行われているあすなろ交流会では、市内小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が一堂に会し、グループに分かれて自己紹介をしたり、チームを組んでゲームに取り組んだりしており、一緒に活動することで、自主性・社会性を伸ばし、自立心を育てるよい機会となっている。

また、公立陶生病院内の院内学級は、病弱・身体虚弱学級として、対象児童が当該病院に入院した場合に効範小学校に設置される。

イ 今後の課題

特別支援学級の基準定員は8名であるが、個別指導を必要とする児童生徒が複数在籍している学級があり、指導者の数が足りない状況にある。特別支援教育支援員や学校サポーター等で対応しているが、基準定員の見直しを含めた各関係機関への働きかけが必要である。また、特別支援教育の経験の少ない担任もいることから、特別支援教育担当者研修のさらなる充実を図る必要がある。

④ 通級による指導

ア 現状

瀬戸市には現在、6学級分の通級指導教室が開設されている。6学級を10校で分け、小学校9校、中学校1校で、それぞれの障害種別に応じて指導をしている。

通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒に対し、各教科などの授業は通常の学級で行い、障害の状態等に応じた特別の指導を週1から3単位時間、「特別な指導の場」で実施している。

平成28年度 通級による指導

学校名	学級名	障害種別	
陶原小	通級指導教室	自閉症	設置校
東山小	通級指導教室／コスモス学級	自閉症	巡回校
西陵小	通級指導教室／コスモス学級	A D H D	設置校
幡山西小	通級指導教室／大空組	A D H D	巡回校
水南小	通級指導教室／	L D	設置校
長根小	通級指導教室／ひかり学級	L D	巡回校
効範小	通級指導教室	L D	設置校
幡山東小	通級指導教室	L D	巡回校
萩山小	通級指導教室	言語障害	設置校
光陵中	通級指導教室	情緒障害	設置校

イ 課題

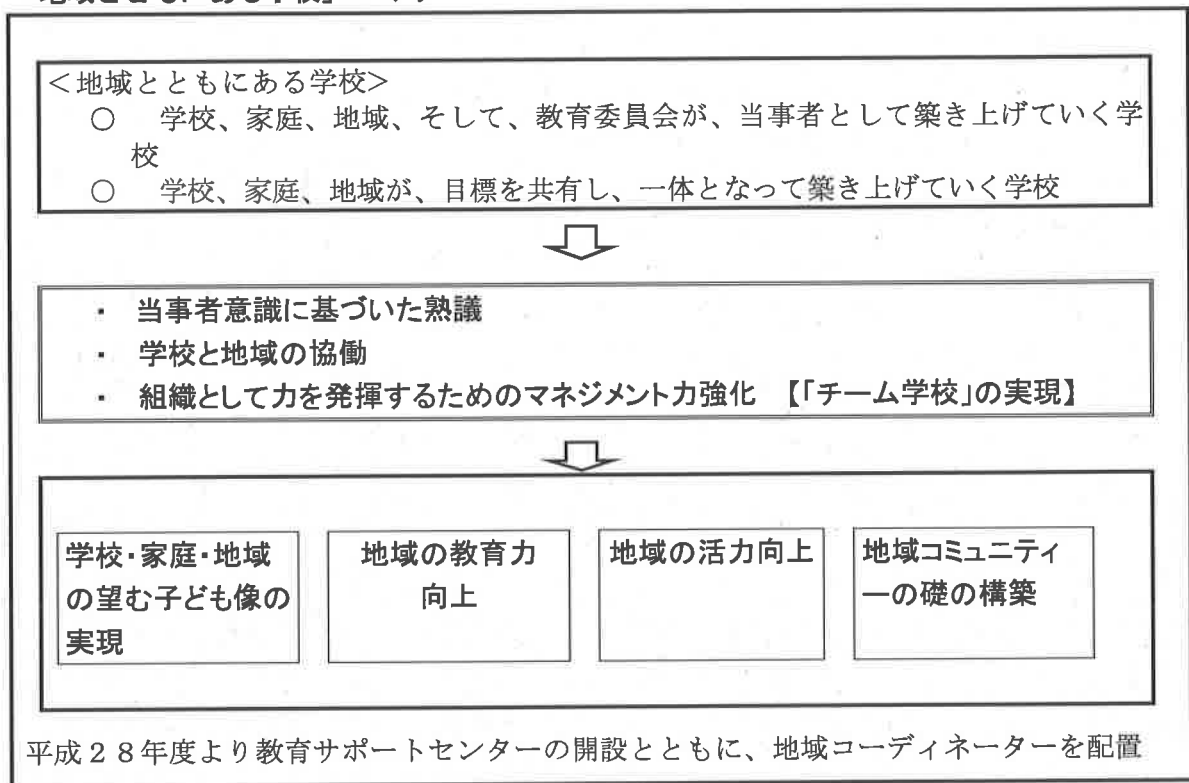
どの学校にも、通級指導対象の児童生徒が通常の学級に複数在籍している。上記10校以外には通級指導教室のような学びの場がなく、通常の学級で対応している。通級指導教室で担当できる児童生徒の数には限りがあり、本来通級指導を必要としている児童生徒が指導を受けられない場合もある。通級指導教室の設置について、各関係機関への働きかけが必要である。

⑤ 特別支援教育支援員及び学校サポーター

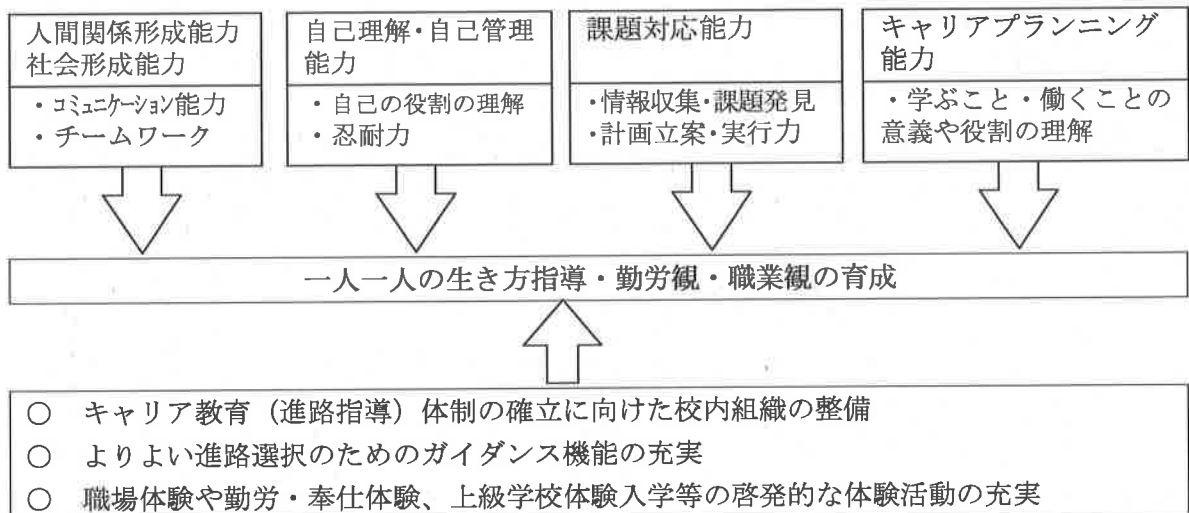
通常の学級・特別支援学級に在籍する、特別な支援を必要とする児童生徒に対応するため、市全体として特別支援教育支援員を14名、学校サポーターを約60名配置している。

さらに一人一人の教育的ニーズに的確に応えるため、特別支援教育支援員及び学校サポーターの充実を図る必要がある。

(9) 「地域とともにある学校」づくり



(10) キャリア教育（進路指導）の充実



(11) **子どもの創造性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む力の育成【未来創造事業】**

各学校が子どもの実態や地域の特色を生かし、創意工夫して主体的・創造的な教育活動を展開し、子どもたち一人一人の未来を切り拓く「自ら考え、学び、生き抜く力」を育む。

＜環境教育 国際理解教育 キャリア教育 食育 福祉教育 自然体験 地域学習等＞

【環境学習】

市天然記念物である学校のマメナシを1年生から6年生まで系統的かつ横断的に学習し、環境保護の実践体験を行っている。

地域の「マメナシ観察会」のみなさんと一緒に世界の環境問題を考えることができた。(写真は、2年生の学習会)



【国際理解教育】

オーストラリア、ニュージーランドの学校と友好提携し、相互訪問活動を通し、国際交流活動を行っている。

訪問を受け入れた場合は、全校生徒がふれあえるよう工夫をし、訪問した場合には、帰国後、文化祭等で報告会を行い、全校生徒が共有できるようにしている。



オーストラリア ビクトリア州
ロウビル・セカンダリー・カレッジの生徒による文化等の紹介

ニュージーランド ワイコウワイ中学校の生徒との授業



ニュージーランド
バルモラル校での
交流



【福祉教育】

障害のある方への理解を深めるため、実際にお話を聞いたり、自分で体験した。アイマスクをしての授業では、実際に階段の上り下りをしたり、また、それらの児童に付き添ったりすることにより、どう支援していくのかも同時に学ぶことができた。



実際に車いすに乗っての体験

アイマスクをしての授業



【合同活動】

中学校1校、小学校3校及び特別支援学校1校の5校児童生徒による小中特別支援学校合同ユートピアプラン。中学校1年生が、同学区内の小学校及び特別支援学校の児童生徒と合同で、地域美化活動を行った。



(12) 保護者・地域への発信、市民・関係団体との連携【まるっとせとっ子フェスタ】

① ねらい

瀬戸市在住・在学の子どもたちが、日頃の学習の成果を発表する場として、毎年11月に「まるっとせとっ子フェスタ」を開催している。このフェスタは、子どもたち同士、また、子どもたちと市民の方が交流し、つながりと信頼を深める場でもある。

子どもたちが元気いっぱい活動する様子をご覧いただき、瀬戸の学校、瀬戸の教育について、ご理解を深めていただきたいとの思いで、企画・運営している。

② 内容

ア セとっ子音楽会

瀬戸市内にある学校が、日頃練習してきた歌や合奏の成果を発表し、保護者や地域の皆様に聴いていただくもの。

元気いっぱいの小学生の歌声・レベルの高い中学生の合唱・気持ちをひとつにした部活動の演奏など、聴き応え十分。



イ 中学生 英語スピーチコンテスト

瀬戸市内の中学校の代表生徒が、英語スピーチに磨きをかけ、舞台発表を行う。



ウ 学校活動ブース

子どもたちが作ったり、仕入れたりした品物を、大きな声でアピールして販売する。お値打ち品や、ユニークな商品をじっくり見ながら、楽しく買い物をしていただき、瀬戸市のキャリア教育の一端をご覧いただく。



エ 各種展示会

瀬戸市の子どもたちが、授業で制作した作品や、夏休みに挑戦した課題を展示する。子どもたちの奇想天外な豊かな発想力や、大人顔負けの見事な作品は、多くの方々から賞賛の声をいただいている。



【展示内容】

せとっ子書写展、瀬戸子ども図工・美術展、せとっ子科学展、特別支援教育展
技術・家庭科展、ポスター展

オ わくわくせとっ子ワールド

まるっとせとっ子フェスタに来場した方々を、体験ブースでおもてなしする。様々な団体にご協力いただいたり、瀬戸市内の先生方にもアイデアを出していただいたりしながら、いろいろなジャンルのブースを楽しんでいただく。



カ 瀬戸の教育市民フォーラム

教育市民フォーラムは、保護者を含む市民が、瀬戸市の教育に主体的に関わっている姿を実現するための場として位置付けられており、毎年、より多くの市民に教育に対する興味を持ってもらえるよう企画、開催している。

○フォーラムの概要

第1部：「キミチャレ2016」活動映像上映&発表会

「キミチャレ」とは、子どもたちがチャレンジテーマを設定し、テーマ実現に向け試行錯誤しながら努力し、その過程で経験した「自信」や「挫折」を自らの糧として成長してもらうことを目的とした事業。具体的には、応募者の中から選考によって選ばれた小中学生に、夏休期間を利用してチャレンジ活動をしてもらい、フォーラムにおいて、その活動結果を映像も交えながら報告、発表するもの。



第2部：「魅力ある学校づくり」シンポジウム

「小中学校適正規模適正配置」をメインテーマに市長、教育委員長、瀬P連会長などをパネリストに迎え現在の瀬戸市における小中学校の規模の問題や、今後の小中学校のあり方などについてお話いただき、今後の瀬戸の教育について考える機会とすることを目的に行うもの。

(13) ライフステージに応じた切れ目のない教育の推進

○ 関係機関の連携による教育の推進

- ・ 保育園における保育、幼稚園教育および小学校教育を互いの職員が知る機会を創出する
- ・ 中学校ブロックごとの活動を増やす
- ・ 子ども同士が触れ合う機会、職員同士が学び合う機会を増やす
- ・ 幼保、小、中の情報交換・情報共有を積極的に進める
- ・ 特色ある学校づくりを推進する（小中一貫校導入の検討）
- ・ 貧困対策として、近隣大学の学生による学習支援の実施

(14) 適正で魅力ある教育環境の充実

○ 魅力ある学校づくりと学校の適正規模・適正配置の充実

- ・ 児童生徒が適切な教育環境で学校生活を送ることができるよう、教職員が主体的に考え、学校の適正規模・適正配置を進めるとともに、魅力ある学校づくりを推進する。

○ 安心で安全な学校づくりの充実

- ・ 児童生徒が自他のいのちを大切に、自ら考えて行動することができるようにするための実践的な防災教育を実施する。

○ 信頼される学校づくりの推進

- ・ 学校公開日を設けたり、学校通信やホームページなどにより広く情報発信をしたりして、開かれた学校づくりを進める
- ・ 家庭・地域・他機関と連携・協力し、「チーム学校」としての学校マネジメント力を高める。

3 教職員の研修

(1) 方針

- 教育に携わる者として、自らの専門性確立のために、謙虚な態度でたゆまなく研修に努める。教職員も、「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成する。
- 校内現職教育の充実に努め、学校教育目標の達成をめざして、研修等の活動を推進する。
- 文部科学省・愛知県教育委員会・愛日地方教育事務協議会・市教育委員会並びに各種教育研究団体の研修機会を活用する。

(2) 教職経験に応じた研修等と「自ら考え、学び、生き抜く力」の育成

経 験	「教員として必要な資質能力」	年 数	主な研修	「自ら考え、学び、生き抜く力」の育成	
	<p>学級指導・生徒指導・学級経営 学校における職務一般等について の職務遂行能力を取得</p>	1 年 目	<p>初任者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県・尾張・市の研修計画に基づいて実施する。 	<p>課題の発展 新たな課題設定</p> <p>↓</p> <p>目標・仮説・手だて等の設定</p> <p>↓</p> <p>実践</p> <p>↓</p> <p>検証</p> <p>↓</p> <p>分析</p> <p>↓</p> <p>研究のまとめ 論文執筆</p>	
		2 年 目	<p>2年目研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育研究の進め方について研修 ○ 夏季研修（教育実践レポート中間報告） ○ 教育実践レポート提出（A4 4ページ） 		
		3 4 年 目	<p>少経験者研修（3・4年目研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏季研修 <生徒指導・道徳・特別活動等> ○ 教育論文執筆は任意とする。 		
		5 年 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育論文執筆は任意とする。 ○ 校内研修・自主研修等により力量向上を図る。 		
		6 年 目	<p>5年経験者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5年研修における校内研修の充実を図る。 ○ 校内研修における課題追求にあわせて「教育論文」を執筆する。 		
		7 8 9 10 年 目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育論文執筆は任意とする。 ○ 校内研修・自主研修等により力量向上を図る。 		
	11 年 目	<p>10年経験者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10年研修における校内研修の充実を図る。 ○ 校内研修における課題追求にあわせて「教育論文」を執筆する。 	<p>課題の発展 新たな課題設定</p> <p>↓</p> <p>実践 検証 分析</p> <p>↓</p> <p>研究のまとめ 論文執筆</p>		
	12 年 目 以 降	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育論文執筆は任意とするが、常に自己の教育課題を有し、追求する ○ 各職務・担当に応じた研修 ○ 教員免許更新講習 ○ 校内研修・校内研究 ○ その他の研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主研修、その他 	<p>課題の発展 新たな課題設定</p> <p>↓</p> <p>実践・検証</p> <p>↓</p> <p>分析・考察</p> <p>↓</p> <p>研究のまとめ</p>		
		<p>学級・学年運営、 教科指導、生徒指導、 学校運営上の職務等 に関しての力量向上</p>			
		<p>若手教員への指導助言 職務に関する専門的知識・技能 の向上</p>			
		<p>幅広い教養の取得 調整力・運営力等の取得</p>			

教員としての力量向上を図り、その専門性を確立していくためには、教職経験を重ねたり、様々な研修に参加したりする中で、その経験や職責、学校において担うべき役割に応じた資質能力を身につけていく必要がある。あわせて、自己の教育課題を見出すとともに、その解決に向けてたゆまなく研究・研修に努めていかねばならない。こうした過程は、教職員自らの「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成する取組である。児童生徒・保護者・地域から信頼される教員であるために、常に自己研鑽に努めていかねばならない。

① 初任者研修

新規採用教員に対して、教員としての自覚を高め、実践的な指導力を養うとともに、幅広い見識を会得させ、教員として必要な資質の向上と研修意欲の喚起を図る。指導教員を中心として学校全体であらゆる機会を通じて取り組み、研修の充実を図る。

② 2年目研修

採用2年目の教員に対して、初任者研修等を通して身につけた教員としての資質・実践的指導力の更なる向上を図る。また、教育課題の見出し方・教育研究の進め方について研修し、自らの教育課題に基づいた実践を課題レポートにまとめ、提出する。

③ 少経験者研修（3・4年目研修）

3・4年目の教職経験者を対象に、「道徳」「特別活動」「生徒指導」に関する研修を3年1巡で実施する。〔平成28年度「特別活動」・平成29年度「生徒指導」・平成30年度「道徳」〕

④ 教職経験者研修

ア 5年経験者研修

- ・ 校内研修の充実を図る。
- ・ 総合教育センターの実施要項に従い研修を行う。
- ・ 平成23年度以降の採用者及び転任者は、校内研修課題を教育論文にまとめ提出する。

イ 10年経験者研修

- ・ 総合教育センターの実施要項に従い研修を行う。
- ・ 社会体験研修と異校種体験研修については、併せて3日間の研修を選択し受講する。
- ・ 校内研修・特定課題研究等、校内研修計画の充実を図る。
- ・ 平成23年度以降の採用者及び転任者は、校内研修や課題を教育論文にまとめ提出する。

⑤ 教育研究論文

全教職員を対象に、個人及び共同での教育実践を踏まえた教育研究論文を募集する。

⑥ 指定研修員

研究心旺盛かつ指導力に優れた者で、今日的教育課題を研究課題としている教員を対象として募集する。候補者の推薦は、本人の願書に校長推薦書を添えて、市教委へ提出する。願書等は規定の用紙を学校へ年度当初までに送付する。市教委は、応募者の中から過去の研究実績・研究課題・研究状況等を考慮し、10名程度決定する。

⑦ スクールセミナー

学校の教育活動の充実のために、各校が取り組んでいる「未来創造事業」の推進や教員の授業力・指導力向上に向けて、指導主事、教科指導員を派遣する。

⑧ 精神衛生推進事業

各学校に在籍するいじめ・不登校など様々な問題を抱える児童生徒や発達障害のある児童生徒の理解や指導方法、エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどの技法等について研修するために、豊かな見識と経験をもつ講師を各学校の要請に従って派遣する。

⑨ セト・ティーチャーズ・アカデミー

瀬戸教育アクションプランの具現化にむけて、教職員の資質の向上を図るとともに、瀬戸の教育を創造していく機会とし、子どもたち一人一人の学びや成長を、確かに支えていく教育活動を推進していくための研修を深めることをねらいとした。

そのために教職員は、子どもたちが「学ぶことが大好き」、「学校が大好き」と言える学校づくり・学級づくりを目指す。こうした学校・学級づくりを進めていくために必要なのは、教師の力量を向上させることであり、瀬戸市の教員や学校のつながりを大切にすることである。

午前中は、ラグビー日本代表チームのメンタルコーチとして、チームの歴史的勝利に貢献した荒木香織氏を招聘し、「子どもたちのモチベーションを引き出すために」というテーマで講演をしていただいた。

専門とされているスポーツ心理学の見地から、人をその気にさせて挑戦へと導く上で、指導者として知っているといふことや必要な手立てについてお話いただき、多くの教員が自らの実践を見つめ直す機会となった。また、今年度も一般の方にも聴いていただき、教育に対する共通の思いを持っていただくとともに、教員研修の様子を知っていただく場とした。

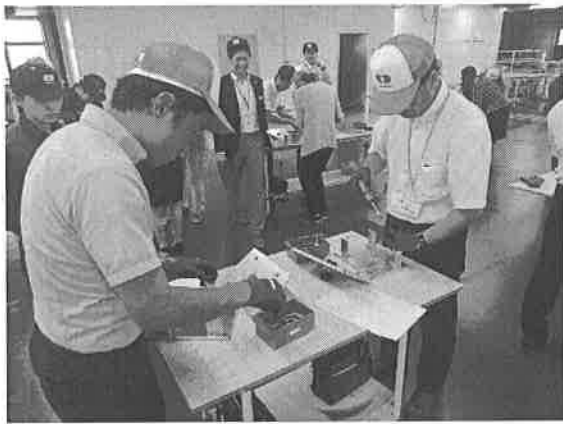
午後は、瀬戸市の各研究会による自主的・創造的な講座や外部講師の協力を得て、13講座を開設した。

その講座に対して個々の先生が興味や課題に応じて講座を選択し、意識の高揚や力量向上を図る機会となった。



楽しく、真剣に
各講座の研修に
取り組む教員





各講座の研修を通して見聞を広めました



⑩ 各種研修会

教職員の力量向上のため、各種研修会を実施する。

- | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> 学校経営研修会 | <input type="radio"/> 指導力向上研修会 | <input type="radio"/> 発達支援研修会 |
| <input type="radio"/> いじめ対策研修会 | <input type="radio"/> カウンセリング研修会 | 等 |

(3) 各組織による研究推進・研修会開催

① 研究推進校の委嘱

	事業名	委嘱先	年度
国・県	学校保健（健康推進学校）	東山小学校	25・26・27・28
国	学校体育研究（学体連）	水野中学校	28
国	起業体験推進事業	本山中学校 品野中学校	28
県	キャリアコミュニティプロジェクト	水無瀬中学校 水野中学校	28

② 研究の委託

- 社会科副読本「せと」・「瀬戸」編集委員会
社会科副読本「せと」・「瀬戸」の改訂に向け、資料の収集と編集等を行う。
- 教育情報化推進委員会
学校教育の情報化推進に向け、ICTを活用した授業、および校務用コンピュータの活用についての研究を進める。
- 性教育推進委員会
性教育の推進を図る。指導用資料「明日へのあゆみ」の改訂を行う。
- 特別支援教育推進委員会
特別な支援を必要とする児童生徒の実態把握・支援のあり方、効果的な校内支援体制作りについての研究を進める。
- 食育推進委員会
食育を推進していくためのカリキュラムづくりや指導方法などの研究を進める。

③ 各職務・担当者等研修会

- 校長研修会
- 校務主任研修会
- 学校事務職員研修会
- 特別支援教育コーディネーター研修会
- 学校用務員夏季共同作業研修
- 教頭研修会
- 保健主事研修会
- 学校経営研修会
- 栄養教諭・学校栄養職員研修会
- 学校用務員緑化研修（不定期開催）
- 教務主任研修会
- 養護教諭研修会
- 特別支援教育担当者研修会

④ 各種委員会・連絡協議会

- 現職教育委員会
現職教育全般に関する企画・運営
- 学校教育組織検討委員会
瀬戸市全体の学校教育の組織体制・運営方法の見直し
- 教育支援委員会
適正就学に向けての検討や教育相談の実施
- 瀬戸の学び創造委員会
「確かな学力」の向上に向けての検討・提言
- 瀬戸地区生徒指導連絡協議会
小中高校の生徒指導担当者による各校等の情報交換及び協議
- 瀬戸市交通安全指導連絡協議会
小中高校の交通安全担当者による各校等の情報交換及び協議
- いじめ・不登校対策推進協議会
いじめ・不登校問題の実態把握、予防・改善策について協議、いじめ・不登校対策研修会の実施
- 瀬戸市特別支援教育地域連携会議
特別支援教育に関わる関係諸機関の代表者による情報交換及び、協議、ケース会議の開催

4 学校の状況

(1) 学年別児童・生徒数

(平成28年5月1日現在)

No.	学校名	児童・生徒数										
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	男	女	計	学級数	
小 学 校	1	陶原	106	102	116	97	98	107	321	305	626 (3)	20 (2)
	2	深川	5	9	5	11	12	14	28	28	56 (1)	7 (1)
	3	祖母懐	23	21	16	18	28	22	63	65	128 (5)	9 (3)
	4	道泉	45	30	36	26	43	28	101	107	208 (1)	9 (1)
	5	效範	77	94	96	100	78	111	291	265	556 (4)	19 (2)
	6	東明	20	23	18	10	13	16	58	42	100	6
	7	古瀬戸	15	19	12	15	14	18	46	47	93 (2)	7 (1)
	8	水野	69	69	88	60	64	58	199	209	408 (3)	16 (3)
	9	水南	91	91	104	96	73	96	286	265	551 (6)	19 (2)
	10	幡山東	86	78	76	73	77	75	238	227	465 (5)	17 (3)
	11	幡山西	78	94	105	99	96	98	283	287	570 (13)	21 (3)
	12	下品野	76	58	91	73	87	70	242	213	455 (3)	17 (2)
	13	品野台	13	14	13	15	9	18	39	43	82 (1)	7 (1)
	14	掛川	5	5	6	7	6	3	19	13	32 (1)	5 (1)
	15	長根	86	78	93	68	76	80	239	242	481 (3)	17 (2)
	16	原山	37	41	39	40	54	42	131	122	253 (4)	12 (2)
	17	東山	99	129	144	145	155	155	421	406	827 (8)	25 (2)
	18	萩山	17	17	20	22	23	29	57	71	128 (4)	8 (2)
	19	八幡	32	36	44	46	48	49	127	128	255 (6)	13 (2)
	20	西陵	132	136	126	116	122	96	392	336	728 (10)	24 (3)
計		1,112	1,144	1,248	1,137	1,176	1,185	3,581	3,421	7,002 (83)	278 (38)	
中 学 校	1	水無瀬	210	217	206				321	312	633 (23)	22 (5)
	2	祖東	43	69	62				99	75	174 (3)	8 (2)
	3	南山	327	309	349				502	483	985 (14)	30 (3)
	4	本山	46	30	28				51	53	104 (1)	5 (1)
	5	幡山	184	176	221				305	276	581 (11)	19 (2)
	6	品野	78	76	93				128	119	247 (5)	11 (3)
	7	光陵	90	101	90				142	139	281	9
	8	水野	167	160	160				241	246	487 (5)	15 (2)
	計		1,145	1,138	1,209				1,789	1,703	3,492 (62)	119 (18)
支 瀬 援 戸 学 特 校 別	小学部	5	6	5	7	10	8	22	19	41	14	
	中学部	5	2	4				6	5	11	5	
	高等部	4	2	3				6	3	9	5	
	計							34	27	61	24	

() 特別支援学級分再掲

資料：学校基本調査

(2) 児童・生徒数等の推移

① 小学校

(各年5月1日現在)

年 度		1 9	2 0	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8
学校数		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
学級数		264 (21)	269 (23)	272 (24)	275 (28)	279 (30)	281 (32)	276 (31)	278 (30)	277 (32)	278 (38)
教員数	男	169	171	170	176	182	189	183	179	184	177
	女	246	255	250	266	270	281	282	300	309	306
	計	415	426	420	442	452	470	465	479	493	483
児童数	男	3,946	3,986	3,895	3,846	3,736	3,689	3,633	3,615	3,590	3,581
	女	3,543	3,558	3,584	3,606	3,632	3,548	3,527	3,542	3,498	3,421
	計	7,489 (68)	7,544 (71)	7,479 (68)	7,452 (68)	7,368 (80)	7,237 (86)	7,160 (80)	7,157 (83)	7,088 (86)	7,002 (83)

② 中学校

年 度		1 9	2 0	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8
学校数		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
学級数		111 (8)	111 (9)	119 (11)	113 (10)	117 (10)	114 (8)	113 (10)	114 (11)	113 (12)	119 (18)
教員数	男	160	153	157	147	148	143	152	156	152	155
	女	87	105	112	105	102	103	100	102	104	103
	計	257	258	269	252	250	246	252	258	256	258
生徒数	男	1,903	1,893	1,954	1,914	1,961	1,918	1,903	1,884	1,815	1,789
	女	1,720	1,715	1,698	1,652	1,636	1,677	1,652	1,686	1,652	1,703
	計	3,623 (33)	3,613 (35)	3,652 (45)	3,566 (46)	3,597 (42)	3,595 (32)	3,555 (41)	3,570 (50)	3,467 (55)	3,492 (62)

③ 特別支援学校

年 度		1 9	2 0	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8
学級数		—	—	—	12	15	17	21	13	24	24
教員数	男	—	—	—	17	17	18	17	19	24	19
	女	—	—	—	17	17	23	35	38	36	42
	計	—	—	—	34	34	41	52	57	60	61
生徒数	男	—	—	—	17	22	30	35	37	38	34
	女	—	—	—	10	14	16	19	21	25	27
	計	—	—	—	27	36	46	54	58	63	61

※ () 特別支援学級分再掲、教員数は兼務者を含む

資料：学校基本調査

(3) 教育事務委託児童生徒数

(平成 27 年度実績)

	春日井市	多治見市	合 計
小 学 校	1	0	1
中 学 校	14	2	16

(4) 学校別教員数

(平成 28 年度実績)

No.	学校名	県費負担職員					市費負担職員			校 長 名
		教員数			事務	栄養職員	用務員	調理員	栄養職員	
		男	女	計						
小 学 校	1 陶 原	9	23	32	1		1			野田 美裕
	2 深 川	6	5	11	1		1		1	浅井 光雄
	3 祖母懐	6	10	16	1		1	2		栗原 幸宏
	4 道 泉	5	12	17	1			2		稲垣 登美一
	5 效 範	11	21	32	1		1			河路 久
	6 東 明	4	7	11	1		1	2		永草 弘康
	7 古瀬戸	3	11	14	1		1	1		右高 恭子
	8 水 野	9	17	26	1		1	6		石田 正人
	9 水 南	12	23	35	1					刑部 哲也
	10 幡山東	9	20	29	1		1			西原 勇
	11 幡山西	13	24	37	1		2			早川 元彦
	12 下品野	11	22	33	1		1			片田 晃司
	13 品野台	4	7	11	1		1		1	石河 光章
	14 掛 川	6	3	9	1		1			臼井 一夫
	15 長 根	11	20	31	1		1		1	此下 明雄
	16 原 山	10	12	22	1		1		1	長江 章彦
	17 東 山	13	25	38	1		2			前田 孝子
	18 萩 山	9	9	18	1		1	2		石原 邦彦
	19 八 幡	8	17	25	2		1		1	加藤 寛司
	20 西 陵	18	18	36	1		2			山田 滋生
	計	177	306	483	21	0	21	15	5	
中 学 校	1 水無瀬	23	20	43	2		1			水野 明敏
	2 祖 東	14	9	23	1		1			水野 富士夫
	3 南 山	32	25	57	2	1	1			谷口 亨
	4 本 山	11	5	16	1		1			勝田 拓真
	5 幡 山	25	11	36	2		2			中崎 毅
	6 品 野	15	10	25	1		1			八槇 直幸
	7 光 陵	16	11	27	1		1			臼井 和人
	8 水 野	19	12	31	1		1			加藤 正彦
		計	155	103	258	11	1	9		
	特別支援	19	42	61	5	0	2	3	1	鶴飼 博

※教員数は兼務者を含む ※用務員・調理員は臨時職員を含む

資料：学校基本調査

(5) 中学校卒業者の卒業後の状況

		25		26		27	
			割合(%)		割合(%)		割合(%)
卒業生総数		1,200	—	1,249	—	1,125	—
全 日 制	国立	0	0	3	0.2	0	
	公立	799	66.6	834	66.8	762	67.7
	私立	263	21.9	274	21.9	242	21.5
高等専門学校		10	0.8	9	0.7	11	1.0
定時制		17	1.4	23	1.8	16	1.4
通信制		69	5.8	66	5.3	51	4.5
各種 専修 学校	高等専修	0	0	1	0.1	5	0.4
	各種	0	0	0	0	0	0
	職業訓練校	0	0	0	0	0	0
特別支援学校高等部		10	0.8	14	1.1	18	1.6
就職(除・定時制)		5	0.4	8	0.6	6	0.5
その他		27	2.3	17	1.4	14	1.2

※特別支援学級卒業者を含む公立中学および特別支援学校のみ

資料：学校基本調査他

○ 高等学校進学率

卒業年度	23	24	25	26	27
卒業生総数	1,233	1,163	1,200	1,249	1,125
進学者	1,169	1,136	1,168	1,224	1,105
進学率(%)	94.8	97.7	97.3	98.0	98.2

※進学者数には、高等学校卒業資格の取得ができる各種専修学校への進学者数も含まれます。

○ 全日課程高等学校地区別進学状況

公私立別	公立高校				私立高校			
	26		27		26		27	
地区別	瀬戸市内	他地区	瀬戸市内	他地区	瀬戸市内	他地区	瀬戸市内	他地区
進学者	446	389	371	391	26	247	39	203
進学率(%)	35.8	31.2	33.0	34.8	2.1	19.8	3.5	18.0

※瀬戸市内中学校卒業生(公立中学校のみ)の地区別進学状況を示したもの

5 学校施設一覽

平成28年5月1日現在

学校名			学級数	保有教室数											
				普通	理科	音楽	図工／美術	コンピュータ	生活／技術	家庭	視聴覚	図書	特別活動	教育相談	進路資料指導
小 学 校	1	陶原	20	20	1	1	1	1		1		1	4	1	
	2	深川	7	7	1	1	1	1		2		1	1	1	
	3	祖母懐	9	9	1	1	1	1	1	2		1	3		
	4	道泉	9	9	1	1	1	1	1	1		2	2	1	
	5	效範	19	19	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	
	6	東明	6	6	1	1	1	1		1		1	1		
	7	古瀬戸	7	7	1	1	1	1		1		1	1	1	
	8	水野	16	16	1	1	1	1		1		1	2		
	9	水南	19	19	1	1	1	1	1	1		1	5		
	10	幡山東	17	17	1	1	1	1		1		1	2	1	
	11	幡山西	21	21	1	1	1	1	1	1		1	3		
	12	下品野	17	17	1	1	1	1		2		2	4	2	
	13	品野台	7	7	1	1	1	兼1		1		1	1		
	14	掛川	5	5	1	1	1	兼1		1		1	3		
	15	長根	17	17	1	1	1	1		1		1	1		
	16	原山	12	12	1	1	1	1	2	1		1	12	1	
	17	東山	25	25	1	1	1	1		1		1		1	
	18	萩山	8	8	1	1	1	1		1		1	1	1	
	19	八幡	13	13	1	1	1	1		1		2	8	1	
	20	西陵	24	24	1	1	1	兼1		1		1	1		
計			278	278	20	20	20	20	7	23	1	23	60	12	
中 学 校	1	水無瀬	22	22	2	2	2	1	2	2		1	5	2	1
	2	祖東	8	8	1	1	1	1	2	2		2	2	1	1
	3	南山	30	30	2	2	2	1	2	2		1	5	1	
	4	本山	5	5	1	1	1	1	2	2	1	2	5	2	3
	5	幡山	19	19	2	2	2	1	2	2	1	1	5	4	1
	6	品野	11	11	1	1	1	1	2	2	1	1	5	3	1
	7	光陵	9	9	2	2	1	1	2	2		1	3	3	2
	8	水野	15	15	2	1	1	1	2	2	1	1	3	1	3
	計			119	119	13	12	11	8	16	16	4	10	33	17
瀬戸特別支援学校			24	24										1	

(単位：㎡)

プ ー ル	柔 剣 道 場	校 舎 保 有 面 積	体 育 館 保 有 面 積	校 地 面 積				
				建 物 敷 地	運 動 場	そ の 他	借 用	計
425		4,848	1,097	11,970	24,949	21,571		58,490
297		3,185	733	4,520	7,700	1,982		14,202
310		3,298	581	7,000	12,000	9,156		28,156
435		3,838	684	4,250	13,499	2,638		20,387
310		4,989	674	6,292	7,895	1,685		15,872
335		2,785	666	5,400	8,400	9,234		23,034
310		2,985	671	6,326	9,728	10,726		26,780
310		3,634	681	3,480	837	1,200	17,589	23,106
340		4,499	673	13,116	5,040	7,000		25,156
375		3,575	656	4,540	11,300	5,960		21,800
365		4,666	656	6,956	9,756	1,677		18,389
335		4,137	669	3,500	11,816	1,922		17,238
313		4,673	702	14,512	6,767	6,806		28,085
214		1,693	594	3,277	5,709	16,745		25,731
310		3,765	841	7,353	8,895	3,577		19,825
310		5,503	656	9,500	12,000	2,017		23,517
310		5,240	656	11,000	9,500	2,200		22,700
310		3,050	656	6,553	6,507	4,951		18,011
310		5,062	661	7,250	12,320	5,110		24,680
310		4,502	656	9,907	15,550	3,076		28,533
6,534		79,927	13,863	146,702	200,168	119,233	17,589	483,692
275	391	6,385	1,200	14,731	12,594	22,899		50,224
275	376	4,497	1,267	7,350	13,900	15,206		36,456
275	376	7,165	1,333	17,125	17,065	2,210		36,400
	397	4,111	1,211				39,599	39,599
425	358	6,206	1,208	10,142	11,154	3,931	2,400	27,627
275	421	5,120	1,333	10,937	10,663	37,857		59,457
275	644	6,317	1,310	17,226	7,532	8,939		33,697
275	373	4,940	1,217	11,470	18,239	8,560		38,269
2,075	3,336	44,741	10,079	88,981	91,147	99,602	41,999	321,729
		3,442		5,548	3,497	3,458		12,503

資料：公立学校施設実態調査

6 瀬戸市立小学校の適正配置

瀬戸市立の小・中学校における児童数・生徒数は、昭和50年代後半にピークを迎え、その後は減少傾向が続いている。そのため、1学年1学級の単学級校の出現や、各学校間に生じたアンバランスなど、学校運営上の諸問題が発生し、児童生徒の教育環境に影響を及ぼしている。

このような状況の中で、平成11年2月庁内に「瀬戸市立小中学校適正配置等検討委員会」を設置して検討を始めたが、各界の方々の幅広い意見を伺い、一層論議を深めるべきであるとの考えから、平成13年1月に教育委員会の諮問機関として「瀬戸市立小学校適正配置等協議会」を設置した。

同協議会では、現行の学校教育に係る諸制度を前提に、将来展望も配慮しながら『子どもたちにとって望ましい学校像』を求めて、約1年半12回にわたる審議の結果、小学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方、具体的な方策、実施に際しての配慮事項等について取りまとめを行い、平成14年7月に以下の答申がされた。

瀬戸市立小学校適正規模適正配置答申《概要》

瀬戸市では、近年少子化傾向が顕著に現れており、学校の小規模校化が目立っている。一方、南部、西部地区では宅地開発や新たなまちづくりが進み、児童の増加とそれに伴う学級数の増加により、学校の大規模校化が進んでいる。

瀬戸市立小学校適正配置等協議会では、この相反する動きを是正し、瀬戸の子どもたちのより良い教育環境の整備、充実した学校教育の実現に向けて、公平な立場で全小学校を対象に検討し、次のとおり取りまとめた。

適正規模適正配置を考えるにあたっての基本原則

1 学習・教育目標実現への配慮

- (1) 多様な人間関係形成の保障
- (2) 集団的学習活動の保障
- (3) 多様な意見や考え方に触れ、自ら考え、自ら解決する「生きる力」育成への配慮

2 物理的学習・教育環境条件の維持

- (1) 学習活動を維持するに足る特別教室等の確保
- (2) 地域生涯学習拠点としての条件整備
- (3) 通学圏（通学時間等）への配慮

3 家庭・地域社会・学校の連携推進

- (1) 家庭・地域に根ざした学習・教育活動の推進
- (2) 学習・教育活動を支援できる有為な地域人材の導入とそのための環境整備

4 円滑な学校運営の実現

- (1) 適切な教員数の確保による学習・教育活動の保障
- (2) 適正な規模による学校運営の円滑化

具体的方策を検討するための基準

- 1 1学年の適正な規模は、2学級から3学級とする。
- 2 適正な通学距離は、概ね2Km以内とする。

(1) 平成27年度の取り組み状況について

平成27年度については、第2次瀬戸市教育アクションプランの策定年ということもあり、ワークショップ形式により、市内各学校のPTA役員から学校教育全般に対する意見や希望をお聞きするとともに、小中学校適正規模適正配置についての意見も伺いました。

- 1) 本山中学校区 9月14日(月) 参加者数18名
- 2) 品野中学校区 9月17日(木) 参加者数17名
- 3) 光陵中学校区 9月19日(土) 参加者数21名
- 4) 水無瀬中学校区 10月2日(金) 参加者数22名
- 5) 幡山中学校区 10月5日(月) 参加者数18名
- 6) 水野中学校区 10月6日(火) 参加者数26名
- 7) 祖東中学校区 10月8日(木) 参加者数36名
- 8) 南山中学校区 10月13日(火) 参加者数21名

その後、さらに、「確かな学力と定着」、「地域や社会とつながる教育の推進」、「適正で魅力ある教育環境の充実」についてのワークショップを行い、小中学校適正規模適正配置に関する様々なご意見を伺いました。

- 1) 水無瀬・光陵中学校区 平成28年2月1日(月) 参加者数36名
- 2) 幡山・南山中学校区 2月3日(水) 参加者数47名
- 3) 祖東・本山中学校区 2月8日(月) 参加者数28名
- 4) 水野・品野中学校区 2月9日(火) 参加者数44名

(2) 今後の取り組みについて

平成28年度については、次のとおり、小中学校適正規模適正配置に関する市としての方針を定めました。

- ・5小学校(道泉小学校、深川小学校、古瀬戸小学校、東明小学校、祖母懐小学校)と2中学校(本山中学校、祖東中学校)を統合し、小中一貫校を開校する。
- ・場所は、東公園地内(中山町)とする。
- ・平成32(2020)年の開校を目指す。

対象となる学校のPTAをはじめ、地域住民に対しての説明会を開催し、小中一貫教育をはじめ、通学や学校跡地の活用など、さまざまな課題についての協議を重ねています。なお、小中学校適正規模適正配置に関する最新の情報は、市ホームページでご覧いただくことができます。

また、8月には、瀬戸市小中一貫校施設整備委員会を立ち上げ、学識経験者や有識者をはじめ、関係連区自治会の代表者やPTA関係者などとともに、小中一貫教育に適した学校施設整備等の目指す姿をはじめ、学校施設を核とした公共施設の再編による複合化など、地域の新しい拠点整備に向けた方策について協議しています。

7 隣接学校選択制

(1) 目的

- ・本人及び保護者の願いに応じた学校選択の機会の拡大を図り、積極的に学校に関わっていかうとする意識を高める。
- ・学校現場の活性化を図り、特色のある学校づくりをすすめる。
- ・学校の活性化に伴って地域と学校の連携をさらに深め、地域社会から学校への幅広い参画をすすめる。

(2) 選択の機会

小中学校入学時、転入転居に伴う小中学校転入学時

(3) 選択可能校

小学校入学時は在住の小学校区、中学校入学時は在住の中学校区を中心に、周辺の隣接している学校区の小中学校を選択可能とする。

(4) 特認校の設定

一般の小中学校とは一線を画する特色のある学校については、隣接の学校区の児童生徒のみならず、市内全域からの選択希望に対応する必要がある。このことから、品野台小学校はオープンスクール、エコスクールとしての特色があるため、市内全域から選択できる特認校とする。なお、今後特色のある学校が設立された場合、検討の上特認校の設定を行う。

(5) 抽選の実施

各学校はあらかじめ学校区外からの受け入れ人数を設定し、広報紙や教育委員会ホームページで公表する。受け入れ人数を超える希望者があった場合は、公開抽選により入学者を決定する。なお、兄弟が入学時に希望校に在籍見込みの申請者や、隣接学校選択制実施以前から隣接校に入学可能であった地域に居住する申請者は、抽選から除外し、優先的に入学できるものとする。

(6) 学校の情報公開

入学前の児童生徒に対して学校の情報を提供するため、各学校は学校要覧及びホームページを作成する。また、学校公開日を設定して教育活動を広く公開する。

(7) 通学方法

公共交通機関での通学や自家用車での通学を含め、通学方法の決定と安全確保は保護者の責任とする。ただし、自転車通学は原則として認めない。なお、通学に必要な費用は保護者の負担とする。

(8) 備考

- ・入学が決定した学校には卒業まで通学するものとする。
- ・申請により隣接小学校に入学した児童が、その小学校区が含まれる中学校区の中学校に入学を希望する場合、中学校入学時にも隣接学校選択制の申請を必要とする。なお、その中学校の入学希望者が受け入れ人数を超える場合には、抽選に参加しなければならない。

(9) 学校別選択可能校一覧

在住小学校区	選 択 可 能 小 学 校
陶 原	深川、祖母懐、道泉、效範、幡山西、長根、原山、萩山
深 川	陶原、祖母懐、道泉、古瀬戸、水野
祖母懐	陶原、深川、東明、古瀬戸、幡山東、萩山
道 泉	陶原、深川、效範、水野、水南
效 範	陶原、道泉、水南、長根、東山
東 明	祖母懐、古瀬戸、幡山東、下品野、品野台
古瀬戸	深川、祖母懐、東明、水野、下品野
水 野	深川、道泉、古瀬戸、水南、下品野、掛川、西陵
水 南	道泉、效範、水野、東山、西陵
幡山東	祖母懐、東明、幡山西、原山、萩山、八幡
幡山西	陶原、幡山東、長根、原山
下品野	東明、古瀬戸、水野、品野台、掛川
品野台	東明、下品野、掛川
掛 川	水野、下品野、品野台
長 根	陶原、效範、幡山西
原 山	陶原、幡山東、幡山西、萩山、八幡
東 山	效範、水南、西陵
萩 山	陶原、祖母懐、幡山東、原山、八幡
八 幡	幡山東、原山、萩山
西 陵	水野、水南、東山

※ 品野台小学校は市内全域から選択可

在住中学校区	選 択 可 能 中 学 校
水無瀬	祖東、南山、本山、幡山、光陵
祖 東	水無瀬、本山、幡山、品野、光陵、水野
南 山	水無瀬、本山、水野
本 山	水無瀬、祖東、南山、水野
幡 山	水無瀬、祖東、光陵
品 野	祖東、水野
光 陵	水無瀬、祖東、幡山
水 野	祖東、南山、本山、品野

(10) 平成28年度新入学等の許可実績

- ① 小学校 139人
- ② 中学校 78人
- ③ 主な申請事由：通学の距離・安全性、友人関係、家庭の事情、部活動

(11) 今後の取り組みについて

隣接学校選択制は平成18年度の導入から10年が経過したことから、課題点等を整理し、保護者、地域住民、学校現場の意見を聞きながら、平成28年度中に制度の見直しを行う。

8 就学・私学助成制度

(1) 要保護及び準要保護就学援助制度

経済的理由によって就学困難な児童生徒について、学校給食費・学用品費等を支給することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的として援助するものです。

① 要保護及び準要保護児童生徒の認定

- ・要保護児童生徒・・・保護者が生活保護法第6条第2項に規定する要保護者である児童生徒
- ・準要保護児童生徒・・・保護者が生活保護法による要保護者に準ずる程度に困窮していると認められる児童生徒

② 補助対象費目

- ・要保護者・・・修学旅行費
- ・準要保護者・・・学用品費等、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費、学校給食費、医療費、
体育実技用具費

補助対象費目 平成28年度	小学校	中学校
学用品費等	11,420円	22,320円
校外活動費	1,570円(宿泊なし) 3,620円(宿泊あり)	2,270円(宿泊なし) 6,100円(宿泊あり)
新入学用品費	20,470円	23,550円
修学旅行費	21,490円	57,590円
学校給食費	実費	実費
医療費	特定疾病の自己負担分	特定疾病の自己負担分
体育実技用具費	—————	柔道7,510円 剣道51,940円

③ 要保護及び準要保護就学援助実績

年 度	対象児童生徒数		援 助 費
	要保護者	準要保護者	
平成27年度	54人	1,089人	74,345,887円

(2) 特別支援教育就学奨励費

特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減し、特別支援学級教育普及奨励を図ることを目的として、保護者の負担能力の程度に応じて補助するものです。

① 補助対象費目

学用品費等、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費、通学費、職場実習交通費、交流学习交通費

② 補助額

保護者の負担能力に応じて、要保護及び準要保護就学援助費補助額の2分の1の額。ただし、通学費、職場実習交通費、交流学习交通費は実費。

③ 特別支援教育奨励費実績

年 度	対 象 児 童 生 徒 数	補 助 額
平成27年度	99人	3,636,897円

(3) 私立高等学校運営費補助事業

私立高等学校の健全な運営を図るため、日常的に必要な備品、図書、消耗品等の経費を設置者に補助するものです。

年 度	補助対象高等学校	補 助 額
平成27年度	2校	900,000円

(4) 学校法人愛知朝鮮学園第七初級学校運営費補助事業

学校法人愛知朝鮮学園愛知朝鮮第七初級学校が行う教育に必要な備品、図書、消耗品等の購入及び施設補修等の経費を設置者に補助するものです。

年 度	補 助 対 象 校	補 助 額
平成27年度	1校	700,000円

Ⅲ 学 校 給 食

1 学校給食の方針

(1) 基本方針

学校教育の一環として、学校給食の一層の安全と充実を図るとともに、食育を推進する。

(2) 重点目標

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

2 学校給食の現況

瀬戸市の学校給食は、センター方式(共同調理方式)と単独校方式(学校調理方式)とで実施している。

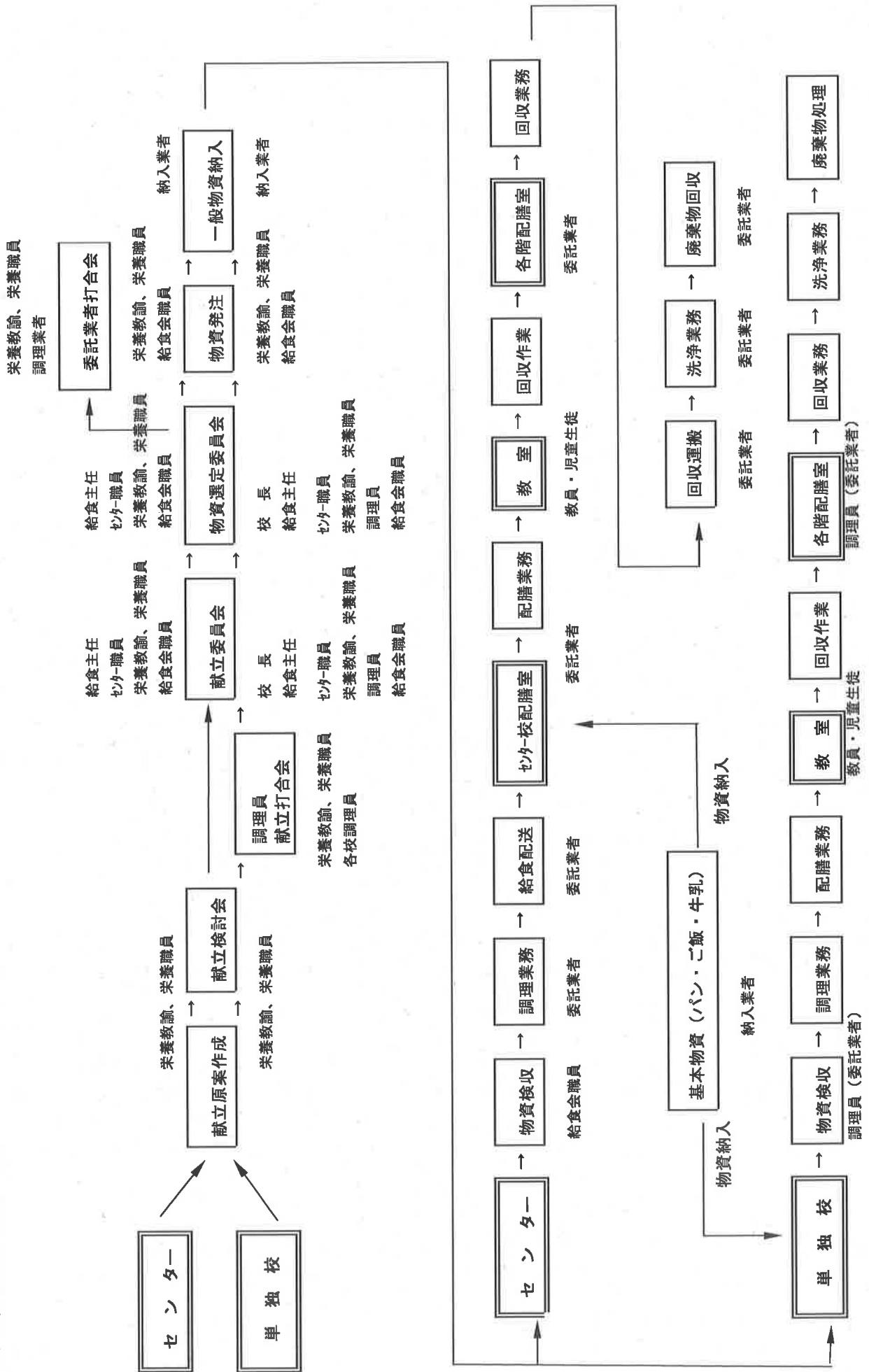
※ センター方式で行っている調理業務(全中学校と掛川小)は、平成12年8月から、配膳業務は、平成14年4月から民間委託で実施している。

※ 単独校の調理業務も平成15年4月から深川小、品野台小、平成17年4月から長根小、幡山東小、平成18年4月から陶原小、平成19年4月から效範小、原山小、平成21年4月から東山小、平成22年4月から幡山西小、平成23年4月から西陵小、平成25年4月から水南小、平成27年4月から下品野小、平成28年4月から八幡小で実施され、合計13校で民間委託を実施している。

学校給食センター調理風景



(1) 学校給食の業務の流れ



(2) センター校及び単独校一覧

平成28年5月1日現在

センター校	9校	水無瀬中学校、祖東中学校、南山中学校、本山中学校、幡山中学校、品野中学校、光陵中学校、水野中学校、掛川小学校
単独校	20校	陶原小学校、深川小学校、祖母懐小学校、道泉小学校、效範小学校、東明小学校、古瀬戸小学校、水野小学校、水南小学校、幡山東小学校、幡山西小学校、下品野小学校、品野台小学校、長根小学校、原山小学校、東山小学校、萩山小学校、八幡小学校、西陵小学校、瀬戸特別支援学校

(3) 学校給食実施状況

- ① 実施食数 単独調理校 (小学校19校、特別支援学校1校) 7,734食
学校給食センター (中学校8校、小学校1校) 3,858食

- ② 実施回数 191回 (学校行事により異なる。)

- ③ 給食の形態 完全給食で週5回給食を実施している。

ア 主食

ごはん: 4回/週 (通年平均): 自校炊飯と委託炊飯の併用

(精米「あいちのかおり」を使用)

- ・自校炊飯: 炊き込みごはん、とりめし、ピラフ、チキンライス、瀬戸のゴモ等
- ・委託炊飯: 白ごはん、麦ごはん (麦10%)、わかめごはん (わかめ3%)、赤飯、発芽玄米ごはん等

パン: 1回/週 (通年平均): スライスパン、ミルクロールパン、クロスロールパン、クロワッサン、リンゴパン、あいちの米粉パン等

麺 (めん): 1回/月 (通年平均): ソフトめん (スパゲティ式)、中華めん、きしめん

イ牛乳 200ml (瓶入り)

ウ副食 主菜・副菜・添え物 (果物、ヨーグルト、のりの佃煮、アーモンド入り小魚、ゼリー等)

(4) 使用食器: 強化磁器食器

- ①単独校 平成元年度から、従来のアルマイト食器を強化磁器食器に切り替えを図り、平成5年度に全校導入を完了した。

- ②センター校 平成10年度から使用を開始した。

- ③食物アレルギー対応用食器 平成25年度から、通常使用している食器の色を変えたもの (イエロー) を導入している。



※は応募献立

瀬戸市中学校・掛川小学校

日	曜日	献立名	主 食	飲 料	そ の 他	おもに体をつくる ものになる食品	おもに体の調子を整える ものになる食品	おもにエネルギー ものになる食品
12	火	ようふう団子汁 鱈の佃煮 ゆかりあえ	麦ごはん	牛乳	桜餅 もち餅	牛乳・鮭・豚肉 味噌	キャベツ・大根・にんじん・ねぎ きゅうり・もやし・レモン果汁・しそ	麦ごはん・米類団子 じゃがいも・砂糖・ごま もち米・小豆・砂糖
13	水	チンゲン菜のスープ 春巻 チンジャオロースー	ごはん	発酵乳	煮干し 煮干し	発酵乳・牛肉 鶏卵・豚肉	たけのこ・チンゲン菜・ピーマン・しめじ・にんじん とうもろこし・しいたけ・しょうが・にんにく	ごはん・油・砂糖
14	木	ポークビーンズ 切り干し大根のサラダ	ミルクロールパン	牛乳	ココア牛乳の素 ココア牛乳の素	牛乳・豚肉・ハム 大豆	キャベツ・もやし・にんじん・にら・エリンギ たまねぎ・トマト・にんじん・きゅうり・切り干し大根 グリーンピース・とうもろこし・にんにく	パン・じゃがいも・ごま マヨネーズ・砂糖・油 砂糖・ココア
15	金	豚ごぼうごはん 白ごまつくね(2個) ほうれん草のツナ和え	センターごはん	牛乳	プリン プリン	牛乳・豚肉 オイルツナ	ごぼう・にんじん・ほうれん草 枝豆・もやし・しょうが	ごはん・砂糖・ごま パン・じゃがいも・砂糖 砂糖
18	月	ポークカレー 角切り鮭と野菜のサラダ	ごはん	発酵乳	いちごのタルト いちごのタルト	発酵乳・鮭・豚肉 牛乳・チーズ	たまねぎ・キャベツ・にんじん・アスパラガス ピーマン・きゅうり・にんにく	ごはん・じゃがいも・砂糖 ごま油・マスタード 小麦粉・マーガリン・砂糖
19	火	中華風野菜スープ ビビンバ	麦ごはん	牛乳	アーモンド入り小魚 アーモンド入り小魚	牛乳・豚肉・鶏卵 豆腐・味噌	もやし・にんじん・ほうれん草・にら・たけのこ とうもろこし・切り干し大根・しいたけ・しょうが・にんにく	麦ごはん・砂糖 ごま油・ごま・油 アーモンド・砂糖
20	水	生揚げの吹き寄せ 青菜のおひたし	ごはん	牛乳	いわしの梅煮 いわしの梅煮	牛乳・生揚げ・鶏肉 はんぺん・油揚げ	たまねぎ・こんにゃく・にんじん・小松菜・たけのこ ほうれん草・もやし・さやいんげん・しいたけ	ごはん・砂糖・ごま 砂糖
21	木	いか団子汁 キャベツ入りミンチカツ ひじきと枝豆のサラダ	発芽玄米ごはん	牛乳	ソース ソース	牛乳・豆腐・ひじき ベーコン・油揚げ	もやし・にんじん・小松菜・枝豆・しめじ ねぎ・しいたけ・わかめ	発芽玄米ごはん 油・ごま・砂糖 砂糖
22	金	コーンポタージュ ハンバーグ ポテトサラダ	あいちの米粉パン	牛乳	ハンバーグ ハンバーグ	牛乳・豆腐・鶏肉 ハム・チーズ	とうもろこし・たまねぎ・にんじん・トマト きゅうり・パセリ	鶏肉・じゃがいも・いんげん 小麦粉・マヨネーズ・砂糖 パン粉・砂糖
25	月	ハヤシチュー イタリアンサラダ	ごはん	牛乳	オレンジ オレンジ	牛乳・豚肉 ベーコン・チーズ	たまねぎ・キャベツ・にんじん・トマト きゅうり・とうもろこし・しめじ グリーンピース・オレンジ	ごはん・じゃがいも アーモンド・油・砂糖
26	火	マーボー豆腐 小籠包 パンパンジーサラダ	麦ごはん	牛乳	型抜きチーズ 型抜きチーズ	牛乳・豆腐・豚肉 鶏肉・味噌	キャベツ・にんじん・きゅうり・にら ねぎ・しょうが	麦ごはん・砂糖 ごま・ごま油 鶏肉・砂糖・ごま油・砂糖
27	水	肉じゃが 鶏肉のさっぱりあんかけ きんぴらごぼう	わかめごはん	牛乳	牛乳 牛乳	牛乳・鶏肉・豚肉	たまねぎ・にんじん・こんにゃく・ごぼう さやいんげん・しょうが・わかめ	ごはん・じゃがいも 砂糖・ごま・ごま油 鶏肉・砂糖・ごま油・砂糖
28	木	ひじきごはん 白身魚のフリッター (3個・2個) アスパラガスのサラダ	センターごはん	牛乳	ヨーグルト ヨーグルト	牛乳・鶏肉・ベーコン ひじき・油揚げ	にんじん・アスパラガス・枝豆 こんにゃく・とうもろこし・しいたけ	ごはん・油 砂糖・オリーブ油 小麦粉・砂糖・米類・大豆油 砂糖

①は小学校のみ、②は中学校のみ

〔付記〕材料の都合により多少の変更を、お許し願います。

ご入学・ご進級おめでとございます

新学期が始まり、新たな一年がスタートしました。心や体をより大きく成長させるために、何事にも一生懸命取り組むことができるとういですね。

学校給食は、12日(火)から始まります。(小学校一年生は、18日(月)が初日です) 私たちに欠かせない「食」についての様々な知識を身につけていきましょう。

楽しい会食をするために「基本のマナー」を身につけよう!

 食べ物を口に入れたまましゃべらない	 がちがち箸の音を立てない	 くちやくち音をたてて食べない
 まわりの人とぶざけたり大声で話さない	 ひじをついたり、背中を丸めて食べない	 みんなが食べ終わるまで席を立てない

今月の応募献立
「鶏肉のさっぱりあんかけ」
そとうちゅうがっこう 祖東中学校 C.T.様

毎月19日は「食育の日」
～おうちでごはんの日～です。

(5) 給食費の内訳

給食費は、1食当たり小学校260円・中学校300円。

学校給食の形態

平成28年4月現在

学校別	給食の形態	主食		牛乳		副食・その他	給食費
		規格	価格	規格	価格	価格	
小学校	パンの場合	50g	52.87円	200ml	51.21円	155.92円	260円
	米飯の場合	70~80g	54.51円	200ml	51.21円	154.28円	
	めんの場合	70g	49.52円	200ml	51.21円	159.27円	
中学校	パンの場合	70g	58.07円	200ml	51.21円	190.72円	300円
	米飯の場合	100g	62.15円	200ml	51.21円	186.64円	
	めんの場合	120g	57.16円	200ml	51.21円	191.63円	

(6) 栄養摂取状況

摂取基準値（目標値）と摂取量及び充足率

平成27年度年間平均

区分		エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂肪 (g) 25% ~ 30%	カルシウム (mg)	マグネシウム (mg)	鉄 (mg)	亜鉛 (mg)	ビタミン				食物繊維 (g)	食塩相当量 (g)	
									A (μg)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)			
小学校	摂取基準値	640	24	21.3	350	80	3	2	170	0.4	0.4	20	5	2.5	
	単 独 校	摂取量	652	27.7	20.6	341	95	2.7	3	246	0.58	0.55	22	4.4	2.4
		充足率 (%)	101.8	115.4	96.7	<u>97.4</u>	118.8	<u>90</u>	150	144.7	145.7	145	110	<u>88</u>	96
	掛 川	摂取量	690	31.8	22	371	103	3	3.3	257	0.62	0.59	30	4.5	2.2
		充足率 (%)	107.8	132.5	103.5	106	128.8	100	165	151.2	155	147.5	150	<u>90</u>	88
中 学 校	摂取基準値	820	30	27.3	450	140	4	3	300	0.5	0.6	35	6.5	3	
	摂取量	845	36.2	25.4	406	124	3.7	4.1	300	0.81	0.66	34	5.8	2.7	
	充足率(%)	103	120.7	93	<u>90.2</u>	<u>88.6</u>	<u>92.5</u>	136.7	100	162	110	<u>97.1</u>	<u>89.2</u>	90	

(アンダーラインの部分が未充足)

(7) おいしく楽しく食事をするための取り組み

- ① 食材の安全性の確保を図る。
(国産のものを努めて使用し、遺伝子組み替え食品や食品添加物の入った食品はできる限り使用しない。)
- ② 学校給食を通じて学校と家庭との連携を図る。
(家庭へ「給食だより」の配布、家庭から募集した献立の導入、PTA試食会等の実施を図る。)
- ③ 調理機器等の充実により献立内容の充実を図る。
(コンベクションオーブン、保冷剤の使用)
- ④ 食事環境の改善を図るためランチルームを活用する。(バイキング方式、異学年との交流会)

<バイキング風景>



(8) 食物アレルギーの対応

平成21年度から、食物アレルギーのある子どもたちに、除去食、代替食（牛乳のみ）の対応に取り組んでいる。

- ① 学校給食において食物アレルギー対応を行う場合、「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」の提出を必須としている。
- ② 学校給食におけるアレルギー対応面談記録表、聞き取り調査表をもとに保護者と面談している。校長、教頭、養護教諭、保健主事、給食主任、栄養教諭、担任等で協議し、学校給食におけるアレルギー対応決定書が作成される。
- ③ 保護者には、学校給食におけるアレルギー対応についての決定をお知らせする。
- ④ 単独校では、各学校において除去食で対応している。
- ⑤ センターでは、食品17品目（28年度）の除去食で対応している。
- ⑥ 配膳やおかわりにおける誤食を防ぐために、平成25年から食物アレルギー対応専用食器（イエロー）を使用している。
- ⑦ センターでは、専用ランチジャーで運び、専用食器（イエロー）を使用している。
※なお、本人に除去食が正確に提供できるように受取表で確認記録を行う。

IV 函 書 館

1 図書館活動

(1) 基本方針

図書館は昭和20（1945）年創設以来、情報・資料の提供、あるいは学習の場として、多くの人々に利用され親しまれてきました。現在、次のような方針で運営しています。

- ① 情報化・国際化にあわせた図書館サービスを進める。
- ② 市民の学びの場・交流の場として利用しやすい環境づくりを進める。
- ③ 新たな利用者層の獲得を目指す。

(2) 重点目標

基本方針を実現するために、以下のとおり重点目標を定めています。

- ① 電子情報及び国際化に対応する資料の充実を図り、利用促進を図る。
- ② 学校図書館を利用して各地域に根ざした地域図書館づくりを進める。
- ③ 市民がくつろぎの空間の中で、自ら学ぶことができ、暮らしに役立つ情報を享受し、各年齢層市民の交流の場としても利用できる環境づくりを進める。
- ④ 児童・生徒サービスの充実（読書環境の整備、学習活動への支援）を図る。
- ⑤ 高齢者及び障害者の利用促進を図る。
- ⑥ 現在、図書館を利用していない人の利用促進を図る。

(3) 施設

所在地	東松山町1番地の2	TEL 0561(82)2202	FAX 0561(85)2651
敷地面積	4,222.5㎡		
建物	構造	鉄筋コンクリート2階建	
	面積	868.26㎡	
	延面積	1,412.26㎡	
建物	構造	軽量鉄骨平屋建（プレハブ集会室）	
	面積	98.69㎡	



図書館全景

(4) 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後7時（10月～3月は午前9時～午後6時）
休館日 館内整理日（毎月第4水曜日）
特別整理期間（年1回10日以内）、年末・年始（12月28日から翌年の1月4日まで）
利用対象 館内利用は自由、館外貸出は市内在住・在勤・在学及び隣接市町等に在住の方です。
利用種別 本館・移動図書館共通
個人貸出 — 1人10冊・点まで 期間3週間以内（AV・雑誌は2週間以内）
団体貸出 — 構成員は5人以上、代表及び構成員の過半数は市内在住とし、貸出期間は
最長2か月、最大200冊まで

(5) 蔵書状況

平成27年度末の蔵書冊数は319,534冊で、対前年度比0.6%増加しました。そのうち雑誌・視聴覚資料を含む購入は17,378冊、寄贈などが1,107冊、除籍が16,551冊でした。

なお、情報ライブラリーを含めて新聞10種、雑誌250種があります。

① 蔵書統計

(冊・点)

	一般書	児童書	郷土資料	点字・大活字本	雑誌	視聴覚資料	合計
平成27年度	200,601	90,132	14,566	2,501	9,655	2,079	319,534
増減	2,221	-543	325	-4	-97	32	1,934

② 資料購入等の推移

年度	人口(人)	資料購入費(千円)	蔵書冊数(冊)	購入冊数(冊)	市民1人当りの資料費(円)
平成20年度	133,412	28,008	303,605	16,225	210
平成21年度	133,656	28,249	305,022	16,853	211
平成22年度	133,121	27,309	307,133	14,601	205
平成23年度	132,825	28,162	313,014	17,464	212
平成24年度	132,130	27,732	321,416	20,593	210
平成25年度	131,698	27,522	317,136	16,899	209
平成26年度	131,269	28,648	317,600	16,044	218
平成27年度	130,676	28,369	319,534	17,378	217

③ 郷土資料の状況

地場産業である窯業・陶磁器に関する資料は、国内・国外（姉妹提携都市など）のものを広く収集するように努めています。また、地域資料についても行政機関の協力により収集に努めていますが、整理・活用が課題となっています。なお、2階の「参考室」にこれらの資料を配架し、閲覧・貸出に供しています。

(6) 利用状況

平成27年度の本館への入館者数は245,040人で、対前年度比2.7%増となりました。なお、パルティセと3階の情報ライブラリーは99,458人の入館者があり、対前年度比4.3%増となりました。

総貸出冊数は、692,730冊でした。前年度に比べて12,987冊増となっています。

また、移動図書館での貸出は、学校に赴いての団体貸出が大半を占めており、個人貸出は3,900冊（利用者数707人）であるのに比して、学校への貸出は10,210冊となっています。

児童書の貸出は315,174冊と、対前年度比3.4%増でした。職員やボランティアによる読み聞かせやブックスタート、児童関係施設等への貸出など、「子ども読書活動推進計画」に基づき、より充実した児童サービスが出来るよう、これからも努めていきたいと考えています。

ビデオ・CD・DVDなど視聴覚資料の貸出は10,789点で、前年度に比して12.1%利用が減少しました。

雑誌の貸出は23,711冊で、前年度に比して0.5%利用が減少しました。

予約サービスは平成27年度51,762件と、対前年度比3.8%増となりました。このうちインターネット及び館内OPAC（資料検索機）での予約が、全体の64%となっています。

貸出数

(冊・点)

一般書	336,042	児童書	315,174	郷土資料	785	雑誌	23,711
AV資料	10,789	点字・大活字本	6,229	相互貸借（借受）	2,019	相互貸借（貸出）	1,019

利用者用インターネット利用状況

利用場所	利用人数	利用時間
図書館	3,149人	3,565時間
情報ライブラリー	3,650人	4,254時間

年 度	貸出数	対前年度比 (%)	年 度	貸出数	対前年度比 (%)
平成 18 年度	542, 678	101. 3	平成 23 年度	671, 209	101. 5
平成 19 年度	450, 945	83. 1	平成 24 年度	698, 667	104. 0
平成 20 年度	628, 503	139. 4	平成 25 年度	686, 528	98. 3
平成 21 年度	661, 478	105. 2	平成 26 年度	679, 743	99. 0
平成 22 年度	661, 093	99. 9	平成 27 年度	692, 730	101. 9

(7) 移動図書館

このサービスは、区域の広い本市の状況を鑑みて、現在館開館と同時期（昭和46年6月）から開始しました。昭和62年頃には年間2万冊近くを貸出していましたが、移動図書館での個人貸出利用は年々減少しており、平成22年度からは市内南部、山口・幡山公民館のみの巡回となりました。一方で情報ライブラリーや地域図書館の開設により、新たなサービスシフトの展開を図っています。

また、学校図書館の整備が遅れている現状から、配本や巡回を希望する学校が増えたこともあり、現在小学校11校に対して学校図書配達の形で年2回、学級単位等の貸出サービスを行っています。

(8) 団体・施設への貸出

市内全域へのサービスを行うため、地域活動支援室と協力して、市内11公民館への配本サービスを行っているほか、市内小中学校（11校）、私立幼稚園（2園）、保育園・交通児童館・せとっ子ファミリー交流館や発達支援室などの行政関連施設への貸出を行い、平成27年度は、34,900冊の利用がありました。

こうした活動は前述の「子ども読書活動推進計画」においても提唱されており、学校図書館への援助やネットワーク化を視野に入れたサービス展開を考えています。

(9) 図書館友の会との協力

平成11年1月に設立された、「瀬戸図書館友の会」（図書館利用者個人参加の組織）との協力関係をとおして、図書館がよりいっそう市民の図書館となるように努めています。

ボランティアとして本の補修や、読書会・絵手紙の会・朗読の会ららなど、自主的な活動を進めており、また同様に友の会活動を行っている他の図書館への視察や、図書館まつり期間中の「本のリサイクル市」においては、準備から当日まで手伝いに会員が参加したり、独自の企画講演会も開催されています。

そのほか、七夕・クリスマスなど四季にあった館内の飾りつけや行事を行い、図書館の雰囲気をごませるなど、こうしたボランティア活動によって、図書館は支えられて成長しています。



友の会の補修ボランティア活動

(10) ブックスタート

ブックスタートは、1992年イギリスで始まった運動で、赤ちゃんと保護者が「本を通して楽しい時間を分かち合うこと」を応援する子育て支援の運動です。「家庭での本への意識が高まった」、「図書館によ

く行き、親子で登録している」、「本をよく購入する」などの報告もされています。また、0歳から本にふれあう時間を習慣とすることで、子どもの言語面、計数面双方の思考能力の発達に大きな影響を与えることも報告されています。

本市では平成14年11月から、NPO法人ブックスタート支援センターの指導や、図書館友の会会員や個人ボランティアの協力をえて、保健センターと協働して保健センターで行われる、「6か月児健康相談」の機会をとらえて開始しました。

平成27年度は、毎回40組ぐらいの親子を対象に、絵本2冊とアドバイス集・絵本リスト・図書館での取り組み（絵本の読み聞かせ、お話し会・映画会）などを説明し、コットン・バックとあわせたブックスタート・バックを、867組の赤ちゃんと保護者の方に手渡しました。



ブックスタートの様子とボランティア

(11) 各種講座・行事の開催とボランティア活動（平成27年度実績）

- こどもの読書週間行事 4月
- 読書感想画展 4月～6月
- 教科書展示会 6月～7月
- 夏休み理科講座 8月上旬
- 図書館まつり（読書週間関連） 10月～11月
 - ・本のリサイクル市（瀬戸蔵多目的ホール）
 - ・子ども一日司書
 - ・講演会
 - ・ボランティアグループ 読み聞かせリレー
 - ・ビブリオバトル
 - ・キッズルーム
 - ・おはなし会
- 土曜おはなし会（ボランティアグループ おはなしぶらんこ） 毎月第1土曜日午後
- 土曜おはなし会とえいが会（ボランティアグループ おはなしたんぽぽの会） 毎月第2土曜日午後
- 読み聞かせ（職員・ボランティアグループ おはなしたまてぼこ他） 毎週火・木・金曜日午前
- キッズルーム開設（テーマ設定、集会室） 年3回 延35日間



図書館まつり キッズルームでおはなし会

図書館まつり キッズルームでおはなし会

(12) パルティセと情報ライブラリー

平成17年のパルティセとオープン当初は、図書館並びに大学コンソーシアム加盟図書館（愛工大、金城大、名学大、名産大、南山大）の予約図書の貸出・返却と雑誌・新聞の閲覧、著作権処理済の館内映像配信やインターネット検索用として4台のパソコンを設置して情報提供を行っていました。

平成19年12月からは映像配信をやめ、利用登録や予約などに加えて図書約10,000冊を配架し、分室としての機能をより強化しました。また、平成21年度からは雑誌の貸出も開始しました。なお、視聴覚ライブラリーの機材・教材の貸出も行っています。

(13) 地域図書館

平成18年10月、品野台小学校メディアルーム内に地域図書館『宝島』を皮切りに、平成20年10月に光陵中学校、平成21年10月に西陵小学校、平成22年10月に水野小学校、平成23年10月には東山小学校の学校図書館を地域図書館として開設しました。

開館日時は土・日・祝日の午前10時から午後3時まで、図書館サポーターと協働で運営しています。平成27年度の貸出冊数は58,852冊となり、前年度より6.5%減少しました。

また、平成23年度より学校図書館へ司書を派遣しブックトークや読み聞かせなどを実施し、子どもの読書活動の推進と、学校との連携に努めています。



地域図書館の図書館サポーター

利用状況			合計	前年度	月平均	増減数	対前年比
(宝島) 品野台小学校 平成18年開館	個人	利用者数(人)	2,825	3,436	235	-611	82%
	貸出	貸出冊数(冊)	8,390	10,158	699	-1,768	83%
	団体貸出	貸出冊数(冊)	719	1,125	60	-406	64%
光陵中学校 平成20年開館	個人	利用者数(人)	2,004	1,906	167	98	105%
	貸出	貸出冊数(冊)	5,099	4,954	425	145	103%
	団体貸出	貸出冊数(冊)	773	227	64	546	341%
西陵小学校 平成21年開館	個人	利用者数(人)	11,093	11,384	924	-291	97%
	貸出	貸出冊数(冊)	15,118	15,549	1,260	-431	97%
	団体貸出	貸出冊数(冊)	490	662	41	-172	74%
水野小学校 平成22年開館	個人	利用者数(人)	5,906	6,493	492	-587	91%
	貸出	貸出冊数(冊)	13,009	14,109	1,084	-1,100	92%
	団体貸出	貸出冊数(冊)	363	479	30	-116	76%
東山小学校 平成23年開館	個人	利用者数(人)	11,039	11,646	920	-607	95%
	貸出	貸出冊数(冊)	14,574	15,215	1,215	-641	96%
	団体貸出	貸出冊数(冊)	317	463	26	-146	68%
合 計	個人	利用者数(人)	32,867	34,865			
	貸出	貸出冊数(冊)	56,190	59,985			
	団体貸出	貸出冊数(冊)	2,662	2,956			

V 視聴覚ライブラリー

1 視聴覚ライブラリー活動

(1) 基本方針

学校教育及び社会教育に関わる団体がその活動のために必要とする視聴覚教材・機器を整備充実させ、団体利用者の求めに応じてこれを提供します。

(2) 重点目標

- ① 視聴覚機器及び教材の整備・充実を行う。
- ② 地元の文化を視聴覚資料として収集保存する。

(3) 施設

所在地 栄町45番地 「パルティセと」3階 情報ライブラリー
 (事務局) 東松山町1番地の2 瀬戸市立視聴覚ライブラリー

(4) 利用案内

開館時間 午前9時～午後9時30分
 休館日 年末年始(12月28日から翌年の1月4日まで)
 利用対象 市内の学校教育・社会教育等の団体

(5) 瀬戸市立視聴覚ライブラリー運営委員会

市内の学校教育関係者及び社会教育関係者の中から10名の運営委員を教育委員会が任命し、視聴覚ライブラリーの事業について諮問・助言・指導を行うために年2回開催され、事業計画ならびに予算執行について助言・指導する。

瀬戸市立視聴覚ライブラリー運営委員会名簿

平成28年7月1日現在

氏名	所属団体	所属団体役職名
○ 栗原 幸宏	瀬戸市小中学校長会	視聴覚教育委員
杉浦 哲男	瀬戸市小中学校視聴覚教育研究会	副会長
◎ 矢野 桂子	瀬戸市公民館協議会	副会長
小原 精司	瀬戸市公民館協議会	
山口 志津代	瀬戸市地域婦人団体連絡協議会	会計監査
藤田 勝美	瀬戸市社会福祉協議会	
横井 暢彦	瀬戸市子ども会連絡協議会	会長
加藤 千美	愛知県私立幼稚園連盟 旭・瀬戸支部	雪の聖母幼稚園園長
佐藤 拓哉	瀬戸市消防本部	消防課主幹
橋口 良子	瀬戸市保育施設代表者	水南保育園園長

◎は委員長 ○は副委員長

(6) 視聴覚機材・教材保有状況（平成27年度末）

機 材	台 数	教 材	保 有 数
16ミリ映写機	1台	16ミリフィルム	83本
ポータブルVTR	2台	学校教育用ビデオ・DVD	620本
スライド映写機	3台	社会教育用ビデオ・DVD	553本
OHP	2台		
OHC	1台		
スクリーン	7本		
ビデオ編集器	1台		
液晶ビジョン	4台		
PCコンバーター	1台		

(7) 利用状況（平成27年度）

機 材	回 数	教 材	回 数
16ミリ映写機	0回	16ミリフィルム（社教用）	0回
液晶プロジェクター	82回	ビデオテープ・DVD	239回
スライド映写機	11回		
ビデオ編集機	0回		
スクリーン	22回		
OHP・OHC	7回		

VI 社 会 教 育

1 社会教育

(1) 基本方針

社会教育の本旨を効果的に達成するために、社会教育施設や人的要素を充実させる等、諸条件の整備を図り、特に生涯学習の観点に立って、積極的に社会教育活動を推進します。

(2) 重点目標

- ① 生涯学習の充実、民間指導者層の育成及び拡充を図ります。
- ② 社会教育施設の整備充実、活用の促進を図ります。

(3) 社会教育の振興

◇ 平成28年度 社会教育委員

平成28年6月1日現在

氏 名	選 出 母 体	公 職 ・ そ の 他
浅井光雄	校 長 会	瀬戸市小中学校校長会副会長・深川小学校長
矢野桂子	公 民 館	瀬戸市公民館協議会副会長・水南公民館館長
横井暢彦	子 ど も 会	瀬戸市子ども会連絡協議会会長
加藤吉明	P T A	瀬戸市小中学校PTA連絡協議会会長
川本まり子	体 育 団 体	瀬戸市体育協会常任理事
鳥井彰人	医 師 会	瀬戸旭医師会副会長
田沼春二	文 化 団 体	瀬戸陶芸協会常任理事
井上順子	福 祉 団 体	瀬戸市民生委員児童委員協議会子育て支援部会長
椿井信仁	薬 剤 師 会	瀬戸旭長久手薬剤師会副会長
福岡明	学 識 経 験 者	瀬戸市第2次教育アクションプラン推進委員

社会教育委員……社会教育に関する諸計画を立案、教育委員会の諮問に答え、又は教育委員会に対し意見を具申し、また、このために必要な調査研究を行います。

定数及び任期……13名以内、2年任期 平成28年6月1日～平成30年5月31日

(4) 社会教育事業

① 社会教育講座・生涯学習セミナーの開催

学習活動の機会を増やし、生涯学習のきっかけづくりを行います。

◇ 平成27年度 生涯学習セミナー実績

講座名	開催日	参加者数
品野の森・里山学校サマースクール (1泊2日)	7月29日 ～30日	31人
子育て支援者研修会	8月21日	30人(託児3人)
子育てパパ・ママの学びセミナー ・『子育てパパのキャンプ教室』 ・『パパのカメラ講座～簡単!家族を撮ろう～』 (全2回) ・『父子笑伝～子育てパパの挑戦』	6月28日 8月1日 9月5日 7月5日	17組(55人) 9組(27人) 5組(14人) 62人(託児8名)



「品野の森・里山学校サマースクール」の様子

◇ 平成27年度 学びキャンパスせと

「自分が得意なことを教えたい」という熱意のある公募による市民講師が「教える生きがい」をもって講座を企画・運営し、多彩で豊かな講座を提供する新しい講座の仕組み、「学びキャンパスせと」を開催しました。

講座の内訳は、パソコン、趣味・教養、美術、軽運動、書道、語学、市民生活、健康、音楽、料理、親子向けとなっています。

前期は68名の講師が100講座を開き受講生は1842名、後期は64名の講師が90講座を開き受講生は1722名でした。



「水彩教室」の様子

(5) 地区公民館事業

① 勤労青少年教養講座(平成28年度)

勤労青少年向けの講座を開催し、生涯学習のきっかけづくりと交流を図っています。

② 地区公民館生涯学習補助事業（平成28年度）

市内各地域において生涯学習の機会を増やし、また、その活動を促進するとともに、地区公民館が地域における生涯学習の中核施設としての役割を果たしていくことを推進するために、関係事業に補助金を交付しています。

(6) 施設の概要

生活、文化、教養の向上や、地域住民の連帯意識の高揚を図るため、各種の教育事業と住民の主体的な学習・創造活動が行われています。(平成28年4月1日現在)

館名	館長氏名	所在地	電話	設立年月日	建物延面積	建物構造
陶原公民館	加藤和守	熊野町98	83-3579	S28. 2. 1	620 m ²	鉄筋2階
深川公民館	小寺健三	宮脇町53	82-0453	S28. 2. 1	403 m ²	鉄筋2階
祖母懐公民館	山田重夫	上ノ切町43	82-9304	S28. 2. 1	730 m ²	鉄骨1階
古瀬戸公民館	丹羽静夫	西拝戸町16-10	83-8741	S28. 2. 1	413 m ²	鉄筋2階
東明公民館	鈴木一己	西拝戸町16-3	82-8024	S28. 2. 1	427 m ²	鉄筋2階
效範公民館	長江保	北山町39	82-1095	S28. 2. 1	709 m ²	鉄筋2階
長根公民館	伊藤繁男	城屋敷町22	85-0911	S44. 4. 1	686 m ²	鉄筋2階
水南公民館	矢野桂子	東松山町154	21-2556	S28. 2. 1	409 m ²	鉄筋2階
山口公民館	加藤英憲	田中町108	87-0700	S38. 4. 1	745 m ²	鉄筋2階
幡山公民館	林勝治	幡山町71	87-4000	S30. 4. 1	428 m ²	鉄筋2階
下品野公民館	成瀬彰良	品野町6-105	41-4118	S34. 4. 1	874 m ²	鉄筋3階
掛川公民館	水野辰美	定光寺町1206	48-6165	S38. 4. 1	153 m ²	鉄骨1階
原山公民館	菊川照一	原山台8-163	83-9231	S48. 4. 1	405 m ²	鉄筋2階
萩山公民館	小原精司	萩山台4-2-2	84-2088	S50. 11. 1	405 m ²	鉄筋2階
八幡公民館	高木秋男	八幡台1-145-2	82-9456	S52. 5. 7	405 m ²	鉄筋2階

(7) 瀬戸市公民館協議会に関する事業

地区公民館相互の情報交換と地域課題を解決する糸口を見出す方策や指導者を養成する事業を行い、地域における公民館活動の一層の振興を図ります。

◇ 協議会役員 平成28年4月1日現在

役職名	氏名	所属
会長	加藤和守	陶原公民館
副会長	矢野桂子	水南公民館
副会長	菊川照一	原山公民館
監査	小寺健三	深川公民館
監査	高木秋男	八幡公民館

◇ 事業（平成27年度）

- * 公民館グラウンドゴルフ大会
平成27年5月24日（日）
- * 愛知県公民館連合会総会 名古屋市公会堂
平成27年6月2日（火）
- * 中学校区指導者研修会
平成27年7月～11月
- * 第46回東海北陸社会教育研究大会
平成27年10月22日（木） 刈谷市総合文化センター
- * 瀬戸市公民館協議会研修事業
平成27年10月30日（金） 瀬戸蔵
「公民館を取り巻く国・県の動向について」
- * 平成28年成人式
平成28年1月10日（日）各地区公民館等（15会場 該当者1,297人 参加者1,055人）
- * 愛知県公民館連合会東尾張支部研究発表会
平成28年2月12日（金） 清須市春日公民館
- * 瀬戸市公民館大会
平成28年2月27日（土） 瀬戸蔵つばきホール
記念講演 「笑いは心のエネルギー」
- * 公民館長会議 年4回開催
- * 公民館長・運営委員長合同会議 年2回開催
- * 運営委員長会議 年3回開催

(8) 「大学コンソーシアムせと」による教育支援

「大学コンソーシアムせと」は、平成15年に瀬戸市と近隣の大学とが連携し、市民への生涯学習の機会の提供や市民と大学との交流促進、大学と行政による地域研究などを目的に作られた組織です。

事業は、「地域交流事業」と「教育事業」があり、特に教育に関わる事業として、教育現場問題研修会や小中学校の教育現場支援、生涯学習講座などを実施しています。

① 平成27年度 教育現場問題研修会・学習会実績

小中学校教員が教育現場で抱える問題の解決の一助となるようにと、小中学校教員を対象とした研修会・学習会を開催し加盟大学より教員を派遣しています。

内 容	担 当 大 学	開 催 場 所	実 施 日	参 加 教 員 数
特別支援教育（発達支援） 講座	名古屋学院大学	文化センター	8月26日	66名
	名古屋産業大学	文化センター	8月28日	42名
カウンセリング講座	金城学院大学	文化センター	8月24日	33名

② 平成27年度 小中学校教育現場支援実績

小中学校へ大学教員や学部生、留学生を派遣し実際の教育現場での児童・生徒の授業を支援しています。近年は、発達障害児対応の支援が増えています。

内 容	担 当 大 学	小 中 学 校 名	実 施 日
理科学習 (全 12 日)	愛知工業大学	效範小学校	2月26日, 29日, 3月1日
		幡山東小学校	12月8日, 9日
		幡山西小学校	2月16日, 17日, 19日
		原山小学校	11月20日
	名古屋産業大学	東明小学校	7月14日
		古瀬戸小学校	12月8日
		水南小学校	2月24日
発達障害支援 (全 63 日)	金城学院大学	道泉小学校	6月22日, 10月26日
		南山中学校	6月29日
		深川小学校	6月2日, 11月24日
		幡山中学校	6月10日
		幡山東小学校	6月9日, 10月30日
	名古屋学院大学	西陵小学校	10月30日, 11月6日
	名古屋産業大学	幡山西小学校	6月12日, 10月20日
		祖東中学校	6月15日
		本山中学校	10月29日
	南山大学	東山小学校	6月16日, 9月15日
	名古屋学院大学	古瀬戸小学校	6月26日～(計47日)

③ 平成27年度講座主催実績

専門的でわかりにくいと思われがちな大学教員の研究を市民のみなさんにわかりやすく楽しく紹介し、学んでいただく講演会・講座を行いました。

内 容	参 加 人 数	開 催 日 ・ 実 施 回 数 等
カレッジ講座 『ものをはかる (生活のなかの分析)』 提供大学：愛知工業大学 村上博哉講師	71名	9月15日(火)
カレッジ講座 『誰でもできるトレーニング、柔軟体操』 提供大学：名古屋産業大学 平井一正教授	91名	9月18日(金)

カレッジ講座 『頑張らないストレッチ体操』 提供大学：名古屋学院大学 松田克彦准教授	86名	10月01日(木)
カレッジ講座 『里山生態系の今と未来—身近な里山「海上の森」から学ぶ—』 提供大学：南山大学 藤本潔教授	52名	10月03日(土)
カレッジ講座 『死をどう迎えるか—人類の古典に聴く“終活”のススメ—』 提供大学：金城学院大学 落合建仁准教授	51名	10月17日(土)
	55名	10月13日(火)

VII 社 会 体 育

1 社会体育

(1) 基本方針

スポーツを通じて市民の健康保持・増進とともに、競技スポーツの競技力向上及びアマチュアスポーツの振興に努めます。市民が生涯を通じて自分に合ったスポーツに親しみ、健康づくりができるような環境の整備充実と、生涯スポーツを根底においたスポーツ人口の拡大を目指し、スポーツ活動の普及に努めています。

(2) 重点目標

- ① 生涯にわたりスポーツに取り組む意識の向上と市民総スポーツの実現
- ② 地域スポーツ振興とスポーツ指導者の養成、資質の向上
- ③ スポーツをする機会の提供
- ④ 充実した施設の提供と学校体育施設の有効活用
- ⑤ 総合型地域スポーツクラブの設立・活動支援
- ⑥ 生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育（部活動）との連携の推進

(3) スポーツ推進委員

「市民の体力づくり」「市民スポーツ事業の振興」「アマチュアスポーツの普及発展」という三つの目標に向かって、積極的にその事業の推進を図り、特にコミュニティスポーツの指導者養成及び組織づくりを中心に、個人の健康とスポーツに対する市民意識の盛り上がりを図るため、関係機関・団体にアピールし、市民の健康や体力向上を期するための活動をしています。

現在30名（地区公民館・地域交流センター推薦18名、体育協会推薦10名、学識経験者2名）でその任務にあたっています。

(4) 総合型地域スポーツクラブ支援

地域住民が主体となり、誰でも、いつでも、どこでも、気軽にスポーツができる、生涯スポーツ環境を実現するため、総合型地域スポーツクラブの設立及び活動支援に努めています。平成16年8月に市内で初めての総合型地域スポーツクラブである「品野スポーツクラブ」が設立されたのに続き、平成19年8月に「水野・西陵いきいきクラブ」が設立され、会員により自主運営されています。上記の2団体を支援しつつ、他の地域におけるクラブの必要性や今後の方向性についても引き続き検討していきます。

2 体育・スポーツ活動

(1) スポーツ教室

定期的にスポーツをしたい方や新たにスポーツを始めようとする方たちに機会を提供することを目的として、平成27年度は次の教室を開催しました。



競技名	開催数 (回)	参加数 (人)	競技名	開催数 (回)	参加数 (人)
ウォーキング&健康づくり	3	141	ソフトバレーボール	1	21
幼児体力づくり	3	123	バスケットボール	2	27
ソフトテニス	2	119	ミニバスケットボール	3	133
陸上	2	62	サッカー	2	336
剣道	2	22	テニス	3	41
卓球	2	36	バドミントン	1	20
弓道	2	27	少林寺拳法	3	13
柔道	3	20	ラグビー	1	112
スキー	2	53	空手	2	32
ソフトエアロビクス	9	567			
ウォーキング	6	331	合 計	54	2,236

(2) スポーツ大会

① 市民体育大会

市民体育大会は、当市のスポーツの祭典と呼べるもので、多数の市民に参加の機会をつくり、スポーツの普及と体力の増進を図り、健康で明るい市民の育成を目的に行われています。

平成27年度で66回目を迎え、5月24日(日)の総合開会式を皮切りに、22種目27大会で熱戦が繰り広げられました。



第66回市民体育大会

競技名	大会数 (回)	参加数 (人)	競技名	大会数 (回)	参加数 (人)
陸上競技	1	146	テニス	1	211
ソフトテニス	1	174	バドミントン	2	163
軟式野球	1	870	ソフトボール	1	225
剣道	1	183	クレール射撃	1	14
卓球	1	250	ボウリング	1	29
弓道	1	65	少林寺拳法	1	16
バレーボール	4	540	ラグビー	2	490
柔道	1	35	ウエイトリフティング	1	36
スキー	—	—	ビーチボール	1	134
体操	1	280	グラウンドゴルフ	1	198
バスケットボール	1	450	空手道	1	293
サッカー	1	80			
			合 計	27	4,882

※スキー競技は雪不足のため大会中止。

② 瀬戸地方近郊駅伝競走大会

本大会は昭和27年に始まり、平成27年で64回目を迎え、伝統ある広域的な大会として定着しています。第62回大会から中学生の部（男子・女子）を創設し、参加チームは年々増加する傾向にあります。

また、平成23年以降は、小学生駅伝大会も同時開催しています。



第64回大会参加状況（平成27年12月13日実施）

男子第1部（一般）・5区間	21チーム
男子第2部（一般）・4区間	64チーム
男子第3部（高校生）・5区間	56チーム
一般女子の部・4区間	30チーム
中学生男子の部・4区間	75チーム
中学生女子の部・4区間	41チーム

小学生駅伝大会

男子の部・4区間	41チーム
女子の部・4区間	18チーム

(3) 学校体育施設スポーツ開放

学校体育施設を学校教育に支障のない範囲内において開放することにより、広く市民にスポーツ活動の実践の機会を提供し、市民の健康保持増進と体力の向上に努めています。

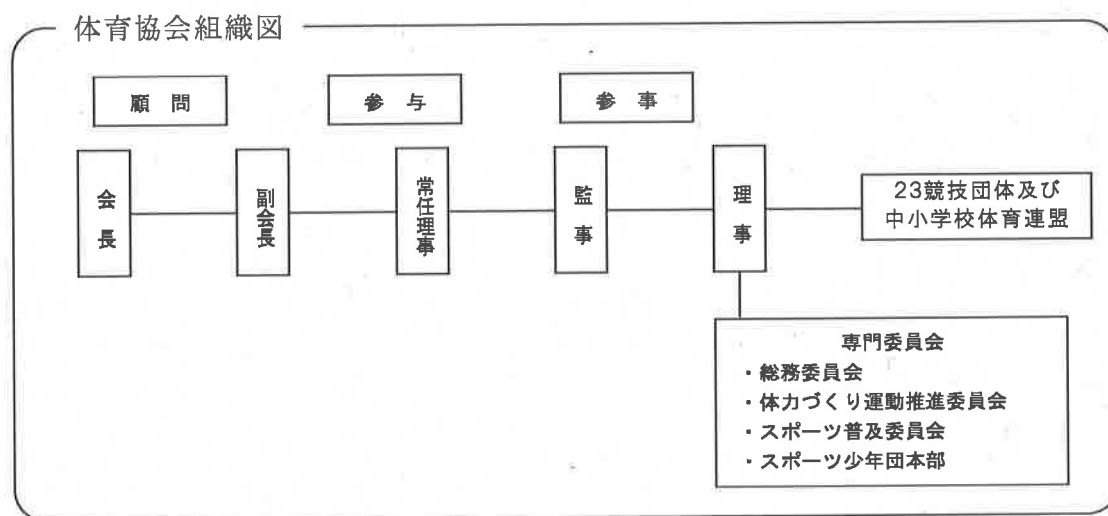
市内在住者又は在勤者により構成された登録団体が各学校体育施設を利用しています。
平成27年度の利用者数は115,229人です。

学校開放実施状況（平成28年3月現在）

	開放施設
小学校（19校）	屋内運動場、校庭
中学校（8校）	屋内運動場、柔剣道場、校庭
高等学校（1校）	校庭

(4) 社会体育団体

瀬戸市体育協会（24団体 約9,300人加盟）は「市民スポーツ事業の振興」と「競技力向上、アマチュアスポーツの発展」という2つの目標に向って、積極的に各種事業の推進を図り、スポーツに対する市民意識の盛り上がりを図るため、関係機関、協会加盟団体と密接に協力して、各種のスポーツ大会を開催し、その実現を期しています。



平成27年度 瀬戸市体育協会主催(共催)大会

競技名	大会数(回)	参加数(人)	競技名	大会数(回)	参加数(人)
陸上競技	1	264	サッカー	6	1,574
ソフトテニス	13	3,784	テニス	11	1,590
軟式野球	24	6,975	バドミントン	5	260
剣道	4	835	ソフトボール	2	721
卓球	10	1,498	ボウリング	10	942
弓道	4	303	ウエイトリフティング	1	48
バレーボール	11	1,044	ビーチボール	2	201
柔道	2	86	グラウンドゴルフ	4	662
スキー	—	—			
バスケットボール	7	1,860	合計	117	22,647

※スキー競技は雪不足のため大会中止。

3 スポーツ施設

(1) 施設一覧

	施設名	所在	敷地面積(m ²)	建物床面積(m ²)	規模	竣工
有料施設	体育館	市民公園内	4,809	5,240	第1競技場(1,575 m ²) バスケットボール 2面 バレーボール 3面 バドミントン 8面 卓球台 14 台 体操全種目 第2競技場(440 m ²) バレーボール 1面 バドミントン 2面 卓球台 10 台 トレーニングルーム(163 m ²)	S54. 3.15
	第二体育館				1,773	競技場(910 m ²) バスケットボール 1面 バレーボール 2面 バドミントン 6面 卓球台 12 台 大鏡 トレーニングコーナー(132 m ²)
	野球場		20,300	820	両翼 100m、センター 125m 照明施設	S45.11. 1
	陸上競技場		28,168	425	400m 単心円トラック 8コース 3,000m 障害池	S48.10.31
	A テニスコート		5,500	129	砂入人工芝舗装 6面 照明施設	S49.10. 1
	B テニスコート		3,177		砂入人工芝舗装 4面	S55. 3.31
	プール		8,095	460	25m 7コース、50m 9コース 幼児用プール	S46. 6.20
	武道館		1,288	630	柔道場 1面 剣道場 2面	S47.11.10
	弓道場		2,167	272	近的(28m)10人立 遠的(60m)5人立	S47.11.10
	窯神グラウンド		磁祖公園内	10,231		両翼 91m センター 100m
	陶祖グラウンド	陶祖公園内	8,303		両翼 71m センター 80m	S56. 9.30
	南公園グラウンド	南公園内	12,000	22	両翼 90m センター 100m 照明施設	S62. 3.13
	東公園グラウンド	東公園内	16,000	22	レフト 85m ライト 91m センター 105m	S59. 3.14
	東公園テニスコート		4,500	85	砂入り人工芝 4面	H15.3.18
北グラウンド	北スポーツ施設内	11,500		両翼 92m、センター 105m	H4. 3.30	
北テニスコート		2,780	78	アクリル系樹脂舗装 4面	H4.12. 7	
定光寺野外活動センター	鹿乗町地内	27,685	1,908	管理棟、屋外施設(キャンプ場・ 営火場・炊飯場)、トリム施設	S60. 7.10	
無料施設	ゲートボールコート	市民公園内	824		クレイ舗装 1面	S56. 3.15
	ジョギングコース				Aコース(1.5km) Bコース(1.2km)	
	オリエンテーリングコース				10ポイント	
	東公園運動広場	東公園内	4,262		ゲートボール 5面 ミニサッカー 1面	S60.12. 6
	トリムコース				1.5km コース	
	オリエンテーリングコース				8ポイント	

(2) 利用方法

2か月先までの申込みを先着順で使用許可しています。ただし、申込みの多いテニスコートと野球場の土曜・日曜及び祝日については、市内在住、在勤又は在学者により構成された登録団体からの申込みを受け、抽選で決定しています。

(3) 平成27年度スポーツ施設等利用状況

施設名		利用者数(人)	備考
市民公園	体育館	162,434	H27.7.6~H28.3.31は耐震補強工事に伴い第1競技場使用不可。
	野球場	17,408	4月~10月ナイター使用
	陸上競技場	22,285	
	テニスコート	71,971	4月~10月ナイター使用
	プール	20,044	7月・8月使用
	武道館	28,947	
	弓道場	7,853	
	芝生広場	8,963	
窯神グラウンド		5,369	
陶祖グラウンド		9,686	
南公園グラウンド		18,934	4月~10月ナイター使用
東公園グラウンド		8,893	
東公園テニスコート		15,653	
東公園運動広場		9,900	
北グラウンド		8,475	
北テニスコート		10,689	
パーティせとフィットネスジム		27,016	
合計		454,520	(平成26年度利用者数 489,160人)

4 定光寺野外活動センター

青少年を中心として、みどり豊かな森での野外生活により自然と親しみ、自然を理解する機会を提供するとともに、団体生活をとおして、規律・協調・友愛・奉仕の精神を体得し、心身共に健全な成長を図ることを目的としています。

平成27年度利用状況

	団体利用			個人利用	合計
	キャンプ	デーキャンプ	その他		
利用者数	4,937人	1,843人	2,343人	7,942人	17,065人

VIII 文化財保護

1 文化財保護活動

(1) 基本方針

文化財は、わが国、わが郷土の歴史や文化を正しく理解するための貴重な有形無形の文化遺産であり、人類の発展の基礎をなすものです。したがって、この文化遺産を大切に保護し、次の世代に引き継ぐために、市内に所在する文化財を広く市民に周知し、郷土の歴史に対する一層の関心と文化財の愛護思想の普及に努めます。

(2) 重点目標

- ① 市域に所在する文化財全般にわたる調査・研究に努めます。
- ② 特に重要な文化財については指定を行い、保護に努めます。
- ③ 市内の埋蔵文化財の把握と周知に努め、開発事業に伴う保護措置の事前協議の徹底を図ります。
- ④ 文化財の活用を図り、保存・整備に努めます。

(3) 文化財保護審議会

① 任務

審議会は、文化財の保存及び活用に関し、教育委員会の諮問に答え、または教育委員会に意見を具申し、また、このために必要な調査研究を行います。

② 定員及び任期

委員 7名 平成27年10月1日～平成29年9月30日

文化財保護審議会委員 平成28年4月1日現在

会 長	亀 井 勝
副 会 長	大 塚 英 二
委 員	加 藤 光 也
委 員	成 田 一 成
委 員	水 野 和 郎
委 員	北 島 み ち 子
委 員	三 輪 邦 夫

(4) 文化財の指定・登録及び指定解除

① 市文化財の指定(平成27年度 0件)

② 国文化財の指定・登録(平成27年度 2件)

ア 指定名称(名称変更および追加指定(瓶子陶器窯跡))

史 跡 瀬戸窯跡 小長曾陶器窯跡・瓶子陶器窯跡 土地所有者(瓶子):瀬戸市・国土交通省

イ 登録名称

建造物 旧山繁商店 離れ・事務所・旧事務所・土蔵・新小屋・前倉庫・中倉庫・奥倉庫・塀
土地・建物所有者:瀬戸市

瀬戸市域の指定文化財一覧表

平成28年7月1日現在

区	種	別	指定名称	員数	所在地等	時代	指定年月日		
国 指 定	有 形	建 造 物	定光寺本堂	1棟	定光寺	室町後期	大15. 4. 19		
			源政公(徳川頼朝)廟、焼香殿池	7棟	定光寺	江戸前期	昭12. 8. 25		
		工 芸	陶製白犬	1軀	深川神社	鎌倉	大元 9. 3		
			太刀銘助重	1口	定光寺	鎌倉中期	大 8. 4. 12		
			太刀銘守家	1口	定光寺	鎌倉中期	大 8. 4. 12		
			灰釉多口瓶	1口	愛知県陶磁美術館	平安前期	昭50. 6. 12		
			渥美灰釉片鶯文三耳壺	1口	愛知県陶磁美術館	平安末期	昭51. 6. 5		
	陶製五輪塔	1基	愛知県陶磁美術館	平安末期	平 7. 6. 15				
	民 俗	有形民俗	瀬戸の陶磁器の生産用具 及び製品	3,943点	歴史民俗資料館	江戸以降	昭49. 2. 18 昭50. 9. 22		
	記 念 物	史跡	瀬戸窯跡(小長首陶器窯跡・瓶子陶器窯跡) 志段味古墳群 尾張戸神社古墳	1,510.07 m ² 4,519.72 m ² 270.34 m ²	東白坂町1-1 他 鳳山町31番17・24 十軒町845	室町中期劫か、 江戸前期 古墳	昭46. 7.13・平14. 3. 19 平27. 10. 7 平26. 10. 6		
県 指 定	有 形	彫 刻	木造阿彌陀如来立像	1軀	下半田川町746	平安末期	昭34. 1. 16		
			木造十一面観音菩薩立像	1軀	下半田川町746	平安末期	昭34. 1. 16		
		工 芸	御深井柿木瓜形水盤	1口	市歴史民俗資料館	江戸前期	昭57. 3. 31		
			陶製牡丹文経筒外容器	1口	愛知県陶磁美術館	平安末期	昭59. 2. 27		
			猿投灰釉灰瀬壺	1口	愛知県陶磁美術館	平安中期	昭59. 2. 27		
			鉄釉巴文瓶子	1口	愛知県陶磁美術館	鎌倉末期	昭59. 2. 27		
	御深井柿唐草文双耳水壺	1口	市歴史民俗資料館	江戸中期	平 4. 2. 28				
考 古 資 料	猿投灰釉灰瀬壺及びびり瓶	各1口	愛知県陶磁美術館	平安前期	昭59. 2. 27				
無 形	工芸技術	陶芸織部・黄瀬戸	1件	保持者 加藤作助		平16. 8. 20			
民 俗	有形民俗	陶製白犬コレクション	210軀	愛知県陶磁美術館	室町・大正	昭59. 3. 30			
市 指 定	有 形	建 造 物	一里塚本業窯	1基	一里塚町27	昭和	昭50. 7. 21		
			直入橋	1橋	定光寺町373	江戸前期	昭58. 6. 1		
			石燈籠	1基	落合町1	江戸前期	平 4. 2. 21		
			石燈籠	1基	八幡町3	江戸前期	平 5. 2. 19		
			石造鳥居	1基	八幡町3	江戸前期	平 5. 2. 19		
			洞本業窯	1基	東町45 他	昭和	平 7. 2. 13		
			石造鳥居	1基	巡音町1	江戸中期	平 8. 2. 9		
			古窯(こがま)	1基	瀬戸染付工芸館	昭和	平 9. 2. 14		
			深川神社本殿	1棟	深川神社	江戸後期	平11. 11. 12		
			常夜燈	1基	秋葉町100の2	江戸後期	平13. 2. 7		
		彫 刻	石造阿彌陀如来坐像	1軀	片草町401	江戸中期	昭60. 5. 1		
			石造地藏菩薩立像	1軀	片草町401	江戸中期	昭60. 5. 1		
			絵 画	聖徳太子絵伝	4幅	万徳寺	室町中期	平 18. 2. 10	
				工 芸	六角陶碑	1基	藤四郎町1	江戸末期	昭49. 4. 1
					永享年銘梵鐘	1口	深川神社	室町中期	昭57. 3. 1
	陶質十六羅漢塑像	16軀	宝泉寺		江戸末期	昭57. 3. 1			
	志野焼燗籠	1対	藤四郎町1		明治	平 5. 2. 19			
	織部燗籠	1基	深川神社		江戸後期	平 8. 2. 9			
	染付花唐草文大燗籠	1基	市歴史民俗資料館		明治	平 9. 2. 14			
	染付花鳥図蓋付大燗壺	1口	市歴史民俗資料館	明治	平10. 11. 20				
	古瀬戸瓶子	1対	宝泉寺	鎌倉	平17. 2. 10				
	古瀬戸瓶子	1対	赤津町85	鎌倉	平25. 3. 18				
	典 籍	聖徳太子伝	5冊	万徳寺	鎌倉・室町	平 18. 2. 10			
		大般若経	155巻	東菱野町59-1		平20. 9. 12			
	歴 史 資 料	織田信長の制札	1通	窯町63	室町末期	昭53. 11. 1			
		窯屋証文	1通	五位塚町11-541	江戸初期	平 9. 2. 14			
		陶製梵鐘	1口	法雲寺	昭和	平 9. 2. 14			
祠堂帳		1巻	定光寺	室町	平11. 11. 12				
笠原村・両半田川川国境争論絵図		1枚	上半田川町・下半田川町	江戸前期	平16. 2. 6				
古 文 書	加藤吉三郎家文書	481点	窯町80	江戸	平 6. 2. 18				
	加藤新右衛門家文書	140点	窯町63	江戸	平 6. 2. 18				
	松本茂明家文書	711点	穴田町64	江戸	平13. 2. 7				
	菱野郷倉文書	7780点	東菱野町59-1	江戸～昭和	平20. 9. 12				
無 形	工 芸 技 術	陶芸 黄瀬戸	1件	保持者 加藤兼平		平 18. 2. 10			
		陶芸 織部	1件	保持者 加藤錦三		平 18. 2. 10			
		陶芸 灰釉	1件	保持者 田沼春二		平19. 5. 18			

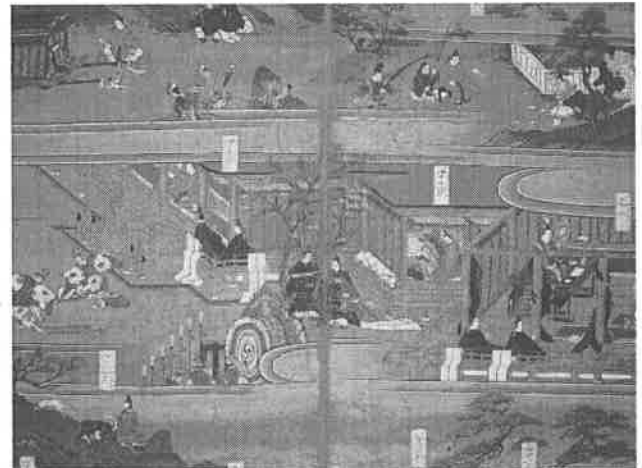
無形	工芸技術	陶芸 色絵磁器	1件	保持者 林 邦佳		平19. 5. 18
		陶芸 御深井	1件	保持者 加藤吉三郎		平20. 5. 9
民俗	有形民俗	菱野のおでく	1体	東菱野町59-1	江戸~大正	平17. 2. 10
		品野氏臨時の神武天皇像および従者像	3体	品野町2丁目40(全宝寺臨時)	昭和	平24. 3. 18
	無形民俗	山口の警固祭り	1件	八幡町3 山口八幡社内	江戸	平15. 2. 7
		菱野のおでく 警固祭り	1件	東菱野町59-1	江戸	平20. 9. 12
記念物	史跡	本地大塚古墳	1基	西本町1-109	古墳	昭51. 5. 1
		宮地古墳群	1,542 m ²	上之山町2-171-15	古墳	平 5. 2. 19
		広久手第30号窯跡	15.7 m ²	吉野町320 番地	平安中期	平18. 9. 27
	名勝	石樋	約750 m ²	水北町1027-2		平 4. 2. 21
		目鼻石	約530 m ²	十軒町439		平 7. 2. 13
	天然記念物	マルパタラヨウ	1本	中水町1-579		平 9. 11. 18
	マメナシ	1本	東松山町154		平16. 2. 6	

登録文化財

区	種別	指定名称	員数	所在地等	時代	登録年月日
国	建築物	雲興寺 鐘楼	1件	白坂町	江戸中期	平17. 12. 26
		瀬戸永泉教会 礼拝堂	1件	杉塚町	明治	平22. 4. 28
		旧山繁商店(離れ・事務所・旧事務所・土蔵・新小屋・前倉庫・中倉庫・奥倉庫・塀)	9件	仲坂町・深川町	明治~昭和	平27. 11. 17



市指定 広久手第30号窯跡 平安時代中期



市指定 聖徳太子絵伝(部分) 室町時代中期



国指定 源敬公(徳川義直)廟 江戸時代前期



市指定 染付花唐草文大燈籠 明治期

(5) 歴史文化基本構想の策定

瀬戸市域に存在する文化財を、指定・未指定に関らず幅広く捉え、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想を平成28年度までに策定すべく、策定委員会の開催及び関連ワークショップ・まちめぐり・瀬戸学び塾による市民参加行事を平成27年度より行っている。

(6) 埋蔵文化財等の調査・普及啓発

① 公益財団法人瀬戸市文化振興財団の文化財関係事業

ア 発掘調査事業

市内遺跡(大坪西遺跡・白坂雲興寺遺跡・中水野遺跡・大草12・13号窯跡・若宮遺跡・穴田9号墳・桂蔵窯跡)	発掘調査(確認調査)実施
市内遺跡(若宮遺跡(山口町304ほか地点))	本発掘調査(個人住宅及び集合住宅建設に伴う)実施
中水野遺跡	本発掘調査(老人介護施設建設に伴う)実施
北山窯跡・勘助窯跡	本発掘調査(急傾斜地擁壁設置工事に伴う)実施
夕日窯跡4号窯跡ほか	本発掘調査(史跡整備目的)資料の整理
大坪西遺跡	本発掘調査(山口消防分団建設に伴う)実施・報告書刊行
若宮遺跡(若宮町3丁目130)	報告書刊行

イ 文化財調査事業

民俗文化遺産(警固祭り標具等)調査 民俗資料調査(国庫補助事業)

ウ 普及啓発事業

1) 企画展

① 「新出土品展 桑下城跡と周辺遺跡～戦国時代の品野～」平成27年7月4日(土)～9月13日(日)

③ 「戦国時代の瀬戸窯-古瀬戸から大窯へ-」 展示図録刊行「戦国時代の瀬戸窯-古瀬戸から大窯へ-」平成27年12月5日(土)～2月7日(日) 瀬戸蔵ミュージアム

歴史講演会「古瀬戸から大窯へ-鶴窯跡・桑下東窯跡」

: 小澤一弘氏(愛知県埋蔵文化財センター)平成27年1月16日(土) 瀬戸蔵多目的ホール

2) 市内小学校への「出前講座」講師派遣6件 幡山東・陶原・品野台・幡山西・道泉・深川各小学校

(7) 文化財の保存と整備

① 国指定史跡小長曾陶器窯跡管理 史跡の管理及び見学等への対応

② 国指定特別天然記念物オオサンショウウオの保護、普及啓発

○ 幼生拡散調査の実施 平成27年4月23日、5月20日

○ 人工巣穴清掃の実施 平成27年6月28日

○ 夜間観察会の実施 平成27年7月25日、8月22日、9月13日

③ 一里塚本業窯保存事業(所有者による覆屋塗装の更新事業)に市補助金交付

④ 海上町大平窯跡等の埋蔵文化財包蔵地での開発行為への対応

(平成28年2月16日に確認された周知の埋蔵文化財包蔵地での無届の開発行為に対し、事業者の費用負担で開発行為により影響を受けた範囲の確認調査を次年度行うこととなった。)

⑦ 国庫補助事業「地域の文化遺産を活かした地域活性化事業」の(1)「歴史的建造物実測調査」(平成24年度より継続し報告書刊行)、(2)「民俗文化財(警固祭り標具等)調査」を実施

⑧ 窯垣分布調査「大学コンソーシアムせと」におけるまちづくり協働プログラム事業として、名古屋産業大学とともに窯垣分布調査と市民意識調査を実施



「民俗文化遺産(警固祭り標具等)調査」(国庫補助事業「地域の文化遺産を活かした地域活性化事業」)



せと歴! 「せとの古墳 再発見」(名古屋守山区)

(8) 文化財の普及啓発

① 広報せとに「瀬戸の文化財」掲載(毎月1日号)

② 文化財見学会

ア 「せと歴」(せと 歴史と文化財を知る見学会)の実施

「せとの古墳 再発見」(平成27年11月7日(土)) 本地大塚古墳・勝手塚古墳・白鳥塚古墳・荏坪古墳

イ 国史跡指定・国文化財登録答申記念文化財見学会

「瀬戸窯跡 瓶子陶器窯跡現地見学会」平成27年7月26日・「明治・大正・昭和のセトマチⅡ」(平成27年9月5日)

資 料

1 沿 革

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 27	1952	4. 1 6. 16 7. 23 10. 5 11. 1	戦後っ子初の入学式 中央公民館（深川小校舎改造） 設立、図書館を移転し併設開館 南山中学校校舎2棟焼失 県・市教育委員選挙 瀬戸市教育委員会発足（庶務課長 山田栄教育長代行）	4. 16 3. —	瀬戸市保健所竣工 水北保育園開園
28	1953	1. 3 1. — 1. — 7. —	初代教育長 伊藤一雄就任 各小学校区に地区公民館を設置 成人式開催（旧成人祭を改称） 深川小学校 プール竣工	2. — 4. 28 7. — 8. 15 11. 16	赤津保育園開園 上品野町で大火 13軒全焼、4軒 半焼 上品野保育園開園 水南保育園苗場町開園 瀬戸医師会が当直制を開始
29	1954			4. 1 6. — 7. 1 8. 13	市営公益質屋開業 幡山東・幡山西保育園開園 瀬戸市及び品野町自治警を廃 し、国家地方警察として再出発 瀬戸青年会議所できる
30	1955			2. 11 5. 28 9. 29	幡山村合併（合併時幡山村人口 5,313人、戸数1,044戸） 八王子保育園開園 瀬戸市青少年問題協議会発足
31	1956	6. — 10. 1	陶原小学校に瀬戸教科書センタ ー設置 教育委員任命制により発足	6. 1 9. —	瀬戸市青年団体協議会結成 古瀬戸保育園開園
32	1957	3. 12 6. 1	市史編さん委員委嘱 第2代教育長 相原邦雄就任	8. 8 11. 1	泉町に集中豪雨による山崩れ発 生 22名死亡、品野町にも被害 市役所庁舎蔵所町から現在地へ 移転竣工
33	1958			8. 10	第1回瀬戸市青年大会
34	1959	1. 16 8. 4 9. 1	下半田川の「木造阿彌陀如来立 像、十一面観音菩薩立像」を県文 化財に指定 瀬戸市立小学校管理規則施行 水無瀬中学校で市内中学校最初 の校舎、鉄筋化が始まる	4. 1 9. 26 10. 1 10. 10	品野町合併（合併時品野人口 9,313人、戸数1,809戸） 伊勢湾台風 市制30周年 市民会館竣工
35	1960	4. 1 5. — 7. 15	陶原小学校に特殊学級（2学級） 設置 雪の聖母修道院・幼稚園創立開園 （私立） 市営共栄プール竣工		
36	1961	3. 31 4. 1	義務教育諸学校の教科用図書の 無償に関する法律公布 小学校、新学習指導要領に基づく 教育実施	2. 3 7. — 12. 6	北保育園に市内はじめての鉄筋 園舎竣工 小児マヒ予防生ワク第一回投与 国鉄岡多線起工式

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 37	1962	4. 1	中学校、新学習指導要領に基づく教育実施	1. 15 10. 25 12. 20	愛知用水利用の県営水道から市営水道が受水開始 消防庁舎竣工（末広町1） 瀬戸市開発公社許可
38	1963	3. 22 4. 1 9. 3	道泉小学校の小学校初の全鉄筋化校舎竣工 聖カピタニオ女子高等学校開校 市内各中学校でミルク給食開始	5. 1 8. 31	加藤繁太郎市長就任 勤労会館竣工
39	1964	4. 1 7. 14 12. 8	教科用図書無料給付開始 幡山中学校に中学校初のプール竣工 瀬戸文化財保存会発足	4. 1 6. 20 10. 1	瀬戸歯科医師会当直制を開始 瀬戸准看護婦学校校舎竣工 こうはん保育園開園
40	1965	4. 1 10. 1	瀬戸ひなご幼稚園開園（私立） 祖母懐小学校、祖母懐町から移転改築	5. 5	瀬戸市社会福祉会館竣工
41	1966	3. 27 4. 1 7. 10	祖母懐公民館全焼 長根小学校創立開校 図書館、東大演習林学生宿舎を改築し現所在地へ移転	12. —	清掃センター竣工
42	1967	4. — 6. 20	名古屋学院大学瀬戸学舎新築、教養部移転（S. 43. 4 全学移転） 「瀬戸市史陶磁史篇三」刊行	5. 24 12. 7	商工会館竣工 市営上水道赤津浄水場竣工
43	1968	3. 30 10. 1	マリア幼稚園開園（私立） 第3代教育長 松浦正雄就任	1. 8	市営水野団地分譲受付開始（さつき台）
44	1969	3. 31 8. 15 9. — 9. 1	中央公民館宮脇町に新築移転 「瀬戸市史陶磁史篇一」刊行 陶原小学校、熊野町から移転改築 図書館起工式	5. 24 10. 1	市の木に「くろがねもち」を選定 市営上水道白岩浄水場竣工 市制40周年
45	1970	3. 31 4. 1 6. 17 10. 1 11. 1	図書館移転改築 原山小学校創立開校 真貴幼稚園開園（私立） 私立聖霊学園（中・高・短）名古屋より現地へ移転 図書館開館 瀬戸市スポーツ施設条例施行 市民公園野球場、バレーボールコート竣工	3. 27 4. 1 8. 13	県営菱野団地入居開始（原山台） 八王子保育園を今村保育園に改称し移転改築 瀬戸市青少年育成市民会館発足
46	1971	1. 19 2. — 4. 1 5. 11 6. 3	南山中学校に中学校初の屋内運動場竣工 品野中学校、品野町から移転改築 教育委員会事務局に体育課設置 瀬戸市学校給食センター条例施行 第一学校給食センター竣工 交通児童遊園（市民公園内）オープン 「自動車文庫せと号」巡回始まる	2. 1 4. 7 4. 8 10. 20	瀬戸市窯業技術センター竣工 窯業専修職業訓練校（現県立窯業高等技術専門校）尾張旭市より移転竣工 瀬戸警察署新庁舎竣工 市内で初の大気汚染測定局陶原町5丁目に竣工

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 46	1971	6. 14 6. 20 7. 13 10. 8	全中学校で学校給食始まる 市民公園プール竣工 小長曾陶器窯跡（東白坂町）が国の文化財に指定 長根小学校に小学校初の屋内運動場竣工		
47	1972	4. 1 8. 1 11. 10	東山小学校創立開校 宿日直制度廃止（学校無人化） 市民公園武道館、弓道場竣工	4. 1 8. 5 9. 1 9. 26	上品野保育園を品野東保育園に改称し移転改築 東海自然歩道足助～定光寺間オープン 下品野保育園を品野西保育園に改称 新消防庁舎竣工（苗場町） 市役所増築工事竣工 人口 10 万人突破（県下 8 番目）
48	1973	4. 1 5. 28 10. 31	萩山小学校・光陵中学校創立開校 菱野幼稚園開園（私立） 品野東公民館竣工 市民公園陸上競技場竣工	4. 1 6. 1 9. 29 10. 1 12. 21	みずの保育園開園 勤労青少年ホームオープン 瀬戸市少年センター発足 瀬戸市基本構想議決 ふたば保育園開園（市内で初の乳児保育） 市営宮川駐車場竣工
49	1974	2. 18 3. 30 4. 1 5. 26 5. 29 8. 1 9. 1 10. 1	「瀬戸の陶磁器の生産用具および製品 3, 943 点」が国の重要民俗資料に指定 西陵公民館竣工 教育委員会事務局に教育次長を置く 瀬戸南高等学校開校（瀬戸窯業高等学校定時制から分離併置独立校となる） 瀬戸公園の六角陶碑（陶祖碑）を市の文化財に指定（第 1 号） 幡山東小学校、山口字田中から移転改築 品野公民館竣工 瀬戸市立視聴覚ライブラリー設置条例施行 八幡小学校創立開校 市民公園テニスコート（南）竣工	3. 1 4. 1 5. 12 5. 29 8. 28 12. 3	瀬戸市土地開発公社発足 瀬戸旭准看護学院創立開校 原山・こうはん南保育園開園 老人憩いの家オープン 蛇ヶ洞浄水場竣工 品野支所新庁舎竣工 晴丘センター竣工 県労働者研修センター竣工
50	1975	2. 27 4. 1	道泉公民館竣工 西陵小学校創立開校 はちまん幼稚園開園（私立） 上品野小学校を品野台小学校と校名変更し移転改築 第二学校給食センター竣工	11. 17	瀬戸郵便局新局舎竣工

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 50	1975	4. 1 7. 21 10. 15	水野小・水南小・東山小・西陵小・ 水無瀬中・南山中の6校へ 配送 幡山東小・品野台小は第1学校給 食センター校となる 一里塚町の「本業窯」を市の文化 財に指定 瀬戸市歴史民俗資料館竣工		
51	1976	5. 1 9. 10	西本地町の「本地大塚古墳」を市 の文化財に指定 瀬戸市学校体育施設スポーツ開 放に関する規則施行	4. 1 4. 9 5. 5 5. 6 6. 1	ぼっぼ・萩山保育園開園 のぞみ学園開園 瀬戸市友好訪中団中国訪問 自然児童遊園（ねむの森）オー プン 瀬戸市西部コミュニティセンタ ー利用開始 公共職業安定所新庁舎竣工
52	1977	3. 23 3. 30 4. 1 11. 3	長根公民館竣工 第4代教育長 加藤朋也就任 教育委員会事務局に学校給食課 を設置 瀬戸幼稚園開園（私立） 水野公民館竣工 下品野小学校単独給食開始 下品野小学校（中規模校）昭和52 年度学校保健特別優秀賞を受賞 し、健康日本一となる	3. 30 3. 31 4. 1 10. 10	水野支所新庁舎竣工 幡山、水野、品野の農協合併し 瀬戸市農業協同組合となる ひかり保育園開園 第1回せと市民祭
53	1978	3. — 4. 1 11. 1 12. 11	本山中学校、西印所町から移転改 築 県立瀬戸西高等学校創立開校 水南小学校単独給食開始 「信長の制札」を市の文化財に指 定（第4号） 幡山公民館竣工	4. 1 4. 19 6. 1 8. 20 12. 11	八幡保育園開園 第2次瀬戸市友好訪中団中国訪 問 県陶磁資料館南館オープン 名鉄瀬戸線乗入れ 幡山支所新庁舎竣工
54	1979	3. 15 4. 1 4. 27 5. 2 7. — 12. 15	瀬戸市体育館竣工 市学校事務員、学校より引きあげ 始まる メールカー運行開始 水南公民館竣工 市民公園野球場ナイター設備使 用開始 4つの小学校でプール完成（下品 野、陶原、道泉、幡山東） 東明小学校に屋内運動場竣工 市民公園テニスコート（南）夜間 照明竣工	4. 1 5. 21 10. 1 10. 9 —	品野南保育園開園 市の花に「つばき」を選定 市制50周年、市民憲章制定タイ ムカプセルの埋設 記念誌「瀬戸」刊行 景德鎮市陶磁友好訪問団来瀬 国際児童年
55	1980	3. 31 4. 1	幡山中学校に屋内運動場竣工 市民公園テニスコート（北）竣工 第5代教育長 加藤春夫就任	4. 1 6. 26	幡山南保育園開園 赤十字希望の家にベトナム難民 入所

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 55	1980	4. 1 10. 20	水野中学校創立開校 古瀬戸・山口公民館竣工 自動車文庫「せと号」2世が瀬戸ライオンズクラブより寄贈される(外架式書架2,000冊) 水野小学校単独給食開始 窯神グラウンド竣工		
56	1981	3. 一 3. 31 4. 1 5. 1 9. 30 10. 21	東明・效範公民館竣工 「瀬戸市史陶磁史篇二」刊行 学校教育課・社会教育課に専任課長配置、社会教育課を中央公民館へ移す 幡山東小学校単独給食開始 学校給食に週2回米飯をとり入れる 陶祖グラウンド竣工 掛川小学校移転用地の造成工事起工	—	国際障害者年
57	1982	1. 12 4. 1	祖母懐公民館竣工 西陵小学校単独給食開始	3. 20 10. 4	品野西保育園新園舎竣工 文化センターオープン
58	1983	3. 20 3. 24 3. 26 4. 1 6. 1 8. 一	瀬戸市第二体育館竣工 深川公民館竣工 掛川小学校移転改築 学校教育課に指導主事3名配置 定光寺の「直入橋」を市の文化財に指定 県民大学中央講座(8月13日～9月10日市民会館)	3. 30 8. 1 11. 15	古瀬戸保育園改築 全国高校総体愛知県で開催 シルバー人材センター設立
59	1984	3. 14 3. 30 4. 1 5. 11 5. 20 12. 21	東公園グラウンド竣工 加藤作助氏の「陶芸・織部、黄瀬戸、御深井焼」が県の文化財に指定 県立瀬戸北高等学校開校 下半田川町に本市初の周辺地区小規模集会所竣工 陶原小学校、昭和58年度全日本学校環境緑化コンクール特選(文部大臣賞)を受賞し、緑化日本一となる 東公園に全天候型テニスコート竣工	— 6. 18 11. 3 12. 20	国際婦人年 尾張東地方卸売市場開場 県陶磁資料館で上海博物館所蔵「中国歴代陶磁展」開催 「第3次瀬戸市総合計画基本構想」議決
60	1985	3. 1 3. 5	「瀬戸市史資料編一 村絵図」刊行 幡山中学校に初の柔剣道場竣工 原山公民館竣工 瀬戸南高等学校を廃止し瀬戸窯業高等学校定時制となる	— 9. 18 11. 28 12. 23	国際青年年 陶生病院改築高層病棟完成 瀬戸少年院全面改築 市議会議員定数削減条例(36人→30人)可決

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
S. 60	1985	5. 1	片草町の「石造薬師如来坐像・石造地藏菩薩立像」を市の文化財に指定 掛川小学校プール竣工（市内全小学校にプール設置となる） 定光寺野外活動センター竣工 第1回瀬戸国際青年交流会		
61	1986	1. 10 2. 19 3. 15 3. 15 4. 1 9. 25 10. 9	道泉小学校に屋内運動場竣工 祖東中学校・南山中学校に柔剣道場竣工 萩山公民館竣工 「瀬戸市史資料編二 自然」刊行 教育相談室開設 定光寺野外活動センター市民憲章碑竣工 市民公園陸上競技場に炬火台竣工	— 3. 25 5. 10 9. 5 12. 2	国際平和年 養護老人ホーム「陶寿荘」全面改築 瀬戸市文化協会設立 陶生病院外来棟完成 第3セクター愛知環状鉄道株式会社設置 県陶磁器工業共同組合の技術技能研修センター竣工
62	1987	1. 14 3. 13 3. 24 3. 27 4. 1 4. 18 5. 7 7. 11 11. 3	掛川小学校に屋内運動場竣工（市内全小中学校に屋内運動場設置となる） 南公園グラウンド竣工（ナイター施設完備） 八幡公民館竣工 水無瀬中学校・本山中学校に柔剣道場竣工 図書館電算システム稼働 加藤英一氏の「陶芸・掻き落とし技法」、栗木伎茶夫氏の「陶芸・赤絵技法」、水野双鶴氏の「陶芸・練り込み技法」を市の文化財に指定 定光寺野外活動センターにトリム施設竣工 市民公園に噴水広場竣工 万葉歌碑が図書館の前庭に建立	— 2. 23 5. 1 10. 4	国際居住年 瀬戸市施設管理協会設立 井上博通市長就任 陶生病院全面改築完成
63	1988	3. 2 4. 1 4. 20 10. 1	水野中学校柔剣道場・プール竣工 公民館事務協力員を18館に配置 視聴覚ライブラリーが中央公民館より図書館に移転併設される地区公民館18館において、図書の出貸始まる 下品野公民館竣工 私立高等学校授業料補助始まる	1. 31 2. 17 7. 28 10. 1	愛知環状鉄道開業 瀬戸市クリーンセンター竣工 瀬戸市活性化ビジョン「瀬戸・いきいきビジョン21」策定 市のシンボルマーク・ロゴタイプ選定
64	1989			1. 7	昭和天皇崩御
H. 元	1989	1. 10 1. 31	陶磁器食器を使った給食が道泉・東明小学校で試行開始 埋蔵文化財収蔵施設竣工	1. 8 4. 26 8. 1	元号を平成と改元 中小企業大学校瀬戸校が開校 八幡池魚釣り場オープン

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 元	1989	3. 29 4. 1 4. 11 7. 10 8. 1	品野中学校柔剣道場・特別教室竣工 事務局に文化財課を新設 南山中学校プール竣工 水無瀬中学校プール竣工 外国人英語指導助手招致 (ジェニファー・ニカーソン)	10. 1 10. 14	市制 60 周年 消防署東分署 (品野町 1 丁目) 完成
2	1990	3. 29 3. 31 4. 1 4. 8 6. 29 6. 30 8. 1 9. 1 11. 30	光陵中学校柔剣道場・プール竣工 「瀬戸のことば」刊行 第 6 代教育長 加藤浩松就任 自動車文庫「せと号」3 世が瀬戸ライオンズクラブより寄贈される (内外書架式 2, 500 冊) 三国高原集会所竣工 祖東中学校プール竣工 品野中学校プール竣工 外国人英語指導助手招致 (ポール・マッカーシー) 学校給食に陶磁器食器を古瀬戸小・下品野小に導入 品野中学校コンピュータ室設置	3. 3 4. 2 4. 18 5. 11	消防緊急情報システム稼働 総合行政情報システム (SERA) 稼働 高齢者生きがい活動施設完成 尾張東部衛生組合 (晴丘センター) の粗大ゴミ処理施設稼働
3	1991	1. 25 1. 28 3. 25 4. 1 5. 24 8. 1 9. 1 9. 9 9. 21 10. 25 11. 1	加藤舜陶氏の「陶芸・灰釉技法」を市の文化財に指定 瀬戸生涯学習基本構想策定調査委員会設置 「瀬戸市近世文書集 第 1 集」刊行 事務局に国体準備室を新設 定光寺町民会館竣工 外国人英語指導助手招致 (ローナ・ドゥーハースト) (バンクス・キャメロン) 学校給食に陶磁器食器を陶原小・水南小・祖母懐小に導入 水無瀬中学校・南山中学校・本山中学校コンピュータ室整備 臨時学校休業日を設定 「瀬戸市近世文書集 第 2 集」刊行 深川公民館増築	2. 13 2. 27 3. 5 3. 19 7. 20 9. 20	瀬戸川文化プロムナードシンポジウム開催 赤重集会所完成 消防署南分署 (南山口町) 完成 今村橋開通 川端歩道橋完成 市のイメージソング「夢ひとつ・愛ひとつ」発表
4	1992	2. 21 2. 28 3. 27 3. 30	落合町の神明社「石燈籠」・水北町地内の「石樋」、市の文化財に指定 定光寺の「御深井釉唐草文双耳水甕」が県の文化財に指定 効範公民館増築 北グラウンド完成	3. 31 4. 1 4. 8 4. 15 7. 24	晴丘センターの新ゴミ処理施設が完成 観光協会移転 (栄町から山脇町) インフォメーションセンター完成 交通安全都市宣言 山脇橋架け替え

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 4	1992	3. 31 4. 1 6. ー 7. 29 9. 1 9. 12 10. 6	「瀬戸市近世文書集 第3集」刊行 財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター発足（白山町1-46） 瀬戸市生涯学習基本構想策定 外国人英語指導助手招致（モーリス・リチャード） 学校給食に陶磁器食器を深川小・幡山東小・水野小に導入 学校5日制がスタート（第2土曜日学校休業日） 祖東中学校・光陵中学校・水野中学校コンピュータ室整備	9. 18 10. 1 10. 31	六古窯サミット開催 住民記録管理システム稼働 公立瀬戸旭看護専門学校校舎が完成
5	1993	2. 10 2. 19 2. 20 3. 11 7. 19 9. 1 9. 4 9. 5 9. 30 10. 8 10. 15 11. 19 ~11. 21 12. 20 12. 22	「瀬戸市近世文書集 第4集」刊行 八幡町の八幡神社「石燈籠」・「石造鳥居」、藤四郎町の「志野焼燈籠」、上之山町の「宮地古墳群」を市の文化財に指定 瀬戸市民生涯学習フォーラム'93開催 幡山中学校校舎増築竣工（コンピュータ室含む） 外国人英語指導助手招致（フッド・クリストファー） 学校給食に陶磁器食器を西陵小・長根小・效範小・幡山西小に導入 歴史民俗資料館展示室改修 光陵中学校図書館を開放 「瀬戸市史陶磁史篇四」刊行 水無瀬中学校ギャラリー整備 下品野小学校和室ランチルーム整備 東明小学校校舎大規模改造工事 わかしゃち国体（リハサル大会） 「瀬戸市史陶磁史篇五」刊行 水野公民館増築	4. 1 4. 21 7. 10 9. 11 11. 1	文化振興課を新設 福祉保健センター（やすらぎ会館）オープン 週休2日制スタート 市民サービスセンターオープン 新京橋・追分橋完成
6	1994	2. 18 2. 24 3. 18	古文書を市の文化財に指定（加藤唐三郎家、加藤新右衛門家） 「瀬戸市史陶磁史篇4・5」刊行 生涯学習市民講師リスト発行 市指定無形文化財保持者「陶芸・灰釉技法」の加藤舜陶氏が県無	3. 25 4. 1 6. 14 9. 14	第4次瀬戸市総合計画基本構想」議決 個人情報保護制度発足 21世紀万国博覧会基本構想まとまる 景德鎮陶瓷展開催

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 6	1994	3. 30 4. 一 5. 14 5. 23 7. 14 7. 18 7. 27 8. 一 8. 31 9. 30 10. 30 ~11. 2 12. 一 12. 18	形文化財「陶芸・灰釉系技法」保持者に認定 「瀬戸市近世文書集 第5集」刊行 公民館生涯学習委託事業開始 水野小学校図書館を開放 余裕教室等活用検討委員会設置 幡山中学校プール竣工 生涯学習推進連絡調整会議設置 外国人英語指導助手招致 (スチーブン・チャンピオン) (マヒュー・パー) 図書館と県図書館とのオンライン稼働 中学校(2校)管理諸室空調設備整備 祖東中学校校舎大規模改造工事 わかしゃち国体開催 (ウエイトリフティング) 品野台小学校移転建設事業基本設計業務委託 国際家族年講演会開催	11. 一	瀬戸市健康の道完成
7	1995	2. 13 3. 4 3. 21 4. 一 6. 15 6. 30 9. 29	東洞町の「洞本業窯」、加藤靖彦氏(陶芸・瀬戸染付技法)、水野川の「目鼻石」を市の文化財に指定 '95せと女性のつどい開催 子ども名作シアター開催 学校5日制(第2・4土曜日学校休業日) 原山小・東山小単独給食開始 同時に陶磁器食器を導入 愛知県陶磁資料館収蔵「陶製五輪塔」国の重要文化財に指定 中学校(6校)管理諸室空調設備整備 品野台小学校移転建設事業実施 設計業務委託	1. 17	阪神・淡路大震災発生
8	1996	2. 一 2. 9 3. 一 3. 2 3. 31 4. 一	SETOウィンディ vol.1発行(市民向け女性問題啓発冊子) 巡間町大目神社の「石造鳥居」 深川神社の「織部燈籠」を市の文化財に指定 図書館50年誌発刊 '96せと女性のつどい開催 「近世の瀬戸」刊行 第二学校給食センター第一学校給食センターに統合 第二学校給食センターを8・9年度2か年継続事業で増改築	1. 一 5. 18 10. 11	市庁舎5・6階増築 瀬戸市斎苑完成 景徳鎮市と友好提携

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 8	1996	4. 15 7. 4 7. 27 8. 8 ～ 8. 22 10. 11 12. 13 12. 25	萩山小・八幡小単独給食開始 同時に陶磁器食器を導入 水無瀬中学校校舎大規模改造設計委託 小学校（5校）管理諸室空調設備整備 外国人英語指導助手招致（ペッツ・マヒュー） 中学生国際交流事業（ニュージーランド中学生派遣） 図書館コンピューターシステム更新（第2次） 瀬戸市立小・中学校通学区域問題検討委員会設置 品野台小学校移転建設（敷地造成）工事着工		
9	1997	2. 一 2. 14 3. 1 4. 1 5. 8 5. 22 6. 19 6. 30 7. 30 8. 10 ～ 8. 18 9. 27 ～ 10. 6 11. 18	SETOウィンディ vol.2 発行（市民向け女性問題啓発冊子） 西郷町の「古窯」、歴史民俗資料館収蔵「染付花唐草文大燈籠」、五位塚町加藤糸美家の「窯屋証文」、深川町法雲寺の「陶製梵鐘」を市の文化財に指定 '97せと女性のつどい開催 外国人英語指導助手招致（スティーブン・ウォール） 東山小学校プール等建設工事設計業務委託 水無瀬中学校校舎大規模改造工事着工 小学校（5校）プール温水シャワー改修工事 小学校（5校）管理諸室空調設備整備 外国人英語指導助手招致（カルバー・アニカ）（シード・カレン） 中学生国際交流事業（中国景徳鎮市他派遣） 中学生国際交流事業（ニュージーランド中学生受け入れ） 加藤鈔氏の「陶芸・鉄釉技法」、三社大明神社の「マルバタラヨウ」を市の文化財に指定	4. 一 4. 23 6. 12	やすらぎ会館増設 瀬戸市国際センター設立 2005年国際博覧会瀬戸市開催決定
10	1998	2. 1	陶原・道泉・水野小学校にコンピュータ教室整備	4. 20	名誉市民に長江禄彌氏（彫刻家で日本芸術員会員

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 10	1998	2. 28 3. — 3. 30 3. 30 4. — 4. 1 4. 1 6. — 7. 3 ~7. 6 7. 29 8. 6 ~ 8. 17 9. — 10. — 11. 20	<p>' 98 せと女性のつどい開催</p> <p>SETOウィンディ vol.3 発行</p> <p>「瀬戸市近世文書集 第6集」 刊行</p> <p>「瀬戸市史陶磁史篇 6」 刊行</p> <p>学校給食センター完成（日の出町） センター校全校陶磁器食器を導入 学校教育課に指導主事4名配置</p> <p>「瀬戸市史通史篇」編さん開始</p> <p>小学校（4校）プール温水シャワー改修工事</p> <p>小学校（4校）管理諸室空調設備整備</p> <p>中学生国際交流事業 （中国景德鎮市中学生受入）</p> <p>外国人英語指導助手招致 （イアン・ウォーカー） （ウィンクリー・キャサリン）</p> <p>中学生国際交流事業 （ニュージーランドへ中学生派遣）</p> <p>図書館情報化・活性化推進モデル 地域として指定</p> <p>心の教室相談員配置</p> <p>加藤伸也氏「陶芸織部・黄瀬戸」、 歴史民俗資料館収蔵「染付花鳥図蓋付大飾壺」を市の文化財に指定</p>	5. 28 ~5. 31 6. — 10. 28	<p>世界ガラスアートの祭典開催</p> <p>「緑の基本計画」策定</p> <p>「新行政改革実施計画」策定</p>
11	1999	2. 1 2. 26 3. 6 3. — 3. 24 4. — 4. 1	<p>下品野小学校にコンピュータ教室整備</p> <p>瀬戸市立小・中学校通学区域問題検討委員会を瀬戸市立小中学校適正配置等検討委員会に改称</p> <p>長根公民館増築</p> <p>' 99 せと女性のつどい開催</p> <p>SETOウィンディ VOL.4 発行</p> <p>品野台小学校、上品野町内で移転改築 市内で初めて、壁の仕切がないオープンスクールを導入</p> <p>学校給食課の事務を給食センターに移管 課を廃止 オアシスメイト配置 創造的人材育成事業 ふるさと文化伝承事業 日本語指導者派遣事業開始</p> <p>教育委員会事務局教育次長の職名を教育部長に変更</p>	4. 1 5. 1 5. 28 9. 30 10. 1 12. 6	<p>尾張旭、豊明、瀬戸、愛知東郷、日進、長久手の農協が合併し、あいち尾東農業協同組合となる</p> <p>増岡錦也市長就任</p> <p>新世紀工芸館「土夢創舎（トムソーヤ）」がオープン</p> <p>陶生病院南棟増築工事完成</p> <p>市政70周年</p> <p>戸籍電算化事業（運用開始）</p>

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 11	1999	4. 2 6. — 6. 1 8. 7 ～ 8. 16 9. 29 ～ 10. 3 10. 1 11. 12 11. —	第7代教育長 大澤義洋就任 小学校（2校）プール温水シャワー改修工事 小学校（3校）管理諸室空調設備整備 品野台小学校にコンピュータ教室整備 中学生国際交流事業 （中国景徳鎮市他へ16名の中学生派遣） 中学生国際交流事業 （ニュージーランドから中学生受け入れ） ジョンさんと森の生活体験実施 定光寺の「祠堂帳」、深川神社の「深川神社本殿」を市の文化財に指定 マルチメディア活用学校間連携推進事業の地域として指定		
12	2000	2. 1 3. 25 3. 4 3. — 3. 31 4. — 4. 15 6. — 6. — 7. 1 8. 1 8. 3 10. 1 10. —	特殊教育推進協議会研究発表会（愛知県教育委員会特殊教育推進地区指定） 小学校（9校）にコンピュータ教室整備 2000せと女性のつどい開催 SETOウィンディ VOL.5 発行 中学校（8校）にコンピュータ教室整備（更新） 「瀬戸市近世文書集 第7集・尾張藩山林支配と林奉行所」刊行 特色ある学校づくり事業開始 瀬戸市マルチメディア伝承工芸館—瀬戸染付研修所—開館 小学校2校プール温水シャワー設置 小学校3校管理諸室空調設備整備 中学生国際交流事業（中国景徳鎮市の中学生受け入れ） 学校給食センター調理業務委託実施 中学生国際交流事業（ニュージーランドへ16名派遣） 小中学校14校警備業務委託開始 小学校（6校）にコンピュータ教室整備 市民学びセミナー開始 小中学校コンピュータ教室インターネット接続	6. — 7. — 10. 1 12. 15	「瀬戸市環境基本計画」策定 衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査 （仮称）「瀬戸市やきもの博物館基本構想」策定 第17回国勢調査 2005年国際博覧会登録承認される

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 12	2000	11. 1 11. 21	男女共同参画に関する市民意識調査 加藤鈔氏の「陶芸・鉄釉技法」県の文化財に指定		
13	2001	1. 5 2. 1 2. 7 2. 22 3. 3 ～4 3. 31 3. 一 4. 一 4. 一 4. 1 5. 1 6. 一 8. 一 8. 5 10. 31 10. 25 11. 一	図書館BDS（図書盗難防止装置）導入 図書館コンピュータシステム更新（第3次） 図書館ホームページ開設 同インターネット予約受付開始 秋葉神社の「常夜燈」と「松本茂助家文書」を市の文化財に指定 瀬戸市立小学校適正配置等協議会設置（平成13年に8回開催） 生涯学習フォーラム2001 2001女性のつどい開催 「瀬戸市史民俗調査報告書一幡山・今村地区」刊行 SETOウィンディVOL.6発行 特色ある学校づくり事業 学校評議員調査研究事業開始 社会教育課を生涯学習課に改称 小中学校（14校）警備業務委託開始 小中学校（4校）プール温水シャワー設置 図書館集会室増築 中学生国際交流事業（中国へ16名派遣、ニュージーランドの中学生受け入れ） 原山小学校校舎大規模改造完成 瀬戸の教育を創造する市民会議設置（平成13年に2回開催） 生涯学習課ホームページ開設	2. 28 3. 一 3. 一 4. 1 4. 14 6. 23 6. 26 6. 30 7. 23 7. 29 9. 1 9. 11 10. 26 12. 3	環境ISO14001取得 「第4次瀬戸市総合計画改訂基本計画」策定 「瀬戸市児童育成計画」策定 瀬戸市情報公開条例施行 尾張瀬戸駅新駅舎完成 EXPO市民サロンオープン 瀬戸市行政経営委員会発足 瀬戸市地域イントラネット開通 地上デジタル放送タワー誘致決定 第19回参議院議員通常選挙 無風庵の改築完成 アメリカ同時多発テロ発生 総務省テレピア構想モデル地域に指定 2005年日本国際博覧会基本計画発表
14	2002	1. 15 1. 18 1. 29 3. 2 3. 一	第9回瀬戸市立小学校適正配置等協議会開催（平成14年に4回開催） せとドリーム事業「宇宙飛行士毛利さんと夢を語る会」開催（宇宙飛行士毛利衛さん、角野直子さんが、子どもたちと宇宙の夢を語る） 第3回瀬戸の教育を創造する市民会議開催（平成14年に6回開催予定） 2002せと女性のつどい開催 SETOウィンディVOL.7発行	2. 18 2. 26 3. 一 3. 31 4. 一	瀬戸市行政経営委員会答申 尾張瀬戸駅再開発ビル基本設計発表 陶の路「暮らしっくストリート」「小狭間坂」完成 北丘最終処分場完成 完全学校週5日制が始まる 「瀬戸市行政経営導入計画」策定 「瀬戸市デジタルリサーチパーク整備計画」素案発表 「瀬戸市地域情報化計画」策定 「瀬戸市母子保健計画」改訂版策定

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 14	2002	—	市内各所で I T 講習会を開催 (H13. 4~14. 2) 市民約 4,000 人が受講	4. —	陶祖公園「竹露庵」改築オープン
		3. —	山口公民館増築	6. 6	「瀬戸テレビ放送所(仮称)起工式
		4. 1	学校給食配膳業務一部民間委託化(1小学校・6中学校を委託)	7. 4	「瀬戸市市民活動促進基本施策」策定
		5. —	瀬戸市男女共同参画プラン策定	8. 5	住民基本台帳ネットワークシステム一部稼動
		7. —	「市立小学校適正配置等協議会」より答申	9. 30	市民会館閉館
		7. —	教育アンケート実施(対象:市民・児童・生徒・教職員)	10. 12	瀬戸市・リモージュ市産業交流使節団訪仏
		8. 30	「瀬戸市史民俗調査報告書二水野掛川地区」刊行	10. 12	第 26 回せと市民祭
		10. —	水野中学校運動場の夜間照明の完成によりスポーツ開放を開始	10. 17	「愛・地球博」起工式(愛知県少年公園)
		12. —	絵本を通して親子のふれあいを深めるブックスタート運動開始	12. —	市議会本会議のインターネット中継開始
15	2003	2. 7	「陶芸・灰釉技法」を市文化財に指定し、その保持者として鈴木八郎氏が認定され、「山口の警固祭り」を市文化財に指定し、その保持団体として「山口警固保存会」が認定	2. 2	愛知県知事選挙
		2. 15	公民館 50 周年記念フェスティバル開催	3. —	瀬戸市デジタルリサーチパークセンター完成
		~2. 16		3. —	「いきいき瀬戸 21」策定
		2. 27	第 2 回せとドリーム事業「シドニーオリンピック金メダリスト田村亮子選手と夢を語る会」開催	3. 10	尾張瀬戸総合改善事業竣工
		3. 8	祖母懐公民館竣工式(2月移築)	3. 20	「瀬戸蔵」施設設計発表
		3. 27	「瀬戸の教育を創造する市民会議」より答申	3. 21	本郷橋開通
		4. —	単独校学校給食一部民間委託化の実施(深川小学校・品野台小学校)	5. 22	瀬戸市デジタルリサーチパークセンター竣工式
		4. —	学校給食配膳業務委託化 1 中学校追加実施(幡山中学校)	6. 4	瀬戸の歴史や文化、暮らしなどを伝える代表的な風景を集めた「瀬戸 100 景」を決定
		4. —	定光寺野外活動センター敷地内に展望塔完成	6. 11	皇太子殿下、愛・地球博会場予定地をご視察
		6. 3	瀬戸市と市内及び近隣の六大学との間で、「大学コンソーシアム(連携)せと」の包括協定を締結	6. 18	愛・地球博会場名を「長久手会場」、「瀬戸会場」に正式決定
		7. 12	道泉、陶原、水野の 3 小学校のコンピュータ教室用のパソコン等を整備(更新)	7. 14	「瀬戸蔵」起工式
		9. 25	市内小中学校の給食献立に「世界の料理」を加え、愛・地球博開催まで毎月一回シリーズ化	7. 23	名鉄尾張瀬戸駅前ビル「パルティせと」起工式
		9. 30	「瀬戸市史民俗調査報告書三赤津・瀬戸地区」刊行	8. 2	「瀬戸市ノベルティ・こども創造館」オープン
				8. 2	「瀬戸市資源リサイクルセンター」オープン
				9. 25	愛・地球博の前売り入場券販売開始
				10. 23	東海環状自動車道潮見トンネル(瀬戸市白岩町~岐阜県笠原町深山)上り線貫通式
				11. 8	「愛・地球博開幕 500 日前記念イベント」瀬戸市内で開催
				11. 18	瀬戸市とりモージュ市(フランス)との間で姉妹都市提携調印

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 15	2003			12. 1	中京圏で地上波デジタル放送開始
16	2004	1. 31	「瀬戸市史資料編四 近世」刊行	3. 20	県道愛知青少年公園線の「瀬戸菱野トンネル」開通
		1. —	「惣作・鐘場遺跡」から瀬戸で初の城館跡が出土	3. 25	「愛・地球博開幕 1 年前イベント」開催（名古屋市東区・オアシス 21）
		2. 6	上半田川・下半田川両自治会が所有する「笠原村・両半田川村国境争論絵図」を市文化財に、水南小学校敷地内にある「マメナシ」の木を市天然記念物に指定	4. —	県教育委員会が H16 年度から「小中連携」研究校を瀬戸市、知多市、額田町 3 地域で小中各 1 校の計 3 組を指定
		2. 9	教師の指導を補助するボランティア「学校サポーター」を募集開始	4. 1	瀬戸市の人口 2 年連続で減少（131,944 人）
		2. 19	「瀬戸の教育創造をすすめる会」を文化センターで開催	4. 1	愛・地球博の全期間入場券を販売開始
		3. 4	同会をやすらぎ会館で開催	4. 1	フランスのリモージュ市に瀬戸事務所を開設
		4. 1	「瀬戸市歴史民俗資料館」が来年オープン予定の「瀬戸蔵ミュージアム」へ展示物を移設準備するため休館	4. 21	チュニジアのナブール市と姉妹都市提携調印
		4. —	本山中・道泉小・深川小の 3 校が県教委より「小中連携研究校」に指定	9. 30	愛・地球博瀬戸会場で大陶壁の設置作業が着々と進行
		4. 28	「大学コンソーシアム（連携）せと」のカレッジ講座開講	10. 7	皇太子殿下、愛・地球博の名誉総裁として万博会場を再視察
		6. 9	「地域別 瀬戸の教育創造をすすめる会」を 8 中学校区で 7 月まで順次開催	10. —	「やまて坂」、「みずの坂」等の市有財産 41 区画の宅地を売却するため一般公募
		8. 15	総合型地域スポーツクラブ「品野スポーツクラブ」発足	11. 10	チュニジアの政府代表が来訪
		8. 20	加藤伸也氏の「陶芸・織部・黄瀬戸」が県の文化財に指定	11. 16	姉妹都市フランス・リモージュ市へ訪問団派遣
		9. —	品野中学校運動場に夜間照明が完成	11. 21	川平町の「定光寺ほたるの里」増設整備完了
		9. —	H. 18 年度から市内全小中学校を対象に「隣接学校選択制」を導入することを決定（品野台小学校は「特認校」）	11. 27	東名高速道路と愛知万博長久手会場を結ぶ「名古屋瀬戸道路」が開通
		10. 1	「大学コンソーシアム（連携）せと」結成の連携事業により、瀬戸市立図書館で近隣六大学の蔵書が利用可能となった	12. 14	陶原町に資源ごみのリサイクルセンターがオープン
		10. 29	「瀬戸市史民俗調査報告書四品野地区」刊行	12. 15	瀬戸市文化センター美術展示ホールが瀬戸市美術館に改称
17	2005	2. —	パルティせと（4 階）に生涯学習課・情報ライブラリー設置	2. 19	栄町に「パルティせと」オープン
		2. 3	小中学校行事による愛・地球博の入場料負担を決定	2. 27	愛・地球博瀬戸会場にやきものモニュメント「天水皿」の竣工
				3. 3	せと・やきもの世界大交流無料回遊バス運行ルート決定

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考	
H. 17	2005	2. 10	宝泉寺が所有する「古瀬戸瓶子」を市文化財に、菱野文化財調査保存会が所有する「菱野のおでく」を市文化財に指定	3. 16	国内最大の招き猫博物館「招き猫ミュージアム」が開館	
		2. 28	瀬戸市史「資料編三 原始・古代・中世」を刊行	3. 19	蔵所町に「瀬戸蔵」オープン	
		3. 一	瀬戸市教育アクションプラン策定	3. 19	東海環状自動車道の豊田東一美濃関が開通	
		3. 19	瀬戸蔵(2階～3階)内に瀬戸蔵ミュージアム開館	3. 25	愛・地球博開幕、「瀬戸市の日」開催	
		4. 1	「隣接学校選択制」の試行	3. 28	名古屋工業大学とセラミック研究連携のため協定書調印	
		4. 1	幡山東小・長根小の学校給食調理業務委託化	3. 28	コンゴ政府代表が来訪	
		4. 6	瀬戸市名誉市民の日本芸術院会員長江録弥氏(川崎市在住)が逝去	3. 一	瀬戸旭準看護学院閉校	
		5. 29	瀬戸市無形文化財保持者(陶芸・灰釉技法)の鈴木八郎氏が逝去	4. 一	せとっ子未来計画策定	
		6. 24	愛知県無形文化財保持者(陶芸・灰釉系技法)の加藤舜陶氏が逝去	4. 一	瀬戸市特定事業主行動計画策定	
		7. 25	全日本ジュニアテコンドー選手権大会・女子バンタム級で幡山中学校・間瀬有梨佳さんが優勝	4. 3	名鉄瀬戸線開通 100周年	
		8. 21	和道会ワールドカップ国際大会で古橋卓也さんが男子個人形の部で優勝	5. 2	中国・景德鎮市長が来訪	
		12. 26	白坂町の雲興寺鐘楼が国の登録文化財(建造物)に登録される	5. 25	瀬戸市福祉マップを作製、配布	
					6. 22	チュニジア・ナブール市長が来訪
					7. 8	フランス・リモージュ市長が来訪
			7. 12	天皇、皇后陛下が愛・地球博の長久手、瀬戸両会場を訪問		
			8. 28	愛・地球博で2度目の「瀬戸市の日」開催		
			9. 13	韓国・利川市長が来訪		
			9. 25	愛・地球博閉幕		
			9. 一	県が海上の森を自然環境保全地域に指定する新条例を検討		
			10. 5	愛・地球博のマスコットキャラクター、モリゾーとキッコロが瀬戸市海上の森に特別住民登録		
			11. 1	瀬戸蔵に「産業支援センターせと」が開設		
18	2006	2. 5	「瀬戸の教育市民フォーラム」開催	2. 19	瀬戸市名誉市民の元市長加藤繁太郎氏が逝去	
		2. 10	「陶芸・黄瀬戸」「陶芸・織部」を無形文化財に指定し、その保持者に加藤廉平氏及び加藤錦三氏を認定。また、有形文化財に万徳寺の「聖徳太子絵伝」4幅、典籍「聖徳太子伝」5冊と「松原広長寄進状」1点を指定	3. 15	コミュニティFM局開設	
		2. 28	「瀬戸市史資料編五 近現代1」及び「瀬戸市史 民俗編」発刊	3. 31	フランスのリモージュ瀬戸事務所を閉鎖	
		4. 1	「隣接学校選択制」の施行	3. 一	「瀬戸市第5次総合計画」策定	
		4. 1	陶原小の学校給食調理業務委託化		「瀬戸市地域福祉計画」策定	
		4. 15	世界ジュニアテコンドー選手権大会日本代表選考会バンタム級で聖カピタニオ高校 間瀬有梨佳さんが優勝		「瀬戸市行政改革集中改革プラン」策定	
		4. 15		4. 1	赤津保育園、品野南保育園休園	
				4. 1	市消防本部初の女性消防士誕生	
		4. 1	陶原小学校内に「せとっ子モアスクール」開設			
		4. 20	韓国・利川市と姉妹都市提携締結			
		4. 24	「海上の森」の一部が「愛知県自然環境保全地域」に指定			

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 18	2006	6. 16～ 9. 15 6. 30～ 6. 23 6. 26 7. 23 7. 28 8. 20 9. 27 10. 1 10. 7 10. 9 11. 17 ～19 11. 19	幡山・光陵中学校屋内運動場耐震補強工事 東山小学校校舎増築・耐震補強工事（～H19. 8. 17） 瀬戸市教育アクションプラン推進会議発足 「市理科教育研究会」が環境省水・大気環境局長より水・土壌環境保全功労者表彰 全日本ジュニアテコンドー選手権大会で效範小学校 黒田温さんが優勝 東明小学校が中国・内モンゴルへ訪問団を派遣 中学生訪問団が姉妹都市フランス・リモージュ市へ 「広久手第 30 号窯跡」市史跡に指定 パルティセと・情報ライブラリーで図書等の貸出開始 品野台小学校に「地域図書館」開設 あいち共同利用型施設予約システムでのスポーツ施設利用予約開始 「まるっとせとっ子フェスタ 2006」開催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開催「いじめ」の根絶を訴える緊急アピール発表	9. 25 10. 15 11. — 12. 23	「あいち海上の森センター」開所 「せとっ子ファミリー交流館」開館 瀬戸市文化協会創立 20 周年 コミュニティバスの試験運転開始
19	2007	1. 8 3. 27 4. — 4. 25 5. 18 6. 29～ 9. 14 6. 29～ 7. 1	南山中学校男子卓球部、全国中学選抜卓球大会県予選会で優勝 「瀬戸市史通史編 上」発刊 「瀬戸市史資料編六 近現代 2」発刊 效範小・原山小の学校給食調理業務委託化 全国学力・学習状況調査実施 「陶芸・灰釉」「陶芸・色絵磁器」を市無形文化財に指定し、その保持者に田沼春二氏及び林邦佳氏を認定 水野小学校屋内運動場耐震補強工事 西稜小学校校舎増築・耐震補強工事（～H20. 3. 14） 市民公園陸上競技場芝張替工事完成	2. 4 3. — 4. 1 4. 8 4. 22 5. 24 7. 29 9. 1	愛知県知事選挙 幡山保育園休園 自治法改正により助役を廃し副市長を設置 愛知県議会議員選挙 市長・市議会議員選挙 瀬戸商工会議所創立 60 周年 参議院議員選挙 道泉小学校内に「せとっ子モアスクール」開設

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 19	2007	7. 6 7. 10～ 9. 28 8. 30 10. 3 11. — 11. 9 ～11 11. 11 11. 18 12. — 12. 21 ～	中国景德鎮市から中高生訪問団 来訪 祖東・水野中学校屋内運動場耐震 補強工事 総合型地域スポーツクラブ「水 野・西陵いきいきクラブ」発足 本山中学校の姉妹提携校オーストラ リア・ロビビル・セカンダリー・カレッジ 生徒来訪 ニュージーランド・オークランド市の中学生 来訪、水野中学校・祖東中学校で 交流 「まるっとせとっ子フェスタ 2007」 開催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開 催 陶原小学校体育館火災 八幡小学校キャリア教育「お店を 出そうプロジェクト」で文部科学 大臣表彰受賞 陶原小学校屋内運動場解体工事 (～H20. 2. 18)		
20	2008	2. 18 2. 29 3. — 3. — 3. 31 4. 1 4. 1 4. — 4. 22 5. 7 5. 9 6. 20～ 9. 19 6. 20～ 10. 10	中国・内モンゴル自治区フフトカ 市カイワジ小学校児童が東明小 小学校を訪問 市立小学校(20校)に防犯カメラ 設置 西陵小学校校舎増築・耐震補強工 事 図書館耐震補強・アスベスト撤 去・トイレ・駐車場等改修工事 補助執行事務に関する協定書の 締結(社会教育・社会体育関係の 事務を追加) 教育委員会組織の一部改編 (学び課と交流課を統合) 図書館開館時間の変更及び受付 業務の委託開始 「子ども読書活動推進計画」策定 全国学力学習状況調査実施 愛知県立大学とボランティア学 生派遣に関する協定を締結 「陶芸 御深井」を市無形文化 財に指定し、その保持者に加藤 唐三郎氏を認定 幡山中学校運動場照明設置工事 水無瀬・本山中学校屋内運動場耐 震補強工事	1. — 3. 1 3. 25 3. 25 4. 1 7. 21 8. — 10. 1	瀬戸市体育協会設立 60 周年 町名設定(東山町) 緊急防災放送システム完備 レジ袋の有料化(市内一部店舗) スタート 教育三法(学校教育法・地方教 育行政の組織及び運営に関する 法律・教育職員免許法及び教育 公務員特例法)の改正 陶原小学校・道泉小学校プール 開放実施 「男女共同参画推進会議」・「男 女共同参画推進委員会」設置 八幡小学校内に「せとっ子モア スクール」開設

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 20	2008	6. 23～	南山中学校大規模改造・耐震補強工事（～H21. 9. 30）		
		6. 23～	萩山小学校・瀬戸養護学校大規模改造及び耐震補強工事（～H21. 12. 25）		
		6. 27～	水南・幡山西・原山小学校屋内運動場耐震補強工事		
		9. 19			
		9. 12	「菱野おでく警固祭り」を市無形民俗文化財に指定		
		9. 12	「古文書 菱野郷倉文書」・「典籍 大般若経」を市指定有形文化財に指定		
		10. 1	教育委員の定数を増員（5名から7名に増員）		
		10. 4	光陵中学校に「地域図書館」開設		
		11. —	「瀬戸市教育委員会の活動の自己点検・評価報告書」公表		
		11. 6	「まるっとせとっ子フェスタ2008」		
		～9	開催		
		11. 9	「瀬戸の教育市民フォーラム」		
			開催		
		12. —	「瀬戸市立学校施設耐震化計画」策定		
21	2009	1. 30～	陶原小学校屋内運動場敷地造成工事	2. 28	とうめい新聞廃刊
		7. 17		3. 20	「瀬戸万博記念公園（愛・パーク）」オープン
		3. 27	「塚原古墳群発掘調査報告書」刊行	4. 1	深川保育園・今村保育園休園
		3. 31	「紺屋田A窯跡発掘調査報告書」刊行	4. 1	養護老人ホーム「陶寿荘」民間に移管
		3. 31	「特別天然記念物オオサンショウウオ生息分布調査報告書」刊行	4. 20	定額給付金振込開始
		4. 1	東山小の学校給食調理業務委託化	6. 24	市内で新型インフルエンザ患者確認
		4. 21	全国学力・学習状況調査実施	8. 5	市制施行 80 周年記念「まるっと・せとっ子議会」開催
		5. 14～	陶原小学校屋内運動場新築工事（～H22. 1. 15）	～6	
		5. 20～	道泉小学校校舎耐震補強工事	9. 30	JRバス一般路線撤退
		10. 23		10. 1	瀬戸市制施行 80 周年
		5. 20～	幡山中学校校舎耐震補強工事	10. 1	長根小学校内に「せとっ子モアスクール」開設
		10. 23			
		6. 19～	東山・八幡小学校屋内運動場耐震補強工事		
		9. 18			
		7. 6	景德鎮市中学生訪問団来訪		
		～8	祖東中学校で交流		
		10. 3	西陵小学校に「地域図書館」開設		
		11. 12	「まるっとせとっ子フェスタ2009」		
		～15	開催		
		11. 15	「瀬戸の教育市民フォーラム」		
			開催		

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 21	2009	11. 15 ～	萩山小学校・瀬戸養護学校環境整備工事（～H22. 3. 29）		
22	2010	2. 26 3. 一 4. 1 4. 9 4. 20 4. 23 4. 28 5. 12 6. 11～ 10. 29 6. 18 6. 18 7. 30 ～8. 7 8. 4 ～13 10. 9 11. 11 ～14 11. 14	陶原小学校体育館竣工式 瀬戸養護学校竣工 瀬戸市立瀬戸養護学校（さくらんぼ学園）設立 幡西小の学校給食調理業務委託化 開校式及び入学式を挙行 全国学力・学習状況調査を抽出校において実施 瀬戸市立図書館「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣賞を受賞 「瀬戸永泉教会礼拝堂」を登録有形文化財として登録 「瀬戸市史通史編 下」発刊 陶原小学校耐震補強工事 祖母懐小学校耐震補強工事 水野小学校耐震補強工事 長根小学校耐震補強工事 「工芸技術 有線七宝」を市無形文化財に指定し、その保持者に柴田明氏を認定 「工芸技術 陶芸 練り込み」を市無形文化財に指定し、その保持者に水野教雄氏を認定 本山中学校オーストラリアへホームステイ派遣 水野中学校ニュージーランドへホームステイ派遣 水野小学校に「地域図書館」開設 「まるっと せとっ子フェスタ2010」開催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開催	3. 25 7. 11 7. 21 10. 3 10. 一 10. 一 10. 1	「新大橋」架け替え工事 「新共栄橋」へ名称変更 参議院議員選挙 八幡小学校プール開放実施 西陵地域交流センターオープン 収納コールセンター開設 瀬戸市景観計画策定 原山小学校内に「せとっ子モアスクール」開設
23	2011	3. 6 4. 1 5. 一 6. 1 6. 1～ 6. 8～ 11. 11	スポーツ功労者表彰 新学習指導要領の実施 西陵小の学校給食調理業務委託化 東日本大震災による被災児童・生徒のホストファミリー募集開始 下品野小学校蛇ヶ洞浄水場見学 効範小学校校舎増築・耐震補強工事（～H24. 3. 16） 八幡小学校校舎耐震補強工事	3. 1 3. 26 4. 3 4. 9 4. 20 4. 24 6. 一 10. 1 10. 1	第2次環境基本計画策定 道の駅瀬戸しなの開場 しなのバスセンターオープン 品野台地域交流センターオープン 給水支援隊、東松島市へ派遣 東松島市へ陶器類提供 瀬戸市長選挙および瀬戸市議会議員選挙 食器6万4千個東松島市に提供 瀬戸市暴力団排除条例施行 水南小学校内に「せとっ子モアスクール」開設

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 23	2011	6. 10～ 11. 4	品野中学校校舎耐震補強工事		
		6. 10～ 11. 11	本山中学校校舎耐震補強工事		
		6. 14～ 10. 26	東明小学校校舎耐震補強工事		
		6. 15～ 9. 30	下品野小学校校舎耐震補強工事		
		6. 30	效範小学校3年生市役所見学		
		7. 13～ 10. 7	深川小学校校舎耐震補強工事		
		8. 2	名古屋学院大学とボランティア 学生の派遣などに関する協定に 調印		
		8. 5	「まるっとせとっ子議会」開催		
		10. 1 ～2	第8回日本オオサンショウウオの 会瀬戸大会開催		
		10. 15	東山小学校に「地域図書館」開設		
		11. 10 ～13	「まるっとせとっ子フェスタ2011」開 催		
		11. 13	「瀬戸の教育市民フォーラム」開 催		
24	2012	2. 5	せと歴史と文化財を知る見学会 の実施	1. 1	通院医療費の無料化を中学3年 生まで拡大
		4. 2	第8代教育長 深見和博就任	2. 一	のぞみ学園園舎増築
		4. 一	全国学力・学習状況調査を抽出校 において実施	3. 一	瀬戸市地場産業振興ビジョン策 定
		6. 1～ 9. 28	古瀬戸小学校校舎耐震補強工事	3. 1	第2次瀬戸市男女共同参画プラ ン策定
		6. 1～	水南小学校校舎耐震補強工事	4. 1	道泉地域交流センターオープン
		10. 19	光陵中学校校舎耐震補強工事	4. 14	陶祖800年祭オープニング事業 「陶祖・藤四郎フォーラム」開 催
		6. 1～ 11. 2	南山中学校校舎（技術棟）耐震補 強工事	10. 1	下品野小学校内に「せとっ子モ アスクール」開設
		6. 22～ 9. 21	效範小学校環境整備工事	11. 1	不活化ポリオワクチンとDPT （尺日せき・ジフテリア・破傷 風）の4種混合ワクチン定期予 防接種となる
		6. 22～ 10. 5	水無瀬中学校校舎耐震補強工事	12. 1	瀬戸・尾張旭消防指令センター の運用開始
		6. 22～ 10. 12	祖東中学校校舎耐震補強工事	3. 1	瀬戸市建築物耐震改修促進計画 改訂
		6. 22～ 10. 26	掛川小学校「お茶会」開催		
		6. 29～ 10. 19	幡山東小学校校舎耐震補強工事		
		7. 27～ 8. 5	本山中学校オーストラリアへホ ームステイ派遣		
		8. 1～ 10. 26	幡山西小学校校舎耐震補強工事		

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 24	2012	8. 2～ 8. 11 8. 2～ 8. 11 9. 21～ 9. 27 9. 24～ 10. 1 9. 25～ 9. 30 11. 8 ～11 11. 11 12. 7 ～	祖東中学校ニュージーランドへ ホームステイ派遣 水野中学校ニュージーランドへ ホームステイ派遣 本山中学校オーストラリアから ホームステイ受入 水野中学校ニュージーランドか らホームステイ受入 品野中学校ニュージーランドか らホームステイ受入 「まるっと せとっ子フェスタ 2012」開 催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開 催 陶原小学校外 15 校緊急地震速報 設置工事（～H25. 1. 18）		
25	2013	2. 一 2. 28 3. 14 3. 18 3. 18 3. 28 4. 1 4. 14 4. 23～ 6. 14 5. 10～ 2. 28 6. 28～ 8. 10 11. 14 ～17 11. 17	図書館施設等安全安心事業とし て書架固定工事、書籍落下防止工 事、飛散防止フィルム施工 「洞窯跡・東洞 A 窯跡」刊行 校光陵校舎大規模改造工事 「古瀬戸瓶子」を市有形文化財 （工芸）に指定 「品野祇園祭の神武天皇像およ び従者像」を市有形民俗文化財に 指定 「市内遺跡調査報告Ⅵ 品野中部 遺跡・穴田古窯跡群・石田遺跡」 刊行 水南小の学校給食調理業務委託 化 全国学力・学習状況調査実施 小学校校舎増築・耐震補強工事 塚原内 1 号墳歴史広場の公開開始 深川小学校外 11 校緊急地震速報 設置工事 幡山中学校校舎増築・改造工事 光陵中学校・（仮称）瀬戸養護学 校 せと歴「深川神社本殿の保存修理 工事見学会」の開催 「まるっとせとっ子フェスタ 2013」開 催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開催	4. 1 5. 1 5. 31 6. 9 7. 30 8. 1～2 9. 26～ 10. 2 10. 1	第 2 次いきいき瀬戸 21 健康日 本 21 瀬戸市計画策定 市庁舎増改築整備工事開始 名鉄「新瀬戸駅」の南口交通広 場が完成 山口・菱野・本地地区参加の「郷 社祭り」開催 瀬戸市子ども・子育て会議開催 六角陶碑第 2 次内部調査を行う 瀬戸市・リモージュ姉妹都市提 携 10 周年記念事業「瀬戸市公 式訪問団」リモージュ市派遣 效範小学校内に「せとっ子モア スクール」開設
26	2014	3. 28 3. 28	「穴田窯跡Ⅰ-遺構編-」刊行 「市内遺跡調査報告Ⅶ 若宮遺跡 （若宮町 3-84 地点）」刊行	4. 19～ 9. 30	陶祖 800 年祭記念「藤四郎フェ スティバル」の開催 利川市訪問団が来訪

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 26	2014	4. 1	教育委員会組織の一部改編 (教育総務課と学校教育課を統 合)	10. 1	幡山西小学校内に「放課後学級」 開設 市役所新庁舎完成
		4. 8	瀬戸特別支援学校光陵校舎開校	11. 1	
		4. —	全国学力・学習状況調査実施		
		4. —	「子ども読書活動推進計画(第二 次)」策定		
		6. 6	瀬戸市教育委員会と愛知県瀬戸 警察署との協定書の締結		
		7. 25～	本山中学校オーストラリアへホ ームステイ派遣		
		8. 4			
		7. 31～	祖東中学校ニュージーランドへ ホームステイ派遣		
		8. 9			
		9. 27～	水野中学校ニュージーランドへ ホームステイ派遣・受入		
		10. 3			
		9. 27～	品野中学校ニュージーランドへ ホームステイ受入		
		10. 3			
		9. 29	瓶子窯跡北側里山林を「瓶子の 森」として一体で整備するため公 有地化		
		10. 6	「志段味古墳群 尾張戸神社古 墳」が国指定史跡に追加指定		
		11. 13	「まるっとせとっ子フェスタ2014」開 催		
		11. 16	「瀬戸の教育市民フォーラム」開催		
		11. 28～	小・中学校屋内運動場非構造部材 落下防止対策工事		
		3. 20			
		11. 30	せと歴「品野の中馬街道を歩く」 の開催		
12. 26	小・中学校消防設備・防火扉改修 工事				
～3. 20					
27	2015	1. —	瀬戸市いじめ防止基本方針策定	5. 1	伊藤保徳市長就任 水野小学校、掛川小学校内に「放 課後学級」開設 マイナンバー制度開始
		2. 6	歴史的建造物「旧山繁商店」の公 有化	10. 1	
		2. 27	「六角陶碑一字一石経 整理報告 書」刊行	10. 5	
		3. 21	東洞A窯跡現地説明会開催 無形民俗文化財記録DVD「郷社祭 り」制作 文化財紹介DVD「風にのって」「瀬 戸に暮らす～洞地区～」制作		
		3. 27	「市内遺跡調査報告Ⅶ 今村城 跡」刊行		
		3. 31	「東印所A窯跡」刊行		
		7. 6～	瀬戸市体育館第1競技場耐震補 強工事		
		3. 25			
		10. 7	国史跡小長曾陶器窯跡が「瀬戸窯 跡 小長曾陶器窯跡」となり「瀬 戸窯跡 瓶子陶器窯跡」が国指定		

和 暦	西 暦	月 日	瀬 戸 市 の 教 育	月 日	参 考
H. 27	2015	11. 7 11. 12 11. 15 11. 17	史跡に追加指定 せと歴「瀬戸の古墳 再発見」の 開催 「まるっとせとっ子フェスタ 2015」開 催 「瀬戸の教育市民フォーラム」開催 「旧山繁商店 離れ・事務所・旧 事務所・土蔵・新小屋・前倉庫・ 中倉庫・奥倉庫・塀」が国登録文 化財(建造物)に登録		
28	2016	1. 7 2. 20 3. 25 3. 31 4. 1 10. 1	歴史文化基本構想第1回策定委員 会開催 桂蔵窯跡現地説明会開催 瀬戸市立図書館整備基本構想策 定 「若宮遺跡-若宮町3丁目130番 地点の調査-」・「大坪西遺跡」刊 行 原山小学校に「日本語初期指導教 室」開設 教育委員会に「教育サポートセン ター」開設 3名のスクールソーシャルワー カーを配置 新教育委員会制度の下、教育委員 長と教育長を一本化した「新教育 長」を置く	10. 1	祖母懐小学校、東山小学校内に 「放課後学級」開設

2 教育関係施設一覧

名 称	所 在 地	電 話 番 号
瀬戸市役所	瀬戸市追分町64番地の1	82-7111
陶原小学校	〃 原山町1番地の3	82-2243
深川小学校	〃 宮脇町53番地	82-2272
祖母懐小学校	〃 萩殿町2丁目178番地	82-2273
道泉小学校	〃 道泉町44番地	82-2474
效範小学校	〃 效範町1丁目1番地	82-3050
東明小学校	〃 東明町50番地	82-5501
古瀬戸小学校	〃 古瀬戸町70番地	82-2392
水野小学校	〃 小田妻町2丁目22番地	48-1098
水南小学校	〃 東松山町154番地	82-2084
幡山東小学校	〃 八幡町455番地	82-4404
幡山西小学校	〃 幡西町203番地	82-4394
下品野小学校	〃 品野町6丁目223番地	41-0074
品野台小学校	〃 上品野町1234番地	41-0041
掛川小学校	〃 下半田川町592番地の41	48-5151
長根小学校	〃 東長根町166番地	82-9640
原山小学校	〃 原山台3丁目98番地	21-3804
東山小学校	〃 東山町71番地	21-2801
萩山小学校	〃 萩山台2丁目22番地	83-3650
八幡小学校	〃 八幡台3丁目1番地	82-4445
西陵小学校	〃 すみれ台1丁目77番地	48-1993
水無瀬中学校	〃 原山町1番地	82-3098
祖東中学校	〃 中山町1番地	82-2244
南山中学校	〃 ひまわり台5丁目1番地	48-1212
本山中学校	〃 道泉町76番地の1	82-2363
幡山中学校	〃 幡中町106番地	82-4393
品野中学校	〃 広之田町2番地の5	41-0019
光陵中学校	〃 萩山台9丁目244番地	21-4660
水野中学校	〃 日の出町34番地	48-4698
瀬戸特別支援学校	〃 萩山台2丁目22番地	76-4391
瀬戸特別支援学校光陵校舎	〃 萩山台9丁目244番地	76-2263
陶原公民館	〃 熊野町98番地	83-3579
深川公民館	〃 宮脇町53番地	82-0453
祖母懐公民館	〃 上ノ切町43番地	82-9304
古瀬戸公民館	〃 西拝戸町16番地の10	83-8741
東明公民館	〃 西拝戸町16番地の3	82-8024
效範公民館	〃 北山町39番地	82-1095

名 称	所 在 地	電 話 番 号
長根公民館	瀬戸市城屋敷町22番地	85-0911
水南公民館	〃 東松山町154番地	21-2556
水野公民館	〃 中水野町1丁目150番地	48-1112
山口公民館	〃 田中町108番地	87-0700
幡山公民館	〃 幡山町71番地	87-4000
下品野公民館	〃 品野町6丁目105番地	41-4118
掛川公民館	〃 定光寺町1206番地	48-6165
原山公民館	〃 原山台8丁目163番地	83-9231
萩山公民館	〃 萩山台4丁目2番地の2	84-2088
八幡公民館	〃 八幡台1丁目145番地の2	82-9456
図書館	〃 東松山町1番地の2	82-2202
学校給食センター	〃 日の出町34番地の2	48-7600
市民公園(交流学び課スポーツ係)	〃 上本町1番地	48-0500
定光寺野外活動センター	〃 鹿乗町1231番地	48-0770
公立瀬戸旭看護専門学校	〃 進陶町6番地の1	85-2220
聖霊中学校	〃 せいれい町2番地	21-3121
聖霊高等学校	〃 せいれい町2番地	21-3121
南山大学瀬戸キャンパス	〃 せいれい町27番地	89-2000
瀬戸高等学校	〃 東山町1丁目5番地	82-7710
瀬戸窯業高等学校	〃 東権現町22番地の1	82-2003
瀬戸西高等学校	〃 緑町1丁目140番地	84-7400
瀬戸北高等学校	〃 本郷町260番地	48-1500
聖カピタニオ女子高等学校	〃 西長根町137番地	82-7711
名古屋学院大学瀬戸キャンパス	〃 上品野町1350番地	42-0350
愛知県立窯業高等技術専門校	〃 南山口町538番地	21-6666
瀬戸ひなご幼稚園	〃 紺屋田町93番地の41	82-7760
雪の聖母幼稚園	〃 東長根町91番地	82-6409
マリア幼稚園	〃 苗場町8番地	82-9749
真貴幼稚園	〃 原山台2丁目23番地の2	21-4127
菱野幼稚園	〃 萩山台7丁目13番1号	83-3651
はちまん幼稚園	〃 八幡台4丁目14番1号	83-8703
瀬戸幼稚園	〃 すみれ台4丁目40番地の5	48-4800

瀬戸市の教育

(平成28年度版)

平成28年12月発行

編集・発行

瀬戸市教育委員会
瀬戸市追分町64番地の1
TEL (0561)88-2750(直通)